

龍谷大学文学部臨床心理学科

設置の趣旨等を記載した書類

平成 23 (2011) 年 4 月

■ 目 次 ■

ア 設置の趣旨及び必要性	1
イ 学部、学科等の特色	5
ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称	7
エ 教育課程の編成の考え方及び特色	8
オ 教員組織の編成の考え方及び特色	12
カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	13
キ 施設、設備等の整備計画	17
ク 入学者選抜の概要	19
ケ 資格取得	21
サ 学外実習	21
ス 編入学定員	22
セ 2つ以上の校地において教育を行う場合	22
ツ 管理運営	22
テ 自己点検・評価	23
ト 情報の公表	24
ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組	27
ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	28

【添付資料】

- 資料① 「龍谷大学文学部臨床心理学科 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻
設置構想に係るニーズアセスメント調査」《抜粋》
- 資料② 「文学部臨床心理学科カリキュラム図」
- 資料③ 「文学部臨床心理学科 学科内領域構成一覧」
- 資料④ 「文学部臨床心理学科 科目区分別 開講科目一覧」
- 資料⑤ 「文学部臨床心理学科履修モデル」
- 資料⑥ 「文学部臨床心理学科 編転入学生用履修モデル」
- 資料⑦ 「龍谷大学キャリア開発支援体系図」
- 資料⑧ 「職員定年規程」
- 資料⑨ 「特別任用教員規程」

ア 設置の趣旨及び必要性

1. 龍谷大学臨床心理学科の設置の趣旨

龍谷大学は、寛永 16 (1639) 年に浄土真宗本願寺派の教育機関「学寮」として創立して以来、浄土真宗の精神（親鸞精神）を建学の理念とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人材を養成することを目的において発展を遂げてきた。現在、文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、政策学部の 8 学部をはじめとして、それぞれに研究科を設置し、短期大学部及び法務研究科（法科大学院）を含めて、8 学部 1 短大 9 研究科 1 専門職大学院を擁する総合大学となっている。

今回新設する「文学部臨床心理学科」の設置母体である「文学部哲学科教育学専攻」は、旧制大学令によって、大正 11 (1922) 年に龍谷大学が発足して以来、多くの人材を輩出してきた長い歴史と伝統を有している。

また、同教育学専攻を基礎として、平成 6 (1994) 年 4 月に文学研究科教育学専攻修士課程を、平成 12 (2000) 年 4 月には同博士後期課程を設置し、「教育学領域」「教育心理学領域」の両分野における高度な専門的能力を有した人材養成に努めてきた。さらに、平成 14 (2002) 年 4 月には、新たに「臨床心理学領域」を設け、専攻分野における研究能力の向上と、専門性を要する臨床心理学領域の職能に必要な実践能力の養成をめざしてきた。

哲学科教育学専攻においては、平成 6 (1994) 年から第 5 セメスター以降の専攻内コースとして「教育学コース」と「教育心理学コース」を設置し、心理学全般に関心を持つ学生の教育を始めた。大学院修士課程の「臨床心理学領域」設置に合わせて、平成 15 (2003) 年度から「教育心理学コース」を「教育臨床心理学コース」へ改組し、臨床心理学を基礎とした教育・研究を学段落階から行っている。

龍谷大学は、建学の精神を今日的に具現化した「共生^{ともいき}」の哲学を基底におき、総合大学として、それぞれの学問分野において、多大な実績を積み上げてきた。共生という考え方は、地球上の人類を含むすべての生物が、様々な関係を持ちながら、相互に影響し依存しあい、調和を保って共存しており、それを感謝の気持ちで受けとめること、すなわち「人と人との共生」と「自然と人間との共生」を、共生の理念のもとに実現しようとするものである。こうした理念にもとづき、哲学科教育学専攻において、長年に渡り教育の実績を積み重ねてきた「臨床心理学」という学問分野を、龍谷大学文学部における教学の柱のひとつとして学内外に示すことに大きな意義がある。さらに、独立した学科として教育の目的や養成する人材像を明確に示すことにより、優秀な人材を確保し、社会から求められている人材養成に積極的に応えるために、文学部哲学科教育学専攻から「臨床心理学」領域を分離独立させ、新たに「文学部臨床心理学科」を設置することとした。

2. 龍谷大学文学部臨床心理学科の設置の必要性

現代社会には多くの課題が存在しており、人々は精神的・心理的な安定を求めながらも、それを維持・継続することさえ困難な状況である。狭義の臨床心理学において、これまでは、個人を対象としたカウンセリング等の個別的支援が学問的な中心テーマであった。しかし、現代社会においては、多彩な心理的課題への対応が急務とされている。こうした現代社会の課題に対して、解決の筋道を示すことができる存在として、臨床心理学を基礎とした対人援助の基本スキルや知識を有する職業人への期待は強い。

しかし、現在、数多くある心理学領域の学部教育においては、実験心理学を中心とした科学的

実証を重視する心理学を主軸として展開されており、対人援助に必要なスキルを修得するための教育は、ほとんど実践されていない状況にある。

また、現代社会においては、医療・福祉学、教育学、宗教学といった心理学の近接領域における主要な専門家を支援できる、対人援助を基本とした職業人—例えば、総合病院や高度医療機関における「医療コーディネーター」、特別支援教育の対象となる発達障がい等の子どもたちの個別の発達・学習を支援する「学習・生活支援者」、全国の児童養護施設に入所している被虐待児の社会適応のための日常的支援を行う「生活指導員」や「児童指導員」、身体的・精神的リハビリテーションに心理学的側面から関与する「グループワークの支援者」、高齢者への介護にかかわる関係者への「心理的支援者」等—の養成が求められている。加えて、それぞれの領域におけるクライアント等の被援助者への心理学的対応だけでなく、チームとして取り組む際の対人援助の基本的姿勢を把握した職業人の養成が必要とされている。しかし、医療・福祉学、教育学、宗教学等の主要な心理学の近接領域では、援助のための高度な技能修得のための教育が重視されるあまり、対人援助の基礎である対人コミュニケーション・スキルの修得が十分とは言えない状況である。

さらに、社会的に心理的困窮を訴える人に対する援助の期待・要請は高くなっている。学校教育法の改正により平成 19（2007）年度から特殊教育や障がい児教育に代わり、特別支援教育という名称となり、個々の子どもに対する支援が必要とされている。この改正に伴い、教育職員免許法も改正され、従来の「養護学校教諭免許状」から「特別支援学校教諭免許状」となった。そして、学校教育でのスクールカウンセラーの必要性が提唱されるようになり、現時点で義務教育である小中学校への全校配置が文部科学省から提唱されている。加えて、これらに対応する高度専門的職業人としての臨床心理士への要請だけでなく、教育現場での子どもの心の問題に対して適切な対応ができる教育支援職員の養成が求められている。

加えて、龍谷大学は浄土真宗本願寺派の宗門校であることから、入学希望者の中には寺院の子弟も少なくない。こうした学生は、将来的に僧侶としての社会的活動や、坊守として寺院を支える役割を担うことが多く、そこでは必然的に対人援助の技能が求められることになる。建学の精神を重視するに留まらず、日常的な寺院活動における対人援助を有効に実践・応用していくには、臨床心理学を基礎とした対人援助のためのコミュニケーション・スキルの修得は有効であり、そのような実践能力を有する人材の養成が求められている。

そこで、本学では、文学部哲学科教育学専攻教育臨床心理学コースのこれまでの教育研究の成果と人材養成の実績を基盤として、新たに「文学部臨床心理学科」を設置することとした。

臨床心理学科では、臨床心理学を基礎とした対人援助を理解し、効果的な対人援助のコミュニケーション・スキルを修得した職業人の養成をめざすとともに、現代社会の心理的援助に対する期待に応え、社会的に多様な職能との協働的支援によって社会の安全・安心の確保と発展に貢献できる人材を養成することを使命とする。

3. 龍谷大学文学部臨床心理学科において養成する人材像

文学部「臨床心理学科」で展開する教育は、多様で複雑な社会で生じている心理的課題に対して、主体的かつ能動的に対処できるよう対人援助スキルの基礎を修得することに主眼を置いたカリキュラムを特徴としている。そして、そのスキルを活用するために、医療・福祉学、教育学、宗教学等の対人援助場面の実践にかかわる人材を養成することを自らの学問的存在意義とする。

社会全般に広く生じている解決困難な心理的課題に対して、具体的な解決に向けた方策を構築

するとともに、その解決に向けたプロセスにおいて対人援助にかかわる職業人の養成を教育の基本目的とする。そして、心理的に困窮している人の特徴を適切に把握でき、様々な対人援助スキルの基礎的な対応を実践できるようにするため、臨床心理学科では、以下の到達目標の下に教育を展開する。

①不適応や病理的問題を抱える人の行動特性の理解と援助

環境不適応に陥っている人の行動特性を理解するため、社会的な場面で示す行動特性を把握し、人がストレスを感じる場面で生じる生理学的反応としての行動特性を客観的に観察できる。

②近接する援助実践での特性の理解

臨床心理学的知識にもとづく判断ができ、対人援助を目的として機能している医療・福祉、教育、宗教等にかかわる組織特性の基礎的知識を修得するとともに、心理的課題により困窮している人に対して、適切な課題解決のための援助を実践するための効果的なコミュニケーションができる。

③援助にかかわる主体性

学問的知識の修得だけに留まらず、援助組織での体験学習等の多彩な実習プログラムを通して実践的な知識を修得することで自らが臨床心理学にもとづいた判断ができ、職業生活や社会生活において、主体的に課題解決に取り組むことができる。

4. 学生確保の見通しについて

【資料①：「龍谷大学文学部臨床心理学科 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻 設置構想に係るニーズアセスメント調査」】《抜粋》

第三者機関が平成 23（2011）年 1 月に、高校 2 年生に対して実施したアンケート調査（調査対象地域：近畿圏を中心とした西日本全域、有効回答数：600 件）では、「入学意欲」を問う設問で、本学文学部臨床心理学科に「入学したいと思う」に 21 人（3.5%）、「併願校の可否によっては入学を考える」に 76 人（12.7%）が回答している。合計で 97 人（16.2%）の高校 2 年生が、本学文学部臨床心理学科への入学に意欲を持っており、同臨床心理学科の入学定員は 92 人を予定していることから、600 人を対象とした今回の調査だけでも、入学定員の確保の見通しが立つという結果を得た。

また、今回の調査における有効回答数のうち、本学へ実際に入学する可能性が最も高いと思われる近畿エリア 2 府 4 県からの回答数は 390 件であった。近畿エリアにおける平成 22 年度の大学進学率は、約 55%（約 95,000 人）であることから、今回の調査では、その約 0.4%相当から回答を得たこととなる。

調査結果をもとにした比例計算から、正確に志願者数を算定することは困難であるが、一つの目安として、今回の調査を近畿エリアに限定して試算する。近畿エリアからの回答者（390 人）のうち、「入学したいと思う」と回答した者は 15 人（3.8%）であった。これに近畿エリアの高校 2 年生の進学希望者数（予想値）を乗じると、3,610 人となる。これは入学定員の約 40 倍となる。さらに通学圏等を考慮して京都府及び大阪府に絞って計算しても、2,000 人以上の志願者が予想される。

以上の結果から、入学定員の確保は確実であると第三者機関では分析している。

また、【資料①の外部資料①】より、近畿エリアの各大学が設置する「心理学」系の学部・学

科は、近年好調な志願状況であることがわかる。平成 23 (2011) 年 3 月現在、近畿エリアには、44 大学で「心理学」系の学部・学科が設置されている。平成 18 (2006) 年から平成 22 (2010) 年の過去 5 年間に於ける一般入試及び大学入試センター試験を利用した入試の志願者数は、平均 29,000 人で推移しており、志願者数が安定していることがわかる。一方、過去 5 年間の合格倍率もおおよそ 4 倍を保っており、「心理学」分野は他の文系分野と比して高い競争率を維持している分野であると第三者機関では分析している。

他方、本学においても、臨床心理学科の設置母体である文学部哲学科教育学専攻は、2008 年度 1,547 名、2009 年度 1,671 名、2010 年度 1,257 名と、多数の志願者数を確保しており、今回の学科新設は教育機会の提供を図ることにもつながると考える。

今後、進学相談会、オープンキャンパス、キャンパスツアー、専任教職員による高校訪問、講演会や模擬授業等の実施によって文学部臨床心理学科の特長を訴求し、受験者募集と広報活動を積極的に行うとともに、文学部臨床心理学科の教育・研究活動を広く社会に周知するため、社会一般に向けたシンポジウムの開催やホームページの充実を図る予定である。

以上のことから、本学においても入学定員 92 名の確保は十分に可能であると判断している。

5. 卒業後の進路

文学部「臨床心理学科」の学生は、他の文学部の学生と同様に民間企業や公務員、高等学校教員等への就労の可能性が考えられる。しかし、社会的要請に照らしてみた場合、医療・福祉学、教育学、宗教学等の近接領域における主要な専門家を支援する職能を有する人材の養成が求められている。その具体例を以下に列挙する。

まず、児童養護施設や情緒障がい児施設等の児童養護関連施設における心理職ではない「生活指導員」、「児童指導員」を挙げることができる。児童養護施設（全国 579 施設）、情緒障がい児短期治療施設（全国 31 施設）、児童自立支援施設（全国 58 施設）、母子生活支援施設（285 施設）などにおいて、「指導員」の名称で位置づけられた職種である。子どもへの養育を目的とした対人援助の基礎知識がないまま就労し、子どもへの指導が困難となり離職を余儀なくされる者も少なくないため、求人難である施設が多い。厚生労働省が発表している「平成 21 年 社会福祉施設等調査」の結果を見ると、児童福祉施設での常勤換算従事者数が、平成 16 (2004) 年の 478,684 人から、平成 21 (2009) 年には 519,218 人と、5 年間で 40,534 人も増加しており、【資料①の 3 章「龍谷大学文学部臨床心理学科および龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の出口調査」】のアンケート結果からも、採用ニーズが非常に高いことが分かる。

子どもへの個別の発達や学習にかかわる特別支援教育の「補助的支援職員」もその一つである。小学校を中心として要請が強い職種である。現在は非正規雇用としての就労が多いが、特別支援教育士の資格を取得した場合などは、正規就労の可能性も生まれると考える。

精神科リハビリテーションに関与する「心理指導員」、高齢者介護とその関係者への心理的支援を行う「ヘルパー」等の補助職なども挙げることできる。これらの補助職に非正規雇用として就労する者の中には、様々な資格を取得し正規雇用としての就労をめざす者も考えられる。

その他にも、受験資格として卒業後に各種の現場経験や実践講習の受講が求められる介護、ヘルパー等の高齢者支援の職種や、精神的・心理的なケアが必要とされている精神医療関係の事務職を挙げることができる。

こうした職種への就労に加えて、大学院修士課程での単位修得が必要な臨床心理士、学校心理士等の資格取得を目的とした進学や、さらなる専門教育を受けることによって取得できる、看護

士、社会福祉士、精神保健福祉士等の対人援助を基本とした近接領域の対人援助職への就労も考えられる。

第三者機関が平成 23（2011）年 1 月に福祉や教育、医療に関する団体、法人または企業（以下、「団体・企業等」という。）に対し実施したアンケートの調査（有効回答数 84 件）において、大学に求めるものを聞いたところ、最も回答が多かったのは、「仕事につながる実践的な授業」と、「学生のコミュニケーション能力の向上」で、63 カ所（75.0%）が回答した。心理学関連の仕事は、福祉や医療現場など対人援助能力を求められる場面が非常に多いことから、「仕事につながる実践的な授業」や「コミュニケーション能力の向上」と回答した団体・企業等が多かったと推測される。臨床心理学科では、既述のとおり対人援助技術の修得を教育目標として掲げており、これらの団体・企業等のニーズに十分に答えることができる。

以上のことから、学生の就職先の確保について、問題がないと第三者機関では分析している。

本学においても臨床心理学を基礎とした対人援助のためのコミュニケーション・スキルを身に付けた人材は、様々な職種をめざしていくことが可能であり、上述したような近接領域における職種を含め、民間企業や公務員、高等学校教員等への就労を加味すると、臨床心理学科の定員 92 名の卒業後の進路は十分確保できると考える。

イ 学部、学科等の特色

1. 教育の特色

臨床心理学科における学修成果として求められる心理的な困窮を抱える人に対する臨床心理学的理解と、その援助に必要なコミュニケーション・スキルの修得にかかわる基礎的・基本的能力の修得を保证するために、次の 3 つの教育目標を立て、順次性のある教育体系を構築する。

知 識： 人がストレスを感じる場面で生理学的反応として示す適応不全を適切に把握するとともに、多様で心理的な対人援助の実践に資する臨床心理学的知識を修得することができる。

実践能力： 臨床心理学的知識にもとづく判断ができ、心理的課題により困窮している人に対して、適切な課題解決のための援助・支援を行使できるコミュニケーション・スキルが発揮できる。

力 量： 職業生活や社会生活において自らが臨床心理学にもとづいた判断ができ、心理的課題に困窮している人の課題を設定し、解決のための援助ができる。

臨床心理学科は、社会的に解決困難な心理的課題に対して、具体的な解決のための方策を構築し、現代社会が抱える心理的課題に対応できる職業人を養成することに大きな教育上の特色がある。龍谷大学文学部が新たに臨床心理学科を展開する意義はここにある。

また、臨床心理学科は、心理的に困窮している人の心理的特徴を適切に把握でき、様々な対人援助にかかわる効果的なコミュニケーションを実践するための基礎的・基本的能力を養成することが、もう一つの教育上の特色である。心理的に困窮している人を理解するためには、幅広い教養や臨床心理学の知識だけでなく、状況ごとに人の行動特性が多様に変化することを対人行動学の視点からも学修することが重要であり、これら理論と実践のバランスの取れた学修が必要になる。同時に、対人援助の実践が成果をあげるためには、多様な対人援助の場面における近接領域

の専門家たちと主体的・積極的に関わることでできるコミュニケーション・スキルを身につけることも必要になる。

臨床心理学科において修得される学士としての知識、実践能力、力量は、これからの時代において、職業生活や社会生活等のあらゆる場面で活かされることが期待できる。

以上から、文学部臨床心理学科が果たすべき主たる社会的機能は、平成 17（2005）年 1 月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」第 2 章 3「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に即していえば、「幅広い職業人の養成」と「総合的教養教育」である。

2. 教育内容の特色

臨床心理学科は、学士として求められる知識、実践能力、力量を修得させるために、次のような教育内容上の特色を持った教育プログラムと学修経験を学生に提供する。

①対人援助行為に不可欠なコミュニケーション・スキルの修得

臨床心理学科の教育課程では、社会的困窮を訴えている人に対して、現代社会の多様な対人援助場面で求められている「心理的困窮についての知識」及び未来の社会人としてあるべき他者に対する心理的配慮を効果的に行うための「コミュニケーション・スキル」の修得に必要なプログラムを提供する。

建学の精神にある^{ともいき}共生の理念の実現には、対人援助の場面における「他者理解」を基本とした「配慮」と、それを実現するための「コミュニケーション・スキル」が不可欠である。そして、心理的側面を重視した臨床心理学を、他者理解のための基盤として位置づける。これによって、^{ともいき}共生の哲学の上にたった、社会の多様な対人援助の現場で自らの知識を主体的に発揮でき、未来における社会人として必要なより高度な社会性の修得をめざす。

②順次性のある教育

第 1～第 4 セメスターは臨床心理学の導入教育として位置づけ、少人数演習により大学生に必要な学びの技法の基礎を学ばせるとともに、必修科目・選択必修科目を配置し、心理学、人間の精神発達、^{ともいき}共生の哲学等の基礎を学ばせる。また、語学と教養科目の履修により幅広い教養を身につけさせる。

第 3 セメスターからは、専攻領域ごとの教育の基礎となる特別支援教育方法論、仏教カウンセリング等の科目を学ばせる。なおこれらの科目は、自身が専攻する領域選択（領域選択については「エ 教育課程の編成の考え方及び特色」において詳述する）の判断に資することから、できる限り早期に履修するよう指導する。

こうした順次性のある教育によって、知識、実践能力、力量を積み重ねて修得することができるようにする。

③幅広い学びの保証

学生の社会的能力全般の発展を促し、課題を発見して分析する能力を修得させるために、ケーススタディやロールプレイ等の体験的な学修を積極的に導入する。また対人援助の実践経験が豊富な教員を配置することで、現場の事例を基礎として実践的な対人援助場面について学ぶ機会を積極的に提供する。このように、講義の中に実践的な演習を組み込むことによって、知識と実践場面の結びつきをイメージできるような学びを提供するとともに、それらをシラバス

段階から学生に周知する。

④学修パートナーシップによる支援体制の充実

教員、事務職員、大学院生、学部学生とのパートナーシップという視点を前面に出し、正課に限らず課外やボランティア等についても、学科として組織的かつ積極的に学生指導にかかわることで、教育のグッド・プラクティスを実現する。そのために、基礎演習において学修を支援するティーチング・アシスタント（TA）による多様な教育支援制度を充実させる。「臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ」のレジュメ・レポート作成等に対するTAによる添削指導を強化することによって、文学部における学修の集大成である「卒業論文」作成につながる文章表現力の向上を図る。

また、対人援助の現場経験やボランティア活動等を促進するために、第5、第6セメスターの「臨床心理学演習Ⅰ」において積極的に現場実習を組み入れる予定である。これは、近畿各地の様々な福祉施設、京都市を中心とした小中学校、ビハラー活動を行っている高齢者施設等での実習や、精神科のリハビリテーションにかかわるデイケア活動や様々なボランティア活動等、現場での実習体験を積極的に促進する予定である。そのために「臨床心理学演習Ⅰ」の各クラスには、ボランティア経験を有する大学院生等を配置し、学部生の現場体験を支援する体制を構築する。

⑤実践現場経験を生かした教育力の向上

学士力としての質を保証するためには、個々の教員の教育力だけではなく、学科の専任教員が組織体として教育力を高めることが必須である。臨床心理学の教員は、対人援助に関する学問的知識を有することだけでなく、豊富な現場経験や対人援助の実績を有することが重要であると考えている。そのために、それぞれの教員が有している実践的な臨床心理学的援助の現場経験や実績を大学教育に有機的に反映させるとともに、Faculty Development（以下、「FD」という。）活動を系統的に展開することにより、教育力の向上を図る。

また、学生に対しても、実践的な現場経験を効果的に提供するとともに、それらの動向や状況等を相互に報告する機会を毎週設けることで、実践経験の場面における学生の社会的なコミュニケーション・スキルの向上を図る予定である。

⑥学部と大学院の一貫的な教育

臨床心理学には、高度な専門性を有した高度専門的職業人である「臨床心理士」の養成も求められることから、学部と大学院の一貫的な教育に取り組む。具体的には、大学院生の修学を目的とした大学院附属臨床心理相談室のカンファレンス等に学部生が参加することを含め、大学院と接続する場面を設定し、大学院生が臨床心理学の深い専門領域を考究する姿やその内容を間近に触れることにより、進学動機を高める窓口としての機能を持たせる。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

文学部臨床心理学科は、臨床心理学を基礎とした対人援助を理解し、効果的な対人援助のコミュニケーション・スキルを修得した職業人を養成することを設置の趣旨・目的としており、それらにもとづいた教育課程を編成している。

したがって、学科の名称は「臨床心理学科」、学位の名称は「学士（文学）」とする。また、その英文は、対人援助の実践を重視しつつも、臨床心理学を科学的に追究することを基本に置くという趣旨から「臨床心理学」を「Clinical Psychology」と表記する。

- (1) 学科の名称 臨床心理学科 (英訳) Department of Clinical Psychology
- (2) 学位の名称 学士（文学） (英訳) Bachelor of Arts in the Faculty of Letters

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成の基本方針

臨床心理学科が教育の対象とする実践領域は幅広い。したがって、学生には履修の各段階において、それぞれの実践現場の奥深さを可視化させつつ、学修の積み上げによってそれらを修得できるよう、体系的な教育課程を編成する。

学生は、龍谷大学の全学生を対象とした教養教育科目を基礎に、臨床心理学科の専門科目（以下、「専攻科目」という。）を履修する。多岐にわたる専攻科目は、本項 2、及び「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」にて詳述するように、普通講義 A、普通講義 B、講読、特殊講義、各年次の演習から成り、順次性を持って編成する。

「普通講義 A」では、大学生としての学びの技法、及び臨床心理学の初学者向けに学問領域の全体像と基礎知識を学ぶ科目を配置する。また、「普通講義 B」では、対人援助の実践のための基礎を学ぶ科目を配置する。

さらに、臨床心理学領域に関する先行研究の比較検討や卒業論文執筆の基盤である文献研究に重点を置いた「講読」を第 3 セメスターより設置する。これらの科目は、第 5 セメスター以降に各領域に分かれて行われる、より専門的な学修の基礎であるとともに、学修の指針を提供する科目としての位置づけも有する。

そして、「特殊講義」を専門領域科目と位置づけ、これまでに修得した臨床心理学の共通基盤をもとに、学生が自らの関心に応じて専門性を深めることのできる科目を配置する。

また、【資料②：「文学部臨床心理学科カリキュラム図」】に示すように、第 1 セメスターから第 8 セメスターまで少人数の演習科目を連続的に配置し、自律的に課題を発見しその解決に連携して取り組む学修のコミュニティを形成する。

こうした系統的な科目配置により、高い倫理性と幅広い知識の学修による人間形成をめざす教養教育のうえに、対人援助の基本姿勢や倫理観の修得をめざす専門教育を体系的に編成している。

このように、臨床心理学の専門性を身につけ、課題の発見と解決に自律的に取り組むことができ、教養と倫理性を有した人材を養成するため、知識、実践能力、力量の修得に必要な科目を配置することが、臨床心理学科の教育課程編成の基本方針である。

2. 科目区分の設定及び科目構成とその理由【資料②：「文学部臨床心理学科カリキュラム図」】

上記「1. 教育課程編成の基本方針」にもとづいた、学修の積み上げに対応させた科目区分を以下のとおり設定する。なお、ここでは科目区分の基本方針を示し、具体的科目名については「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」にて詳述する。

①普通講義A

第1、第2セメスターを中心に配置する必修科目である。

本科目群では学問領域の基礎知識と全体像を学ぶ。心理学、発達心理学、対人行動学は、本学科のすべての学生がその基本を修得しておくべき基礎的科目であることから、第1、第2セメスターに配置し必修とする。また、第5、第6セメスターにおいて臨床心理学的調査研究法の基礎を学ぶ科目を配置する。

②普通講義B

第3、第4セメスターに配置する選択必修科目である。

普通講義Aの履修による導入教育の後、臨床心理学の領域を構成する学問分野の基本を学ぶ科目として配置する。なお、これらは第5セメスター以降の領域ごとの学修への接続を担う科目としても位置づける。

③専攻領域の基礎科目

一部は第1セメスターから、中心は第2セメスター以降に選択専攻科目を配置する。

学生は、各自が専攻したい学問分野に応じて5セメスターから領域を選択する。各領域には、専攻する分野の専門性を深めることができる科目を配置する。それぞれの現場における対人援助の課題発見及び解決とその過程に求められる臨床心理学的専門性の修得を促す。なお、領域編成については、「3. 設置の趣旨、学科の特色を実現するための領域編成及び科目編成」にて詳述する。

④選択必修科目「講読」と「特殊講義」

第3セメスターから選択必修科目である講読を配置する。講読は、卒業論文の執筆において求められる文献研究の具体的な技能を修得するとともに、専門領域の奥深さに触れることのできる科目群であり、主体的に文献を検索し整理するという基本姿勢の修得を目的としている。

また、第5セメスター以降に選択必修科目である特殊講義を配置する。特殊講義は、ほとんどの科目を専任教員が担当し、領域ごとの専門的な内容を深め、自律的な学修を促進するとともに、卒業論文執筆につながる専門性の修得を目的としている。

なお、講読及び特殊講義は、それぞれテーマ毎に複数の科目を配置しており、各科目と領域との相関関係は次のとおりである。

■講読

科目名	領域	医療・福祉臨床	学校・特別支援臨床	真宗・ビハーラ活動	内容
臨床心理学講読 A (A)、A (B)			○	◎	グループ
臨床心理学講読 B (A)、B (B)		○	◎		発達障がい
臨床心理学講読 C (A)、C (B)		◎	○	○	家族療法
臨床心理学講読 D (A)、D (B)		○	◎		行動科学
臨床心理学講読 E (A)、E (B)		○		◎	死生学
臨床心理学講読 F (A)、F (B)		◎	○	○	臨床哲学

◎：当該領域の主たる科目、○：当該領域の学修に関係する科目

■特殊講義

科目名	領域	医療・福祉臨床	学校・特別支援臨床	真宗・ビハーラ活動	内容
臨床心理学特殊講義 A (A)、A (B)		◎	○	○	非指示的心理療法
臨床心理学特殊講義 B (A)、B (B)		○	◎	○	援助的コミュニケーション
臨床心理学特殊講義 C (A)、C (B)		○	◎	○	指示的心理療法
臨床心理学特殊講義 D (A)、D (B)		○	◎		発達障がい児・者支援
臨床心理学特殊講義 E (A)、E (B)		○	○	◎	エンカウンターグループ
臨床心理学特殊講義 F (A)、F (B)		◎		○	精神医学
臨床心理学特殊講義 G (A)、G (B)		○	◎	◎	コンサルテーション
臨床心理学特殊講義 H (A)、H (B)			◎	○	ストレスマネジメント
臨床心理学特殊講義 I (A)、I (B)		◎	○	○	コミュニケーション学
臨床心理学特殊講義 J (A)、J (B)		○		◎	ビハーラ活動

◎：当該領域の主たる科目、○：当該領域の学修に係る科目

⑤演習科目の系統配置

演習科目の充実、臨床心理学科の特徴の一つである。1 年次から 4 年次まで順に「臨床心理学基礎演習Ⅰ」、「臨床心理学基礎演習Ⅱ」、「臨床心理学演習Ⅰ」、「卒業論文（臨床心理学演習Ⅱ）」（いずれも必修科目）を配置することにより、すべての学生に対して第 1 セメスターから第 8 セメスターまで系統的に演習科目を履修させる。また、「対人援助学（実習）」等の実習科目を配置し、任意で選択できる実習を充実させ、少人数による学修のコミュニティを形成する。

3. 設置の趣旨、学科の特色を実現するための領域編成及び科目編成

文学部臨床心理学科では、学修の目標を明確にすることや系統的な科目履修を積極的に進めていくことを目的として、「領域制」を導入する。

臨床実践の分野に応じて、「医療・福祉臨床領域」、「学校・特別支援臨床領域」、「真宗・ビハーラ活動領域」の 3 領域を設け、全ての学生がいずれか 1 領域を第 4 セメスター時に選択し、第 5 セメスターから領域に所属し履修を進める。

①「医療・福祉臨床」領域

医療現場や社会的弱者に対する福祉的支援の現場における心理的援助の研究・実践に重点を置く領域である。

この領域では、医療や福祉の現場体験からその実状を把握することで、医療従事者や福祉施設の介護職員、保育士、指導員等が行う援助技術を学修するとともに、それらの現場における実践と研究を展開する。

②「学校・特別支援臨床」領域

学校教育や保育の現場の多様な実態における個人や集団への心理的援助の研究・実践に重点を置く領域である。

この領域では、学校教育の多様な実態を把握するとともに、教育現場の特別支援教育にかか

わる発達支援やその教育補助、児童生徒に対する福祉・心理的援助の活動について学修し、それらの現場における実践と研究を展開する。

③「真宗・ビハール活動」領域

寺院関係者のビハール（終末期医療）活動等、真宗寺院や関連仏教寺院での心理的援助や、仏教カウンセリング・真宗カウンセリング、ビハール活動の研究・実践に重点を置く領域である。

この領域では、寺院や関連施設での実践活動を通じて福祉的・心理的援助の現場を体験するとともに、仏教・真宗活動における心理的対人援助を理解することで、寺院活動やビハール活動にかかわる心理的支援のあり方について学修し、それらの現場における実践と研究を展開する。

なお、各領域はそれぞれに特徴を有しながらも、各学生が、臨床心理学に関する様々な課題探求が可能となるよう、他領域の科目についても積極的な履修を推奨する。学生の関心分野や実践対象の重心を領域として示す一方で、学生が自身の学びの広がりに必要な選択科目を履修できるよう、【資料③：「文学部臨床心理学科 学科内領域構成一覧」】のように明示することにより教育課程の系統性を担保することが可能となる。

4. 必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由

本学科の科目配置は、臨床心理学に関する科目を中心としつつ、対人援助のためのコミュニケーション・スキルの修得も重視するという特性から幅広い学問領域にわたる。そのため、それら広範な領域をカバーするとともに、学生の多様な学びのニーズに応えるため、必修科目を限定している。しかし、臨床心理学の基盤をなす学問領域である心理学、発達心理学、対人行動学については、全学生の共通基盤形成を図るという意味からも、それらの基礎的科目を必修科目として位置づける。加えて、実践的な対人援助を学術的に整理するための臨床心理学的調査研究法を学ぶための基礎科目を必修科目とする。

そして、第1 Semesterから第8 Semesterまで系統的に配置する4つの演習科目についてもすべて必修科目とする。

講読と特殊講義は、3つの領域におけるそれぞれの専門的知識を修得するための科目であり、選択必修科目として位置づける。

必修科目以外は選択科目となるが、全ての学生が体系性を持って履修できるように配慮した制度設計とする。具体的には、順次性のある科目区分、時間割やガイダンスによる履修指導、領域制による学修傾向の自覚化、各領域に系統づけられている科目の明示化、履修モデルによる科目選択の推奨等である。また、少人数の演習科目を第1 Semesterから配置し、きめ細かな指導を行うことで、履修指導の側面も併せ持つよう配慮する。

5. 履修順序（配当年次）の考え方

臨床心理学科開設科目は、入学時からの学修の積み重ねに対応し、難易度によって一部重なりはあるものの、第1、第2 Semesterを中心に配置する普通講義A、第3、第4 Semesterに配置する普通講義B、第3 Semesterから第6 Semesterにかけて幅広く配置する講読、第5 Semester以降を中心とする特殊講義、選択専攻科目と、学びの進度に応じて適切に配置しており、順次性のある履修順序となるよう配慮している。

6. 教養教育の実施方針

龍谷大学では、教養教育科目を通じて、建学の精神を具現化する高い倫理観や豊かな人間性を育むとともに、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を有した人間の形成を目的としている。「仏教の思想」と外国語を必修科目とし、その他の科目を6つのプログラム（人間発達、環境、人権と平和、情報と社会、歴史と文化、思想と科学）に分けている。専門性を身につけた教養人としての基礎のうえに、対人援助能力の修得を目的とする科目の履修によって、人間形成としての教養教育と臨床心理学科における専門教育とが体系的につながる。これは、平成20（2008）年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において指摘されている、教養教育と専門教育とで分断しない学士課程教育への期待に応えるものである。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 配置の考え方

専攻科目の主要科目は専任教員が担当するとともに、演習科目については、すべての科目を専任教員が担うことで、教育に専任教員が責任を持つ配置とする。

臨床心理学科の教員編成にあたっては、既設の文学部哲学科教育学専攻の専任教員のうち臨床心理学を専門とする5名、新規採用の5名の合計10名とした。臨床心理学の領域で優れた業績を有する専任教員の学内異動等、各領域の中核となる科目は専任教員によって担当されるよう人事を進めた。また、理論と実践がともに能力として求められる臨床心理学の特徴から、精神医療、児童福祉、特別支援教育の分野で優れた能力を発揮した人材を新たに採用し、臨床心理学科の実践重視の教育体制を支える教員編成とした。

2. 中核となる科目や必修科目における教員配置

必修科目群である普通講義Aは、臨床心理学の基礎となる近接学問領域の概要が中心で、准教授1名、講師2名を中心に配置し、より専門性が求められる普通講義B及び特殊講義は、担当する領域における研究業績と教育歴を有する教授6名、准教授1名、講師2名が中心となって担当する。

また、演習科目については、学生数に比して十分なクラス数が開講されるよう配慮する。なお、医療・福祉臨床領域と学校・特別支援臨床領域の演習科目は、各自の専門領域にとどまらない広がりのある科目設計とし、また真宗・ビハーフ活動領域の演習科目は、臨床心理学の専門性とビハーフ活動の実践経験にもとづいた指導を行う。

各領域の主たる担当科目には、以下のように専任教員を配置している。

①「医療・福祉臨床」領域

臨床心理学科の中心的領域であり、医療や福祉の臨床現場における実践経験とその実践についての研究が豊富な教員構成とした。ここでは、援助技術の修得を目的とした実践教育について、優れた研究業績と教育歴を有する教員と、若手の福祉領域を専門とする教員をバランスよく配置している。

②「学校・特別支援臨床」領域

学校教育や保育の現場での実態を熟知し、特別支援教育や発達支援にかかわる心理的援助の

理論と実践の両面からの優れた研究業績と教育歴を有する教員と、実務経験のある若手の教員を配置している。

③「真宗・ビハーラ活動」領域

ビハーラ活動や寺院、関連施設における心理学的な対人援助の理論と実践を積み、優れた研究業績と教育歴を有する教員と、実務経験のある若手の教員を配置している。

3. 実務経験のある専任教員の配置

実務経験のある専任教員を配置することは、臨床心理学科の教育課程を実現させる上で不可欠であるとともに、実務と理論をつなぐ科目設計においても重要である。そのため、児童精神医学、病院臨床、学校臨床、福祉臨床、特別支援臨床、及びビハーラ活動等の多様な現場経験を有する専任教員を配置している。

4. 教員組織の研究分野と研究体制

対人援助を基礎とした臨床心理学の幅広い領域に対応した科目編成を実現させるため、臨床心理学科の教員組織は、精神医学、臨床心理学を中心として、社会福祉学、教育心理学、特別支援教育、宗教学等の近接領域の専門的知識を有する多彩な教員により編成している。

臨床心理学科の目的である対人援助のコミュニケーション・スキルの修得という教育目標を達成するために、臨床心理学に関する豊富な実践経験を有する教員と優れた研究業績を有する教員が連携し、FD 活動及び科目の共同開発・共同研究・ボランティア実践の組織づくり等を行う。

5. 教員組織の年齢構成

教員組織構成は、教授 7 名、准教授 1 名、講師 2 名の計 10 名である。また年齢構成は、30 歳代 1 名、40 歳代 3 名、50 歳代 5 名、60 歳代以上 1 名とバランス良く配置しており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に資する構成であると言える。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 授業の方法、学生数、配当年次の設定

(1) 授業の方法

授業は、講義・演習・実験実習の形式で行う。演習は全セメスターにおいて開講し、必修科目として位置づけている。講義は教員の講義を聞くだけの科目に留まらず、講読科目を設定することで文献講読を通じて主体的な学びを実践できるよう配慮した。実験実習科目は一定の知識を修得した上で履修することが望ましいことから、第 5 セメスター以降に配置する。

(2) 学生数

第 1、第 2 セメスター開講の「臨床心理学基礎演習Ⅰ」、第 3、第 4 セメスター開講の「臨床心理学基礎演習Ⅱ」については各 4 クラス、第 5、第 6 セメスター開講の「臨床心理学演習Ⅰ」については 5 クラス、第 7、第 8 セメスター開講の「卒業論文（臨床心理学演習Ⅱ）」については 8 クラスをそれぞれ開講し、演習科目は少人数クラス編成とする。

③ 配当年次【資料④：「文学部臨床心理学科 科目区分別 開講科目一覧」】

① 1年次（第1、第2セメスター）

導入教育にあたる必修科目群の普通講義 A と演習科目である「臨床心理学基礎演習Ⅰ」を第1、第2セメスターに配置する。第1、第2セメスターでは、心理学の基礎とともに、人の発達と心理的な発達のつながりの把握をめざす。

「臨床心理学基礎演習Ⅰ」では、臨床心理学の基礎知識を学びつつ、レポート作成の準備方法（レポートの必須要素、図書館の利用方法、教員から指導を引き出す方法）、レポート作成の実践方法（テーマへの取り組み方、論点の整理の仕方、下書き、清書）、レポートの発表方法等、大学での学び方の訓練を行う。また、すでに文学部他学科・専攻でも実施している修士課程や博士後期課程の学生が1～2名ずつ各クラスに参加して学生の学びを補完するティーチング・アシスタント（TA）制度を、臨床心理学科においても導入する。

普通講義 A では、臨床心理学科の基礎である人間の発達・特徴を概観しつつ、第5セメスター以降学生が自ら専攻する領域を選択する手がかりともなる、概論や基礎を学ぶ科目を配置する。

また、学生の関心に応じて選択専攻科目を第1セメスターに1科目、第2セメスターに4科目配置する。

② 2年次（第3、第4セメスター）

第3、第4セメスターでは、人間が社会的場面でどのような特徴的行動を示すかを把握するとともに、心理的支援・援助をする側とされる側のそれぞれの視点からの理解をめざす。

選択必修科目群である普通講義 B を、第3、第4セメスターに対人援助の基本科目として配置する。普通講義 A で修得した知識をもとに、対人援助の基盤となる学問領域であるカウンセリング学、障害児・者心理学、対人援助概論を履修することにより、臨床心理学と対人援助の幅広い領域をカバーする学修の基盤を形成し、第5セメスター以降の各領域での学修を支える。また、第1、第2セメスターと同様に演習科目である「臨床心理学基礎演習Ⅱ」を第3、第4セメスターに配置する。「臨床心理学基礎演習Ⅰ」における大学での学び方の訓練の上に、臨床心理学の専門的な学修をすすめるためのステップ等、臨床心理学の基礎について学び、理解を深める。そうした履修を通して、大学における「学び」を理解し、第5セメスター以降に専門的な学修を深めていくための基礎的な能力を養う。また「臨床心理学基礎演習Ⅰ」と同様に、TA制度を導入する。

第3セメスターから選択必修科目である講読を配置し、各専門領域の奥深さに触れるとともに、第5セメスターからの領域選択が各学生にとって適切な選択となっているかを確認できるように配慮し、配当年次を設定している。

選択専攻科目には、第5セメスター以降の各領域での学修に先立ち履修することが求められる一部の科目を第3、第4セメスターに配置する。

普通講義 A・普通講義 B・「臨床心理学基礎演習Ⅰ」・「臨床心理学基礎演習Ⅱ」の履修を通じて、第5セメスター以降の領域選択のための指導も併せて行う。

③ 3年次（第5、第6セメスター）

3年次には、必修科目群の普通講義 A のうち「心理学研究法」「心理調査・統計法 A」を配置する。これらの科目の履修を通して、これまでに培った基礎的な知識の定着を図る。

第 5 セメスター以降は各自が選択した領域を専門とする教員が担当する「臨床心理学演習Ⅰ」を履修する。

また、第 5 セメスター以降（専攻領域選択後）を中心に、「エ 3. 設置の趣旨、学部の特色を実現するための領域編成及び科目編成」で示した領域編成に対応した特殊講義、講読、選択専攻科目を配置している。各学生が体系的に履修を進めることができるよう、臨床心理学の課題領域の奥深さを知るための履修モデルの提示や履修指導も併せて行う。

さらに、演習間での討論会や合同講義等、学問領域を横断する演習教育によって臨床心理学の実践現場ごとの奥深さの学修を支える。

④4年次（第7、第8セメスター）

4 年次には、文学部における学修の集大成である「卒業論文（臨床心理学演習Ⅱ）」を配置し、通常の演習の授業時間に加え、オフィスアワー等を活用することにより、指導時間を確保し、卒業論文の執筆指導にあたる。

2. 履修指導方法

学生が卒業後の目標に向かって、体系的・計画的な履修計画を立てることができるように入学時や各年度において、履修ガイダンスをきめ細かく実施し、合わせて個別指導や窓口指導を行う等、手厚い履修指導を行う。

第 5 セメスター以降は、領域に分かれた学修となることから、低年次から順次性のある学修を促すべく、履修要項及び履修ガイダンスにおいて履修モデルを提示するとともに、シラバスやオフィスアワーの充実を図り、きめ細かな指導体制を整備する。

3. 卒業要件

4 年以上在学し、教養教育科目から 32 単位以上（必修 4 単位、選択必修外国語 12 単位含む）、及び専攻科目から 68 単位以上（必修 38 単位、選択必修 12 単位含む）修得し、124 単位以上修得すること。

科目区分（履修要件区分）		卒業要件単位数		
		必修	選択必修	選択
教養教育科目	仏教の思想	4		
	選択必修外国語		12	
	教養科目			16
専攻科目	普通講義 A	18		
	普通講義 B		4	
	講読		4	
	特殊講義		4	
	演習	臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ	8	
		臨床心理学演習Ⅰ	4	
		卒業論文（臨床心理学演習Ⅱ）	8	
	選択専攻科目			18
フリーゾーン ※				24
合計		124		

※フリーゾーンとは各学生の関心により教養教育科目・専攻科目のどちらを選択してもよい領域。

4. 履修モデル【資料⑤：「文学部臨床心理学科履修モデル」参照】

「イ 学部、学科等の特色」の「1. 教育の特色」で設定した3つの教育目標を学部学生が修得することを基盤に、各領域の特徴を生かした履修による学生の学修と進路のモデルを示す。

履修モデル① 「医療・福祉臨床」領域

多様な医療現場や、社会的弱者に対する福祉の支援の現場体験等から、その実状を把握することで、医療従事者や福祉施設の介護職員、保育士、指導員等の活動について、「援助技術のあり方」を理論と実践の両面から学ぶ。

卒業後は、精神的・心理的なケアを行っている精神医療施設等の事務職や医療事務、各種の現場経験や実践講習を経て受験資格を得ることのできる介護やヘルパー等の高齢者支援職、高等学校「公民」教員、民間企業、社会福祉法人、大学院進学、公務員等の進路をめざす。

履修モデル② 「学校・特別支援臨床」領域

学校教育や保育の現場の多彩な実態を現場体験から把握するとともに、教育現場の特別支援教育にかかわる発達支援や教育補助、児童生徒に対する福祉・心理的援助の活動について、理論と実践の両面から学ぶ。

卒業後は、高等学校「公民」教員、特別支援教育の補助的支援職員、児童養護施設・情緒障がい児施設等の「児童養護関連施設」における生活指導員（心理職を除く）、児童指導員（心理職を除く）、民間企業、大学院進学、公務員等の進路をめざす。

履修モデル③ 「真宗・ビハラー活動」領域

寺院関係者のビハラー活動等、龍谷大学の建学の精神を重視した仏教カウンセリングやビハラー活動の実践活動を通じて、寺院活動やビハラー活動にかかわる心理的支援のあり方を理論と実践の両面から学ぶ。

卒業後は、寺院、高等学校「公民」教員、民間企業、NPO 法人職員、大学院進学、公務員等の進路をめざす。

5. 履修科目の登録上限、他大学における授業科目の履修

(1) 履修科目の登録上限

各セメスターにおける履修登録制限単位数を以下のとおり定め、学生が4年間にわたって計画的に授業科目を履修するよう指導する。

＜履修登録制限単位数＞

第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
24 単位	24	24	24	24	24	48	

(2) 他大学における授業科目の履修

龍谷大学が加盟している大学コンソーシアム京都は、単位互換事業を行っており、京都地域を中心に48の大学・短期大学と単位互換包括協定を締結し、単位互換制度を実施している。この事業のために用意された特定の科目のうち、文学部が予め認定対象科目として認めた科目

については「単位互換履修生」として受講し試験に合格することにより、文学部の卒業要件単位（科目名：教養教育科目の場合は「特別講座」、専攻科目の場合は「特別講義」）として認定する。なお、履修要件については次のとおりである。

- ①専攻科目または教養教育科目として履修登録することができる。ただし、教養教育科目として単位を修得できるのは、履修指導期間中に掲示で知らせる科目の中から4単位のみ。
- ②単年度4単位までの履修登録を認め、在学中12単位まで卒業要件単位として認める。
- ③4年次以上で履修する場合は自由科目扱いとする。

また留学により海外の大学で修得した単位を文学部の卒業要件単位（教養教育科目・専攻科目）として認定する。科目名は教養教育科目の場合は「特別講座」、専攻科目の場合は「特別講義」、選択必修外国語を個別認定した場合は、当該科目の科目名で認定する。なお、履修要件等の詳細については次のとおりである。

- ①文学部教授会で留学が承認された後、単位認定を希望するかどうかの届出を提出。
- ②帰国後、提出された留学先大学の成績証明書・シラバス、学生の単位認定申請書をもとに、授業内容・授業時間数等を総合的に勘案し、教授会が単位修得を認定する。

キ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

臨床心理学科を含む文学部生は主に1・2年次は深草キャンパス、3・4年次生は大宮キャンパスで学生生活を送る。

深草キャンパスは、現在145,337.28㎡の校地面積を有し、5学部1短期大学部4研究科1専門職大学院（法務研究科）を設置している。教室や図書館、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設については、既設学部等と十分に共用可能である。

運動場については、近隣に南大日グラウンド（スクールバスで約15分程度）を有するほか、キャンパス内に体育館（メインフロアー、トレーニング室9室）及びテニスコートを設けている。

学生が休息や談話するスペースについては、深草キャンパス全体で食堂3ヶ所、談話室2ヶ所を備えている。また、図書館前や東門横のテラス席等、オープンな談話スペースも設けている。

一方、大宮キャンパスは、現在19,612.08㎡の校地面積を有し、文学部の3年次以上及び文学部を基礎とする文学研究科、実践真宗学研究科を設置している。教室・演習室や図書館、情報処理実習室、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設については、既設学科等と十分に共用可能である。

運動場については、京都市内に南大日グラウンド（スクールバスで約30分程度）を有するほか、深草キャンパス内に体育館（メインフロアー、トレーニング室9室）を設けている。

学生が休息や談話するスペースについては、キャンパス内の清和館1階食堂や2階の談話室、清風館の地階のラウンジや2階の談話室を備えている。また、西翼新棟の1階ロビーではオープンな談話スペースを設けている。

2. 校舎等施設の整備計画

臨床心理学科は既設の文学部哲学科に所属する教員を中心に、文学部哲学科教育学専攻教育臨

床心理学コースの教育プログラムにおけるこれまでの成果とその蓄積を基盤として設置する。そのため、校舎等の施設は、既存施設を有効に活用する予定である。

教室については、科目の配置状況やその授業形態を踏まえたうえで必要な教室を確保する。現在、深草キャンパスでは、講義室 103 室、演習室 107 室、実験・実習室 26 室、情報処理室 13 室及びセルフラーニング室 3 室（パソコン 816 台設置）が整備されており、大宮キャンパスでは講義室 21 室、演習室 25 室、実験・実習室 10 室、情報処理実習室 5 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 263 台設置）が整備されている。

これらの施設を既設学部等と共同で利用する予定である。なお、校地・校舎面積は、設置基準上、深草・大宮キャンパスの現有施設で充足している。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

龍谷大学は京都・滋賀に 3 つのキャンパスを有しており、キャンパス毎に図書館を設置し、各キャンパスの学部・研究科に応じた蔵書構成をとっている。これら深草図書館、大宮図書館、瀬田図書館の 3 館の所蔵資料数（深草図書館分室、社会科学研究所の資料を含む）は、平成 22（2010）年度末で約 1,940,000 冊である。文学部臨床心理学科の学生は、1・2 年次生は深草図書館を、3・4 年次生は大宮図書館を主として利用することとなる。

深草図書館は、経済学部、経営学部、法学部、政策学部に対応し社会科学系の学習・研究用図書・雑誌に加え、文学部 1・2 年次生・短期大学部に対応し人文科学系の基本図書を重点的に収集している。また、深草キャンパスでは、京都団地（深草・大宮）における教養教育科目が集中的に開講されていることから、一般教養に関する図書も幅広く所蔵している。この他、わが国の社史・産業史・団体史に関する総合コレクションである「長尾文庫」（約 17,000 冊）、仏教童話を中心とした児童文学者である花岡大学 氏（本学卒業生）から寄贈された「花岡文庫」（約 5,000 冊）等の特筆されるコレクションを有している。同館の蔵書数は、図書約 772,000 冊、雑誌約 7,500 種類、視聴覚資料約 32,000 点である。

深草図書館は、7 号館（2 階建て、延床面積 5,628 m²）と 8 号館（地下 2 階地上 5 階建て、図書館部：延床面積 4,158 m²）から成っている。7 号館は、事務室をはじめとする管理スペース、書庫（学習用図書収蔵）、閲覧室、視聴覚室、閲覧カウンター等を、8 号館は、雑誌閲覧室、書庫（研究用図書収蔵）、AV ルーム等をそれぞれ有し、一体として機能している。閲覧席数は、両館あわせて約 1,100 席（視聴覚ブース、インターネット端末、CD-ROM 端末を含む）である。

一方、大宮図書館は、文学部 3・4 年次生、大学院生及び研究者の学習・研究用として、人文科学系の基本図書の他に、専門図書・雑誌を重点的に収集している。従来から文学部哲学科教育学専攻において、「臨床心理学」、「教育心理学」関係の教育、研究が展開されていたことから、臨床心理学に関する図書・資料を既に多数所蔵している。この他、国宝『類聚古集』・重要文化財『李柏尺牘稿』をはじめとする貴重書、特に真宗・仏教・文学等に関するコレクションを多数所蔵しているのが大きな特徴である。同館の蔵書数は、図書約 682,000 冊、雑誌約 5,300 種類、視聴覚資料約 5,300 点である。

大宮図書館は、事務室をはじめとする管理スペース、閲覧室、閲覧カウンター、貴重書庫、貴重書閲覧室、マイクロ資料室、視聴覚資料室、軽読書室等を有する地上 4 階（1 階は半地下、延床面積 5,403 m²）スペースと 7 層の積層書庫（延床面積 1,557 m²）から成っており、別棟となる西翼の地下書庫（延床面積 1,282 m²）とは専用通路で繋がっている。閲覧席数は 311 席（視聴覚ブース、インターネット端末、CD-ROM 端末を含む）である。

上記の図書・雑誌等の紙媒体資料に加え、現在、47 種類のオンラインデータベース（電子ジャーナルを含む）等の電子媒体資料も一部を除き学内・学外から利用ができるよう整備をしており、今後も積極的な導入を計画している。

開館時間については、学生の自主学習時間確保のために、両館とも通常授業期間中の平日は 21 時 45 分、土曜日・日曜日は 17 時まで開館している（大宮図書館の日曜開館は、試験期間中のみ）。

また、相互協力については、学内 3 図書館間の相互貸借、文献複写サービスをはじめとして、他大学図書館との相互貸借・文献複写サービス、大学コンソーシアム京都共通閲覧システム、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会共通閲覧証協定へ参加等、他大学図書館等との協力も積極的に行っている。

ク 入学者選抜の概要

1. 文学部臨床心理学科のアドミッションポリシー

文学部では、龍谷大学の建学の精神のもとついで、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人の育成を目指している。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

- ①文学部の教育理念や目的を十分に理解している人
- ②明確な目的意識と学習意欲を持った人
- ③人文学の基盤となる「言葉」に対する鋭い感覚と正しい理解、そして豊かな運用能力のさらなる向上をめざして努力することのできる人

2. 文学部臨床心理学科の選抜方法

臨床心理学科は入学定員を 92 名とし、以下の入学試験を実施する予定である。

(1) 一般入学試験

一般入試は、A 日程・B 日程・C 日程において実施する。

(2) 大学入試センター試験を利用する入学試験

大学入試センター試験を利用する入試は、前期・中期・後期の 3 期に分けて実施する。

(3) スポーツ活動選抜入学試験、文化・芸術・社会活動選抜入学試験

スポーツの振興、国際スポーツ交流を目的としてスポーツの分野において優れた能力と実績を有するとともに、臨床心理学科の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。

また、文化活動・芸術活動・ボランティア等の社会活動、各種検定等の面において顕著な実績を有するとともに、臨床心理学科の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。

(4) 帰国生徒特別入学試験、外国人留学生入学試験、外国人留学生推薦入学試験

保護者の海外勤務、その他の事情により外国の教育を受け帰国し、海外における体験や経験を有する生徒で、臨床心理学科の教育理念に共感できる者を受け入れるための入試を実施する。

また、多様な文化を背景にした生徒で、臨床心理学科の教育理念に共感できる者を受け入れるため、外国人留学生（正規留学生及び特別留学生）のための入試を実施する。なお、本学留学生別科からの推薦を得た者の推薦入試も実施する。

（５）公募推薦入学試験

２教科型公募推薦入試を実施する。

（６）龍谷大学付属平安高等学校推薦入学試験、教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験、指定校推薦入学試験、高大連携協定校推薦入学試験

龍谷大学付属平安高校、教育連携校、関係校、指定校、高大連携協定校からの推薦入試では、これら付属高校等との信頼関係にもとづき、臨床心理学科が一定の受け入れ入学枠を設定し実施する。

（７）社会人推薦入学試験

入学年度の４月１日現在において、満 23 歳に達している者で勤労者等（就業者・就業予定者等、就業経験のある者）、主婦等（主婦、その他家事従事者）、寺院関係者のいずれかに該当する者を対象として実施する。

３．文学部臨床心理学科の選抜体制

一般入試、大学入試センター試験を利用する入試及び公募推薦入試は、入試部を中心として全学体制で実施し、文学部が合否を判定する。

スポーツ活動選抜入試及び文化・芸術・社会活動選抜入試は、書類審査による予備選考を行い、予備専攻を通過し本選考に出願した者を対象に、文学部が出願書類、小論文・面接試験の結果等を総合して、合否を判定する。

帰国生徒特別入試は、小論文試験と面接試験の結果をもとに、文学部が合否を判定する。

外国人留学生の選抜方法は、書類審査、筆記試験及び面接試験の結果をもとに、文学部が合否を判定し、龍谷大学留学生別科からの推薦入試は、文学部が入学枠を設定し面接により入学を許可する。なお、龍谷大学では、外国人留学生の経済的困難を緩和するため、私費外国人留学生の授業料の 40%を留学生学費援助奨学金として給付し、経済面から留学生の大学生活を支援している。

公募推薦入試を除く各種推薦入試については、文学部が実施し合否を判定する。

４．文学部臨床心理学科の編入学・転入学制度

３年次に編入学・転入学制度を設ける。ただし、平成 26（2014）年度入試から実施する。編入学定員は 3 名として、臨床心理学科の専門課程の履修に必要な基礎的素養について試験し、文学部が合否を判定する。

このほか、科目等履修生の受け入れを行う。臨床心理学科の科目等履修生の定員は、若干名とし、一般学生の学修環境に支障が出ない範囲で受け入れる。

ケ 資格取得

文学部臨床心理学科では資格取得を卒業要件とはしない。学則に規定されている関連科目を履修することにより、以下の資格取得（受験資格の取得を含む）を可能としている。

資格の名称	国家資格	民間資格	
高等学校教諭一種免許状（公民）	○		資格取得が可能
図書館司書	○		資格取得が可能
図書館司書教諭	○		資格取得が可能
学芸員資格	○		資格取得が可能
社会教育主事任用資格	○		資格取得が可能
本願寺派教師資格		○	資格取得が可能
認定心理士		○	受験資格の取得が可能

サ 学外実習

企業・行政機関・NPO 等において行う学外（国内）実習として、全学共通で実施している短期体験型の「協定型インターンシップ・プログラム」（実習期間 2 週間～1 ヶ月程度、科目名「特別講義」、卒業要件単位上限 4 単位（専攻科目））を実施しており、実習先は、インターンシップ支援オフィスが責任を持って確保している。なお、守秘義務については、学生と受入団体との間において誓約書を交わし、遵守することとしている。

一方、学外（海外）実習としては、龍谷大学が北米拠点として設置した龍谷大学バークレーセンターを利用した独自の留学プログラム（BIE Program）の中に組み込まれたインターンシップ（ボランティア活動）（科目名「バークレーインターンシップ」、卒業要件単位上限 6 単位）がある。

海外研修としては、上記 BIE Program 中の「バークレー語学」（卒業要件単位としては上限 12 単位）、「バークレー講義」（卒業要件単位上限 6 単位）があり、留学期間は在学期間に算入される。

さらに、臨床心理学科の教育課程の特色の一つでもある、対人援助の現場における学外実習を積極的に実施する。具体的には、近畿各地の様々な福祉施設、京都市を中心とした小中学校、ビハーラ活動を行っている高齢者施設での実習や、精神科のリハビリテーションにかかわるデイケア活動、ボランティア活動を含めた実習体験等を予定している。なお、これらの対人援助の現場における学外実習の実施に際しては、担当教員が「臨床心理学演習Ⅰ」においてオリエンテーション、事前・事後指導を十分に行うこととしている。

上記の実習科目について、厳格な成績評価にもとづいて単位認定を行い、ボランティア等の学外実習の安全管理については、対象学生に保険を掛ける等の対策を行う。

ス 編入学定員

3年次に3名の編入学定員を設け、平成26（2014）年度より編入学生を受け入れる。

編入学生の既修得単位は、入学時に、他大学・短期大学・高等専門学校において修得した単位のうち、64単位を超えない範囲で認定する。ただし、教養教育科目（フリーズゾーンを含む）56単位、専攻科目8単位を上限とする。

また、教育上の配慮として、入学時に、カリキュラムや履修方法について全体的なオリエンテーションを実施し、龍谷大学の教育全般について理解促進を図るとともに、2年間での卒業が可能となるよう個別の履修相談に応じ、必修科目の履修を含む適正な履修計画を立てられるように支援する。編入学生の履修モデルは【資料⑥：「文学部臨床心理学科 編転入学生用履修モデル」】に示す。

セ 2つ以上の校地において教育を行う場合

龍谷大学は、大学本部がある深草キャンパス（京都市伏見区深草）以外に、大宮キャンパス（京都市下京区七条通大宮）及び瀬田キャンパス（滋賀県大津市瀬田）の3つのキャンパスを有している。文学部の学生に対しては主に1・2年次生は深草キャンパス、3・4年次生は大宮キャンパスにおいて教育を行う。

なお、両キャンパス間は、スクールバスを利用することにより、約15分で移動可能である。また、1・2年次配当科目の再履修等、3年次以上の学生が深草キャンパス開講科目の履修が必要となった場合でも、受講に支障のない時間割編成に配慮し、履修指導等で学生の将来像に応じ、個別に対応できるような指導体制を構築していく。

なお、臨床心理学科専任教員の担当授業科目は、深草・大宮両キャンパスに及ぶが、同一曜日に両キャンパスで科目を担当する場合、十分な移動時間を確保し授業に支障を来さないよう配慮しており、2キャンパスで授業を行うことによる教員の教育・研究上の支障は生じない。また、専任教員の個人研究室は大宮キャンパスに配置されているが、深草キャンパスにおける学生対応については、共同研究室や教員と学生が講義時間外に交流を深めるために設置されている「Learning Crossroads」等のスペースを用意しており、様々な要望に対応できるよう配慮している。

ツ 管理運営

文学部では、龍谷大学学則第63条にもとづき、教授会を設置する。

構成員については、文学部教授会規程において専任の教授、准教授、講師をもって組織することとし、また、教授会における審議・決定事項として、①教育職員の人事に関する事項、②学部長及び評議員の選挙に関する事項、③研究及び教授に関する事項、④学科課程の編成、履修の方法および課程修了の認定に関する事項、⑤学業評価に関する事項、⑥学生の入学、退学、休学、復学および卒業に関する事項、⑦学生の補導厚生に関する事項、⑧学部内諸規程の制定改廃に関する事項、⑨学位称号に関する事項、⑩その他学部における重要な事項、を規定している。

また、本教授会は学部長が招集し議長となり、構成員の3分の2以上の出席をもって成立することとしており、月2回程度開催している。

なお、教授会の円滑な運営を図るため、学部長、教務主任、研究主任、キャリア開発主任、学生生活主任からなる執行部会議を設け、教授会の議題の精選、審議事項の調整を図っている。

テ 自己点検・評価

龍谷大学では、建学の理念や目的、教育目標等を達成するために、教育研究活動等の諸活動について、継続して自己点検・評価を行うために、平成 15（2003）年 11 月に「大学評価に関する規程」を制定した。本規程にもとづき、大学執行部メンバーを中心に構成する全学大学評価会議、学長指名の 14 名で構成する大学評価委員会を設置し、全学的な自己点検・評価を実施している。平成 18（2006）年には、財団法人大学基準協会による相互評価並びに認証評価を受審し、平成 19（2007）年 4 月に大学評価の基準に適合しているとの認定を受けた。その際、助言として提言された事項については、計画的に改善に努め、長所として特記された事項は、一層の充実を図りながら、高等教育機関としての教育研究の質保証に取り組んでいる。本自己点検・評価結果は、龍谷大学自己点検・評価報告書としてまとめ、龍谷大学ホームページへ掲載するとともに、大学や関連機関等へ配布し、広く社会に公表している。

平成 20（2008）年 11 月には、さらなる自己点検・評価の実質化をめざして、大学評価に関する規程にもとづき、龍谷大学における新たな自己点検・評価制度の確立に向けた「基本方針」を策定し、自己点検・評価に取り組むこととした。その基本方針は次の 4 点である。①改善につながる確実な手法による自主的・継続的な自己点検・評価を行う。②大学基礎データを体系的・一元的に収集・整理する。③体系的な計画立案に資するためにデータの横断的利用を可能にする。④より明確で信頼を得られる社会への説明を行う。

龍谷大学では、これらの基本方針にもとづき、平成 20（2008）年 11 月に「龍谷大学 自己点検・評価指標データベースシステム」を構築することを決定した。本データベースシステムの導入は、大学基礎データ等を系統的かつ一元的に蓄積・集約し、PDCA サイクルを回転させ、各部署が行う自己点検・評価の結果を改善・改革に結びつけることを目的としており、平成 23（2011）年度から同システムを本格稼働させている。

さらに、自己点検・評価の結果を改善・改革に結びつける仕組みとして、龍谷大学における内部質保証システムを構築し、平成 23（2011）年度から実施している。各学部・研究科及び各部署は、それぞれ自己点検・評価委員会等を設置し、上述のデータベースシステムを活用して年度毎に自己点検・評価を実施する。その自己点検・評価結果は、大学評価委員会においてピア・レビューを行い、当該学部・研究科及び各部署へフィードバックする。また、年度毎に取りまとめた自己点検・評価報告書は、毎年度ホームページ等を通じて公開し、社会に対する説明責任を果たすことにより社会から信頼される大学づくりをめざしている。

文学部では、上述のような全学的な自己点検・評価システムを活用し、文学部が掲げる理念や目標に照らして、文学部全体の課題共有の機会として自主的・継続的な自己点検活動を行う。また大学評価委員会によるピア・レビューのフィードバックに対して、文学部内に設ける文学部・文学研究科自己点検・評価委員会が改善・改革の方針を検討し、文学部執行部の責任により改善策・改革策を実施する。

ト 情報の公表

龍谷大学では、在学生、保護者、卒業生、受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信し、社会から魅力ある大学として評価を得るよう努めている。また、龍谷大学の諸活動に関する社会的責任や説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、構成員による自律的な運営及び教育研究の質の向上に資することを目的として、「学校法人龍谷大学情報公開規程」及び「情報公開規程に関する細則」を制定し、積極的な情報公開に努めている。公開内容は次のとおりである。

①大学の教育研究上の目的に関すること

- ・学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 教育活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②教育研究上の基本組織に関すること

- ・教育研究組織図を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 組織 > 教育研究組織図

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html>

- ・研究関連組織図を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 組織 > 研究関連組織図

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/research.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員組織、各教員が有する学位及び業績

龍谷大学教員データベース who's who

<http://www.ryukoku.ac.jp/who/index.php>

- ・教員数を職階別・男女別と年齢別に分けて掲載

HOME > 龍谷大学について > 教員数（職階別・男女別数）2010年5月1日現在

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

HOME > 龍谷大学について > 教員数（年齢別数）2010年5月1日現在

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・入学者に関する受入方針

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 教育活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

- ・入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数

HOME > 龍谷大学について > 龍谷大学基本情報（FACT BOOK）

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html#factbook02>

- ・進学者及び就職者数その他進学及び就職等の状況

HOME > 在学生の方へ > 就職関連統計資料 > 業種別就職状況
<http://career.ryukoku.ac.jp/zaigaku/gyousyu/index.html#str>

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・シラバス

HOME > 学部・大学院・短大
<https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/SYLD110lnit.do>

- ・学年暦

HOME > 学生生活・就職支援 > 学年暦
http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/calendar/index.html

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・「教育理念・目的」と「教育課程編成・実施の方針」

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 教育活動に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・深草キャンパス、大宮キャンパス、瀬田キャンパス、大阪梅田キャンパス、東京オフィス、RUBeC (Ryukoku University Berkeley Center)、アバンティ響都ホール等の特色や交通案内について説明。

就職活動を行う学生・卒業生・学外者の利用の多い大阪梅田キャンパス、東京オフィスについてはホームページを開設し、就職支援、生涯学習講座の案内・広報、就職支援、証明書発行等について掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 校地・校舎等の施設・設備に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

- ・図書館、龍谷ミュージアム

図書館のホームページでは、深草・大宮・瀬田キャンパスの図書館の開館案内及び利用案内のほか、蔵書・資料検索等が行える。平成 23 (2011) 年 4 月開館の龍谷ミュージアムについても、ホームページを開設し、施設紹介及び利用案内のほか、特別展・企画展等について分かりやすく紹介している。

HOME > 図書館・龍谷ミュージアム
<http://www.ryukoku.ac.jp/library/index.html>

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・授業料・入学金・施設費等の学費及び諸会費について掲載している。

HOME > 学生生活・就職支援 > 奨学金・学費について
http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/index.php

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・奨学金、アルバイト紹介、相談窓口（ハラスメントに関する相談等）、資格取得支援、就職

支援に関する情報を掲載している。保健管理センターのホームページでは、各種健康相談・診療に関する情報について掲載している。

HOME > 学生生活・就職支援 > 学生生活・就職支援

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/index.php

⑩その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

・学則等各種規程の公開

龍谷大学学則、龍谷大学大学院学則、龍谷大学専門職大学院学則、龍谷大学短期大学部学則、龍谷大学留学生別科規程、龍谷大学学位規程、龍谷大学短期大学部学位規程、ハラスメントの防止等に関する規程、「学生懲戒規程」制定の趣旨、学生懲戒規程、学費等納入規程、発明規程等を公開している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 学則・諸規程等に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

・設置認可申請書、設置届出書

設置認可申請書、設置届出書のうち「設置の趣旨等を記載した書類」「学則変更の趣旨等を記載した書類」を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公開 > 設置認可申請書等について (PDF)

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/application.html

・設置計画履行状況報告書

対象となる「理工学研究科情報メディア学専攻及び環境ソリューション工学専攻（博士後期課程）」及び「実践真宗学研究科実践真宗学専攻（修士課程）」の設置計画履行状況報告書を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公開 > 履行状況報告書について (PDF)

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/execution.html

・自己点検・評価報告書、認証評価の結果

龍谷大学が平成 18（2006）年度に行った自己点検評価内容、平成 18（2006）年度の大学基準協会による認証評価結果、平成 21（2009）年度の大学基準協会による法科大学院認証評価結果、平成 22（2010）年度の大学基準協会による短期大学認証評価結果を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公開 > 自己点検・評価、認証評価結果

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

さらに、文学部が行う講演会やセミナー等の多くの教育研究活動を、WEB を介して広く学内外に周知できるよう平成 21（2009）年 10 月に文学部ホームページをリニューアルし、受験生がこれまで以上に文学部での教育や研究活動に対して興味や関心を持つことができるよう対応している。

このほか、入学案内誌、本学の様々な取り組みや学生・教職員・卒業生の活躍を紹介するための広報誌「龍谷」（年 2 回発行）、学生スタッフによる学生の視点から龍谷大学の様々な取り組みや学生支援情報等を在学生に紹介する学生情報誌「XR（クロスアール）」等も発行している。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

龍谷大学では、「教育の拡充」を最重要課題と位置づけた第4次長期計画の下、各学部・学部共通コース・教養教育等の各グループ及び個人のFD活動を支援するとともに、個々のFD活動の成果を集約し、全学に普及させることを目的として、平成13（2001）年4月に大学教育開発センター（以下、「センター」という。）を設置した。

「大学教育開発センター設置規程」にもとづき、その運営に関する重要事項を審議・決定するために、大学教育開発センターの下に、各学部教務主任を中心としたセンター会議を設置するとともに、センターの通常業務を執行するためにセンター運営委員会を設けた。その運営委員会の下には、FD・教材等研究開発検討部会、教育活動評価支援部会、交流研修・教育活動研究開発機能部会を設置し、学内におけるFD活動を積極的に推進してきた。

主なFD事業は、以下のとおりである。

- ①FD・教材等研究開発事業として、大学がテーマを指定しFD研究を行う指定研究プロジェクト（平成16（2004）年度～）、教職員（兼任講師を含む）が個々にテーマを設定して取り組む自己応募研究プロジェクト（平成10（1998）年度～）を募集・採択し、全学的なFD活動の普及を図っている。
- ②教育活動評価支援事業として、平成7（1995）年度より「授業アンケート」を実施してきた。現在は、「学生による授業アンケート」として毎学期末に実施し、各教育職員へ個別集計結果を配付し、授業改善のためのフィードバックを行っている。同アンケートの全体の集計結果については報告書として学内及び他大学に配付している。さらに龍谷大学の教職員・学生にはホームページを通じて全体集計を公開している。また、当該学期中に学生へのフィードバックが可能となるよう、平成22（2010）年度から学期半ばに実施する授業アンケート（記述式）を試行的に実施している。
- ③交流研修・教育活動研究開発事業として、FDフォーラム（平成17（2005）年度～）、ICT支援セミナー（平成14（2002）年度～）、公開授業・講評会（平成16（2004）年度～）を開催している。また、大学教育開発センター通信・FDサロンレポート（平成14（2002）年度～）・FDフォーラム報告書等を発行している。

平成20（2008）年11月に「大学教育開発センター設置規程」を一部改正し、すべての学部・学部にFD委員会を設置することとし、各学部FD委員会を中心としたFD活動とセンターのFD推進・支援がこれまで以上に有機的に連携・協働ができる推進体制を整備した。

平成21（2009）年1月には龍谷大学におけるFDを「各教学責任主体が掲げる、建学の精神にもとづいた教育理念・目標を達成するための組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指したすべての取り組み」と定義し、FD推進とその実質化を図っている。

さらに、学部・大学院のそれぞれのFDをより充実させるために、平成21（2009）年11月に、再度「大学教育開発センター設置規程」を一部改正し、既存の会議体（センター会議、センター運営委員会）の体制を継承しながら、学部FDを支援・推進する組織として学部FD会議を新たに設置した。

同年度から、各学部のFD活動（優れた教育取り組みの内容等）が全学的な教学資産として共有できるよう、各学部FD委員会が主催するFD報告会を全学公開で実施している。また、本FD報告会には、主にセンター会議構成員がアドバイザーボードとして参加し、ピア・レビューを行っている。

その他、平成20（2008）年4月に設立された関西FD連絡協議会への参加、平成20年度戦略

的大学連携支援事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」（代表校：佛教大学）に連携校として参画する等、FDネットワークの構築や研究、情報収集に努めている。

文学部では、文学部・文学研究科・実践真宗学研究科構成員からなる「文学部FD活動推進委員会」を設置し、教育のあり方についての協議及び授業等教育活動の改善を図っている。

また、「文学部FD活動推進委員会」とは別に、教育活動に関する教職員相互の情報交換や認識を共有する場として「文学部FD研究会」を年2回開催している。

二 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組

第1、第2セメスターに開講する「臨床心理学基礎演習Ⅰ」、第3、第4セメスターに開講する「臨床心理学基礎演習Ⅱ」の授業内や選択専攻科目「キャリア形成論」において、キャリア形成に関する講演会を開催する等、初年次からキャリア啓発に努めることによって、学びへの意欲を発揚するとともに、個々の学生の進路に対する動機付けを行い、入学後間もない段階で4年後の進路に対する将来設計を自発的に促す仕組みを取り入れる。とりわけ、第5セメスター以降の演習においては、担当教員による演習生への個別相談等を通して、個々の学生のキャリア形成支援を丁寧に行う。

臨床心理学科が養成する人材像として、対人援助の基本理念を臨床心理学の視点から理解し、援助のために活用できるコミュニケーション・スキルを備えた人材の養成を掲げていることから、演習科目での発表、実験実習科目での授業への主体的な取り組み等を通じて、これらの能力の修得を支援・指導していく。

全学的な取り組みとしては、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして、協定型インターンシップ・プログラム（科目名「特別講義」）、パークレーンインターンシップ・プログラムを用意し、将来の進路を探る有効な手段として参加を推奨している。

2. 教育課程外の取組

キャリア開発部を中心に、入学後の早い段階からのキャリア形成を重視し、様々なプログラムを実施している。1、2年次には、明確な進路観と職業観を育むためのプログラムを実施している。3、4年次には、就職活動のスケジュールに合わせたタイミングでガイダンスやセミナー、説明会等を開催している。さらに、様々な資格の取得を支援する「資格取得・就職支援講座」（課外講座）も開設している。こうした取り組みを通して、すべての学生に対して、望む進路の実現を支援している。

キャリア開発部の窓口では、キャリアカウンセラーの資格を有するスタッフが自己分析の診断や個別相談、筆記模擬試験結果の相談等に対応している。関西圏で就職活動する学生に対しては大阪梅田キャンパス、首都圏で就職活動する学生に対しては東京オフィスにおいて、大宮キャンパス、深草キャンパス、瀬田キャンパスにおける支援と同様のキャリア支援を行っている。こうした仕組みを用意することによって、昨今の景気後退による厳しい就職活動環境にも対応した効果的な就職支援を実施している。

龍谷大学の就職活動支援として、「face to face 面談強化による就活リスタート支援」プロ

グラムが、平成 21（2009）年度文部科学省「大学教育・学生支援事業【テーマ B】学生支援推進プログラム」に採択されている【資料⑦：「龍谷大学キャリア開発支援体系図」】。

3．適切な体制の整備

学部執行部の一員としてキャリア開発主任を置くことにより、教育課程内において系統的かつ体系的にキャリア教育が取り組めるようにするとともに、キャリア開発主任がキャリア開発部とのつなぎ役となって、教育課程の内と外が有機的に連携したキャリア開発支援（キャリア教育・就職支援等）を実施していくことができる体制を構築している。

（1）学内の支援組織

①全学キャリア開発会議

本学におけるキャリア開発支援を有効的に実施し、学生の就職支援・キャリア教育等の充実が図れるよう、学長を議長とする全学キャリア開発会議を設置している。本会議には、文学部長が委員として参加しており、文学部と大学全体との有機的な連携を図っている。

②キャリア開発主任会議

キャリア開発支援の問題について全学的に協議・調整を行い、キャリア開発支援の円滑な推進を図るため、全学キャリア開発会議のもとにキャリア開発主任会議を設置している。本会議には、文学部キャリア開発主任が委員として参加し、文学部と大学全体との有機的かつ緊密な連携を図っている。

（2）学生への支援内容

①学生支援推進プログラムの推進

WEB 履修登録と連動した「就職状況把握システム」により、活動の結果が出始める 4 月時の全卒業年次生のデータを集積し、そのデータから就職活動が進展していない学生を把握し、支援を行っている。

②留学生及び障がいをもつ学生へのキャリア開発支援

留学生に対しては、学部学生と同様に個別就職説明会を開催する。情報を必要とする学生の把握に努め、積極採用を行っている企業の情報を提供し、マッチングに努めるとともに、自己分析や面接対策等の講座で構成されている就職支援プログラムを実施している。

また、障がいをもつ学生に対しても個別就職説明会の開催や、積極的採用を行う企業の明確化等の支援を行っている。

③卒業生支援の充実

卒業生支援については人材派遣会社と業務契約を行い、カウンセリングを中心とした就職・転職支援を実施している。また、既卒者対象の求人情報の収集、求人開拓を積極的に行い、卒業生に対して求人情報を提供することによりマッチングに繋げている。

以 上

平成 23 年 3 月 10 日

龍谷大学文学部臨床心理学科
龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻
設置構想に係るニーズアセスメント調査

報 告 書

《 抜 粋 》

株式会社 紀伊國屋書店

目 次

1 章 龍谷大学文学部臨床心理学科の入口調査	
1. 調査の概要	・・・ P. 1
2. 龍谷大学文学部臨床心理学科	
設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純結果	・・・ P. 3
3. 各質問の分析	・・・ P. 8
4. 考察	・・・ P. 23
2 章 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の入口調査	
1. 調査の概要	・・・ P. 24
2. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻	
設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純結果	・・・ P. 25
3. 各設問の分析	・・・ P. 29
4. 考察	・・・ P. 36
3 章 龍谷大学文学部臨床心理学科および 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の出口調査	
1. 調査の概要	・・・ P. 37
2. 龍谷大学文学部臨床心理学科および 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻	
設置構想に係るアンケート調査質問項目・単純結果	・・・ P. 38
3. 各設問の分析	・・・ P. 44
4. 考察	・・・ P. 57
外部資料	
① 心理系の大学一覧（近畿エリア）	・・・ P. 58
② 平成 22 年の大学進学率と現・高校 2 年生（2 府 4 県）	・・・ P. 59
③ 文学研究科教育学専攻	
（臨床心理学領域）志願・合格・入学	・・・ P. 60
④ 児童福祉施設の年次別常勤換算従事者数の推移	・・・ P. 61
⑤ スクールカウンセラーの設置校数と 不登校児童生徒数の推移	・・・ P. 62

1 章

龍谷大学文学部臨床心理学科の入口調査

1. 調査の概要

○調査期間：平成 23 年 1 月 28 日（金）～2 月 2 日（水）終日

○調査方法：インターネットを利用してアンケートを実施、回答を集計。

○調査対象：進学を希望している高校 2 年生

※設置を予定している平成 24 年に、受験する可能性が最も高い学年のため。

○調査内容：質問は 10 問で、すべて選択枝式。

■主な質問項目

『進学先の希望について』

『龍谷大学文学部臨床心理学科（構想中）の印象について』

『生徒の基本情報』

○対象地域：近畿圏を中心とした西日本全域

■地域の詳細

近畿エリア（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）

東海エリア（岐阜県、愛知県、三重県）

北陸エリア（新潟県、富山県、石川県、福井県）

中国・四国エリア（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、
徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

福岡エリア（福岡県）

○有効件数：600 件

○基本データ【性別・学年】

性 別	人 数	構 成 比
男	300	50.0%
女	300	50.0%
合計	600	100.0%

学 年	人 数	構 成 比
高校1年生	0	0.0%
高校2年生	600	100.0%
高校3年生	0	0.0%
合計	600	100.0%

○基本データ【エリア】

地域	件数	構成比	府県	件数	構成比
近畿	390	65.0%	滋賀	32	5.3%
			京都	62	10.3%
			大阪	155	25.8%
			兵庫	92	15.3%
			奈良	33	5.5%
			和歌山	16	2.7%
北陸	60	10.0%	新潟	24	4.0%
			富山	10	1.7%
			石川	15	2.5%
			福井	11	1.8%
東海	60	10.0%	岐阜	11	1.8%
			愛知	39	6.5%
			三重	10	1.7%
中国 ・ 四国	60	10.0%	鳥取	3	0.5%
			島根	2	0.3%
			岡山	7	1.2%
			広島	22	3.7%
			山口	7	1.2%
			徳島	3	0.5%
			香川	6	1.0%
			愛媛	9	1.5%
			高知	1	0.2%
福岡	30	5.0%	福岡	30	5.0%
合計	600	100.0%	23 府県	600	100.0%

2. 龍谷大学文学部臨床心理学科 設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純結果

■卒業後の進路についてお聞きます

Q1. 高校卒業後の希望進路について教えてください。(あてはまるもの全てに○)

選択項目	人数	構成比
国公立4年制(6年制)大学への進学 ※主に文系	140	23.3%
国公立4年制(6年制)大学への進学 ※主に理系	118	19.7%
私立4年制(6年制)大学への進学 ※主に文系	186	31.0%
私立4年制(6年制)大学への進学 ※主に理系	66	11.0%
短期大学への進学	71	11.8%
専門学校への進学	129	21.5%
合計	600	

Q2. 進学先の希望分野を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

選択項目	人数	構成比
経済・経営・商	105	17.5%
教育	87	14.5%
理学・工学	83	13.8%
文学	66	11.0%
外国語・国際	65	10.8%
その他	64	10.7%
心理学	56	9.3%
社会・福祉	45	7.5%
法・政治	42	7.0%
看護	40	6.7%
情報	38	6.3%
芸術	38	6.3%
理学・作業療法	36	6.0%
家政・生活	29	4.8%
体育	28	4.7%
薬	27	4.5%
医・歯	25	4.2%
農学	20	3.3%
環境	16	2.7%
人間関係	16	2.7%
観光	10	1.7%
合計	600	

Q3. あなたは、志望校を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。

(A 群・B 群それぞれについて、あてはまるもの全てに○)

【A 群：あてはまるものすべてに○】

選択項目	人数	構成比
学びたい分野の学部・学科がある	402	67.0%
目指す資格や免許が取得できる	304	50.7%
自分の興味に合わせて幅広く学べる	198	33.0%
専門分野について深く学べる	179	29.8%
実習・実験が充実している	92	15.3%
国際性が身につく	57	9.5%
教授陣が充実している	55	9.2%
教養教育に力を入れている	45	7.5%
フィールドワークが充実している	26	4.3%
他学部・他学科との連携が盛んである	26	4.3%
あてはまるものはない	26	4.3%
少人数教育である	21	3.5%
合計	600	

【B 群：あてはまるものすべてに○】

選択項目	人数	構成比
交通の便がよい	304	50.7%
自分の学力レベルに合っている	280	46.7%
キャンパスがきれい	255	42.5%
自宅から通える	230	38.3%
在学生の雰囲気自分が合っている	187	31.2%
校風がよい	185	30.8%
就職支援が充実している	173	28.8%
知名度が高い	154	25.7%
学費が安い	143	23.8%
奨学金制度が充実している	89	14.8%
伝統がある	81	13.5%
一部上場企業への就職者が多い	60	10.0%
公務員試験の合格者が多い	44	7.3%
家族が勧める	43	7.2%
高校の先生が勧める	38	6.3%
あてはまるものはない	22	3.7%
合計	600	

■龍谷大学についてお聞きます。

Q4. 龍谷大学をどの程度知っていますか。

選択項目	人数	構成比
学べる内容を知っている	87	14.5%
名前だけ知っている	325	54.2%
初めて知った	188	31.3%
合計	600	100.0%

■龍谷大学文学部「臨床心理学科」(設置構想中)についてお聞きます

Q5. 設置構想中の「文学部臨床心理学科」は次のような特徴があります。

あなたは、それぞれの特徴について、どの程度興味・関心を持ちましたか（以下の中から、最も当てはまるものを一つ選択して、番号を記入してください）。

1. 興味・関心を持った 2. やや興味・関心を持った 3. どちらとも言えない
4. あまり興味・関心を持たなかった 5. 興味・関心を持たなかった

	特徴	興味・関心度
特徴①	様々な心理的問題に対応できる「対人援助スキル」の基礎を修得 →医療・教育・福祉・宗教などの現場で「人の心理的困難」に対応	1・2・3・4・5
特徴②	臨床心理学の考え方に基づくコミュニケーション・スキルの獲得。その実践のために、3年生以降「医療・福祉臨床」領域、「学校・特別支援臨床」領域、「真宗・ビハーラ活動」領域に分かれる <医療・福祉臨床領域> 医療従事者や福祉施設の心理士、保育士、指導員などの援助技術について学ぶ。 <学校・特別支援臨床領域> 小中高等学校・幼稚園・保育園などの教育を目的とした教育現場の発達支援や教育補助、福祉・心理的援助について学ぶ。 <真宗・ビハーラ活動領域> 仏教・真宗活動における心理学的対人援助を理解することで、寺社活動やビハーラ活動にかかわる心理学的支援について学ぶ。 ※ビハーラ活動とは・・・ 『生老病死（しょうろうびょうし）の苦しみのなかにある人びととの苦悩や痛みに関心し、その心に寄り添うことで少しでも和（やわ）らげようとする活動』	1・2・3・4・5

特徴③	卒業後の進路は、医療・教育・福祉・看護などの現場において、人々を支援する専門家として活躍。	1・2・3・4・5
	→高齢患者介護とその関係者への心理的支援を行うヘルパー	
	→医療現場での医療コーディネーター	
	→養護施設などの生活指導員	
	→子どもの個別の発達や学習にかかわる教育職員	

【特徴①】

選択項目	人数	構成比
興味・関心を持った	95	15.8%
やや興味・関心を持った	166	27.7%
どちらとも言えない	132	22.0%
あまり興味・関心を持たなかった	96	16.0%
興味・関心を持たなかった	111	18.5%
合計	600	100.0%

【特徴②】

選択項目	人数	構成比
興味・関心を持った	71	11.8%
やや興味・関心を持った	149	24.8%
どちらとも言えない	154	25.7%
あまり興味・関心を持たなかった	113	18.8%
興味・関心を持たなかった	113	18.8%
合計	600	100.0%

【特徴③】

選択項目	人数	構成比
興味・関心を持った	93	15.5%
やや興味・関心を持った	153	25.5%
どちらとも言えない	140	23.3%
あまり興味・関心を持たなかった	111	18.5%
興味・関心を持たなかった	103	17.2%
合計	600	100.0%

Q6. 龍谷大学文学部臨床心理学科（設置予定）を受験したいと思いますか。

選択項目	人数	構成比
受験したいと思う	16	2.7%
受験を検討したいと思う	84	14.0%
どちらとも言えない	149	24.8%
受験したいと思わない	351	58.5%
合計	600	100.0%

Q7. 龍谷大学文学部臨床心理学科（設置予定）に入学したいと思いますか。

選択項目	人数	構成比
入学したいと思う	21	3.5%
併願校の合否によっては入学を考える	76	12.7%
どちらとも言えない	163	27.2%
入学したいと思わない	340	56.7%
計	600	100.0%

3. 各質問の分析

Q1. 希望進路について

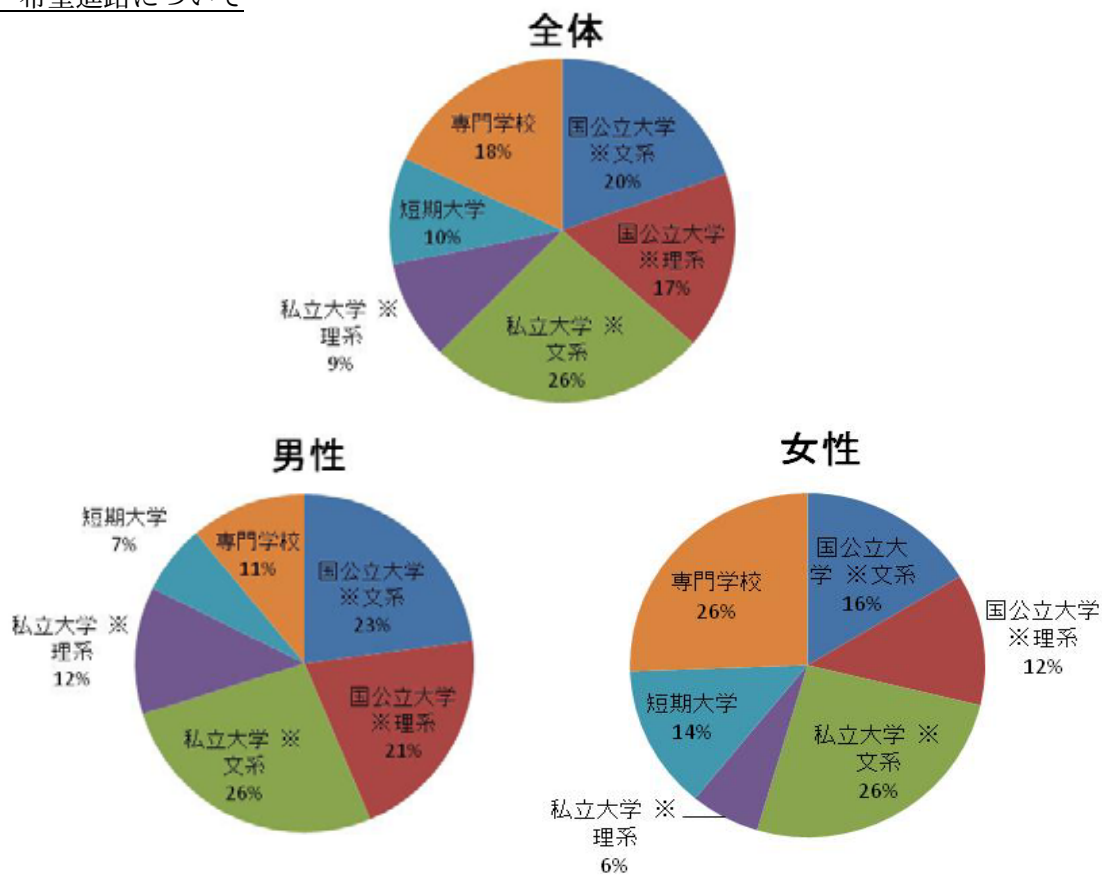
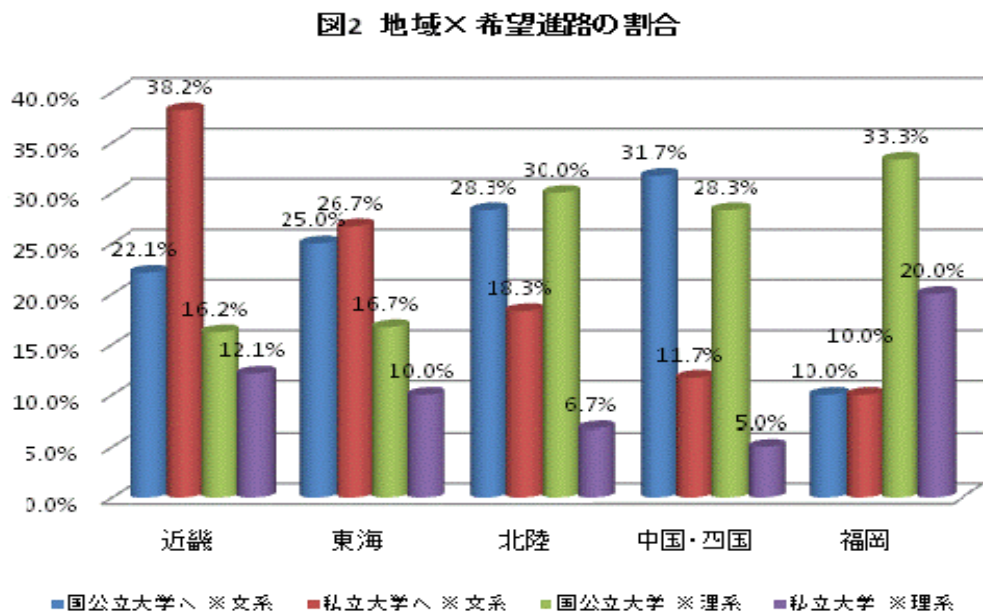


図1 進学希望先の比率



進学志望の高校 2 年生に希望進路を聞いたところ、600 人中 510 人（85.0%）が大学を選択した。最も多く選択されたのは、「私立大学 ※文系」186 人（31.0%）で、次いで「国公立大学 ※文系」が 140 人（23.3%）であり、合計 326 人（54.3%）の高校 2 年生が文系への進学を希望していることがわかる。

図 1 にて希望進路を男女別で比べると、希望進路で大学を選択した男性の割合は 82%であったが、女性は 60%であった。男女間で共通しているのは、「私立大学 ※文系」の回答が最も多く、共に 26%が回答している。

それぞれの特徴としては、男性が私立および国公立大学の「理系」希望が多く、女性は「専門学校」の回答が多い結果となった。

図 2 は、地域別での希望進路の割合（大学進学のみ）を示している。近畿と東海の高校 2 年生の回答として、「私立大学 ※文系」が最も多く、国公立大学も含めると、文系希望者は 50%を超える結果となった。特に近畿では、「私立大学 ※文系」の回答が 38.2%もあった。

一方、その他の地域では、「国公立大学 ※理系」と回答した層が近畿、東海と比べ多い。特に福岡では、50%以上が理系を志望している。北陸、中国・四国は、文系・理系共に「国公立大学」を希望していることがわかる。

Q2. 進学希望分野について

進学先の希望分野を聞いたところ、心理学は6番目に多い回答を得た。心理学は600人中、56人(9%)およそ10人に1人が心理学への進学を希望していることがわかる。

最も多かった回答は「経済・経営・商」105人(17.5%)で、次いで「教育」87人(14.5%)、「理学・工学」83人(13.8%)であり、全体的に文系の分野に回答が多かった。

図3は各希望分野を、男女別で表したものである。心理学を見ると男性が20人、女性は36人回答しており、女性の方が希望数が多い。女性のみで見ると、教育の46人に次いで心理学の36人が多い回答があることから、心理学は女性からの人気分野であることがわかる。

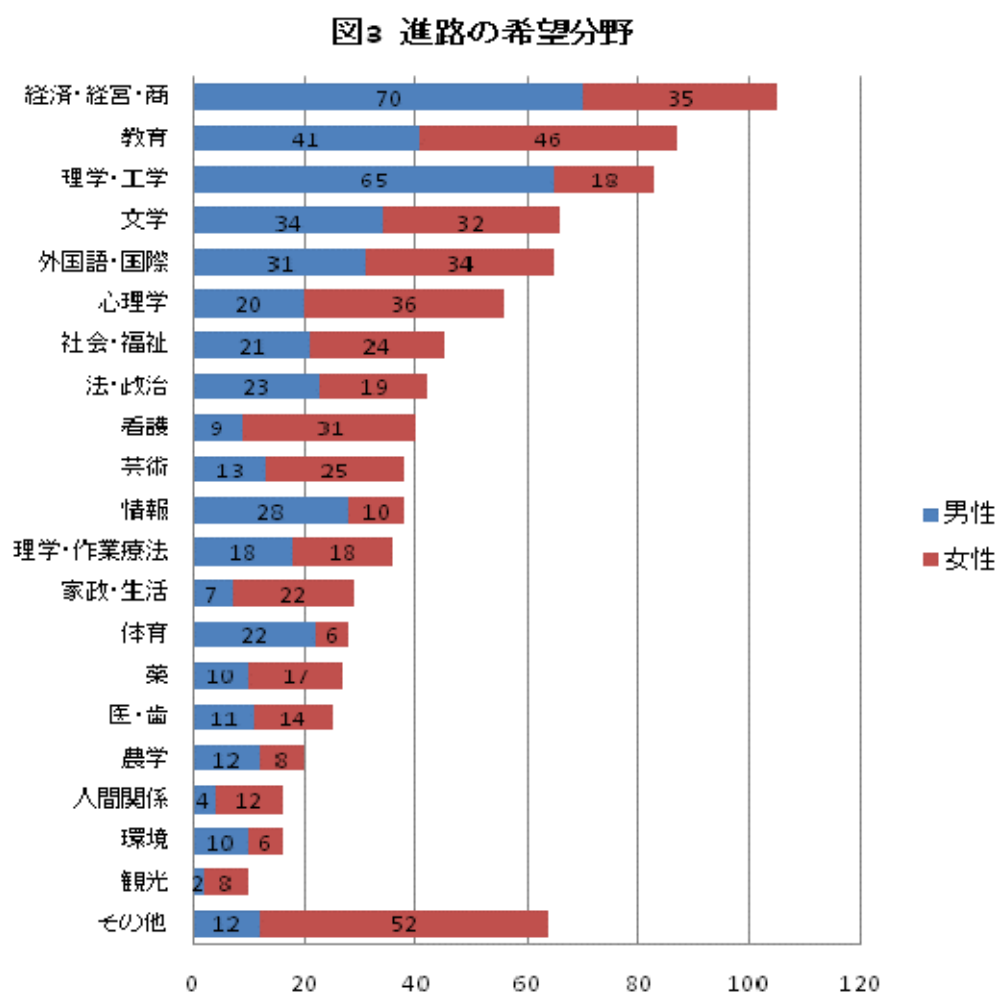


図4 進路の希望分野×地域

	近畿	東海	北陸	中国・四国	福岡
経済・経営・商学	19.2%	13.3%	18.3%	16.7%	3.3%
教育	14.6%	13.3%	11.7%	20.0%	10.0%
理学・工学	14.6%	15.0%	10.0%	10.0%	16.7%
文学	12.3%	8.3%	3.3%	8.3%	20.0%
外国語・国際	12.3%	10.0%	3.3%	10.0%	10.0%
その他	10.3%	13.3%	8.3%	6.7%	23.3%
心理学	9.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
社会・福祉	7.9%	8.3%	5.0%	8.3%	3.3%
法・政治	6.7%	15.0%	5.0%	3.3%	6.7%
看護	5.1%	13.3%	5.0%	11.7%	6.7%
情報	6.2%	11.7%	5.0%	5.0%	3.3%
芸術	6.4%	10.0%	8.3%	1.7%	3.3%
理学・作業療法	4.9%	5.0%	10.0%	5.0%	16.7%
家政・生活	3.6%	8.3%	15.0%	1.7%	0.0%
体育	4.4%	3.3%	5.0%	6.7%	6.7%
薬	3.1%	10.0%	3.3%	5.0%	13.3%
医・歯	3.3%	5.0%	5.0%	8.3%	3.3%
農学	2.8%	3.3%	5.0%	5.0%	3.3%
環境	2.8%	1.7%	1.7%	3.3%	3.3%
人間関係	2.3%	6.7%	1.7%	3.3%	0.0%
観光	1.8%	0.0%	1.7%	1.7%	3.3%

図4で地域による希望分野の割合がわかる。近畿で最も回答が多かった分野は「経済・経営・商」で19.2%になった。他の地域では、東海「理学・工学」と「法・政治」で15.0%、北陸「経済・経営・商」で18.3%、中国・四国「教育」で20.0%、九州「文学」で20.0%であり、地域によって人気の希望分野が違う結果となった。

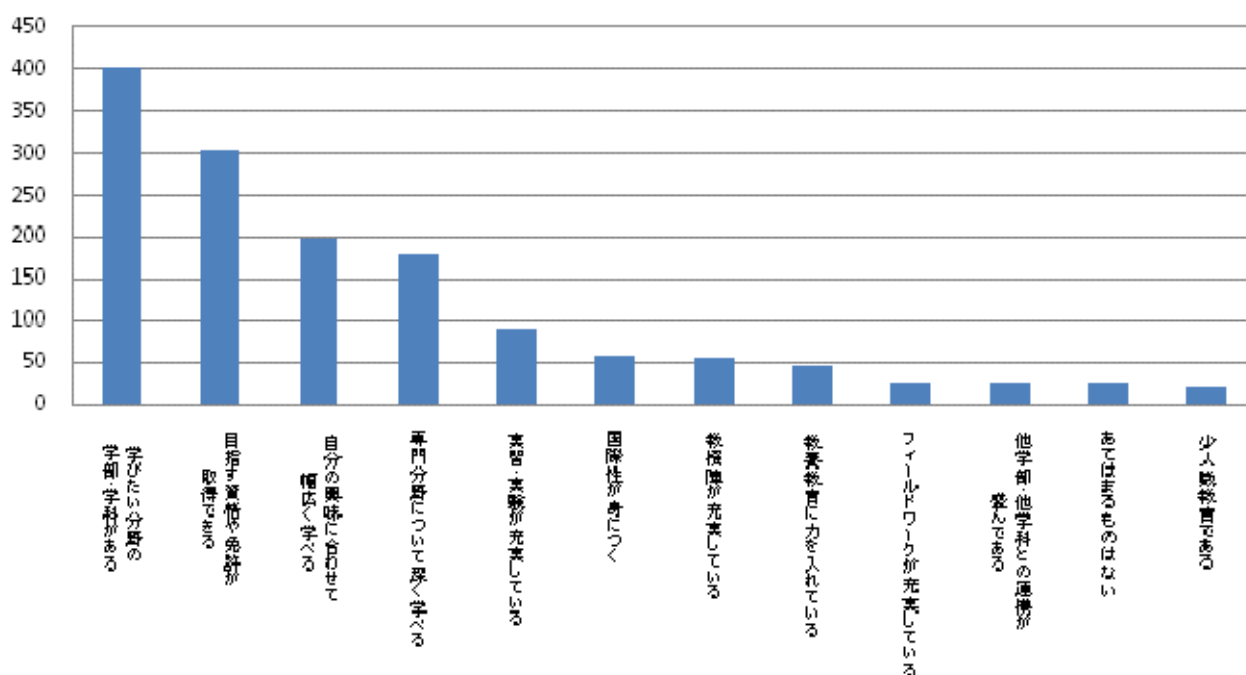
「心理学」は近畿、北陸、中国・四国で6番目、東海、福岡で7番目に多く、その割合で見ると、どの地域からも約10%の高校2年生が、希望進路の一つとして考えられている分野であることがわかる。他の分野と比べると、一定の希望者が地域に関係なく存在しているのが「心理学」の特徴と言える結果となった。

Q3. 志望校を選ぶ際に重視すること【A群】

高校2年生が志望校を選ぶ際に重視することについて、選択肢A群では、図5の通り「学びたい分野の学部・学科がある」を402人（67%）が回答し、次いで「目指す資格や免許が取得できる」の304人（51%）、「自分の興味に合わせて幅広く学べる」198人（33.0%）、「専門分野について深く学べる」179人（29.8%）の順に回答があった。

上位4項目より、高校生うちに学びたいことや取得したい資格を明確にして、それに当てはまる大学を志望校として選択すると推測できる。

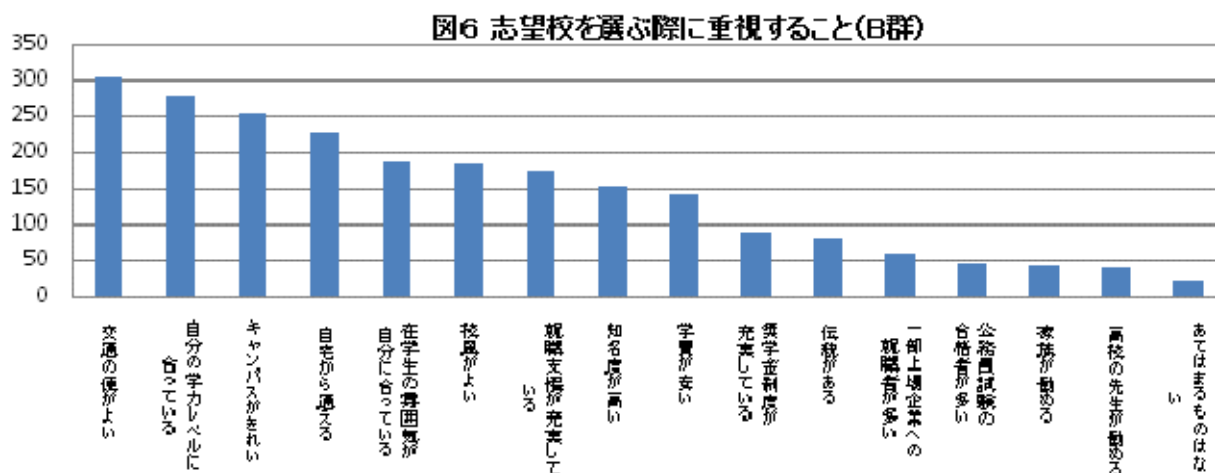
図5 志望校を選ぶ際に重視すること(A群)



図で表わしていないが、A群の回答について男女間で回答に差があったのは、「実習・実験が充実している」であった。それぞれの回答数として男性が29人（9.6%）に対して、女性は63人（21.0%）であり、女性は「実習・実験の充実」が志望校を選ぶ際に、重視していることがわかる。

また、地域別ではA群に対して上位に大きな変動は見られなかった。志望校を選ぶ際の重視することに関して、高校2年生は地域に関係なく志望校を選んでいる。

Q3. 志望校を選ぶ際に重視すること【B群】



B群では、図6の通り、「交通の便がよい」を304人（50.7%）と半数が回答し、次いで「自分の学力レベルに合っている」の280人（46.7%）、「キャンパスがきれい」255人（42.5%）「自宅から通える」230人（38.3%）の順で選択された結果となった。

「交通の便がよい」「自宅から通える」など、通学に関連することを、重視している傾向がある。

「キャンパスがきれい」や「在学生の雰囲気が自分に合っている」との回答が上位に来ていることから、大学に訪問・見学してから、志望校を決定している傾向があると予想される。

B群の回答について男女間で回答に最も差があったのは、「在学生の雰囲気が自分に合っている」であり、男性が75人（25.0%）、女性は112人（37.3%）であった。その他の回答に関しては、大きく差はなかった。

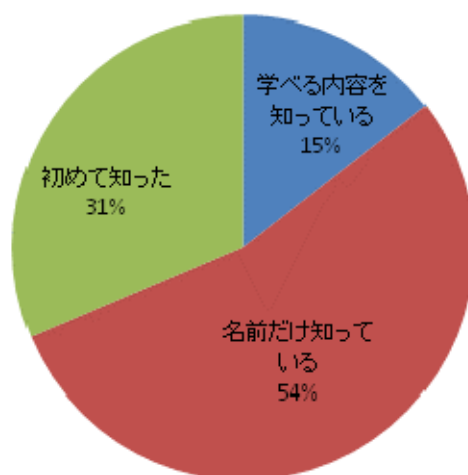
地域間では回答に若干の違いが見られた。「交通の便がよい」「自分の学力レベルに合っている」はどの地域でも多数の回答があった。地域間で特に違いが見られたのは、近畿・東海といった、大学数が比較的多い地域では「自宅から通える」との回答を40%以上の高校2年生が選択したが、大学数が近畿・東海より少ない、その他の地域では上位に入らなかった。

図7 志望校を選ぶ際に重視すること×地域別

	1 番目		2 番目		3 番目		4 番目		5 番目	
近畿	交通の便がよい	53%	学力レベルが合っている	48%	自宅から通える	44%	キャンパスがきれい	44%	校風がよい	32%
東海	交通の便がよい	50%	自宅から通える	41%	学力レベルが合っている	38%	キャンパスがきれい	38%	在学生の雰囲気	33%
北陸	学力レベルが合っている	50%	キャンパスがきれい	43%	交通の便がよい	36%	在学生の雰囲気	35%	学費が安い	28%
中国・四国	交通の便がよい	45%	学力レベルが合っている	43%	キャンパスがきれい	38%	学費が安い	38%	就職支援	31%
福岡	交通の便がよい	50%	学力レベルが合っている	40%	キャンパスがきれい	36%	校風がよい	26%	在学生の雰囲気	26%

Q4. 龍谷大学の認知度

図8 龍谷大学の認知度



龍谷大学の認知度を聞いたところ、「学べる内容を知っている」高校2年生は、87人から回答があり、7人に1人は、龍谷大学を詳細に知っているという結果となった。「名前だけ知っている」との回答は325人であり、「学べる内容を知っている」の回答を含めると、600人中、412人（68.7%）と、多くの高校2年生は龍谷大学を認知していることがわかる。

図9は、龍谷大学の知名度を地域別にグラフ化したものである。グラフから、近畿での知名度は高く、19.7%が「学べる内容を知っている」と回答し、「名前だけ知っている」は65.6%で、85%もの高校2年生が龍谷大学を認知していることがわかる。他の地域では、東海が35.0%、北陸33.3%、中国・四国40.0%、福岡46.7%と、どの地域からも2～3人に1人は龍谷大学を認知しているとの結果となった。

また、図にはないが、「私立大学 ※文系」を希望している高校2年生は「学べる内容を知っている」と回答したのが41人で、次いで「国公立大学 ※文系」と回答した人の27人であり、龍谷大学は特に文系志向の高校2年生からの認知度が高いことがわかった。

図9 地域から見る龍谷大学の認知度

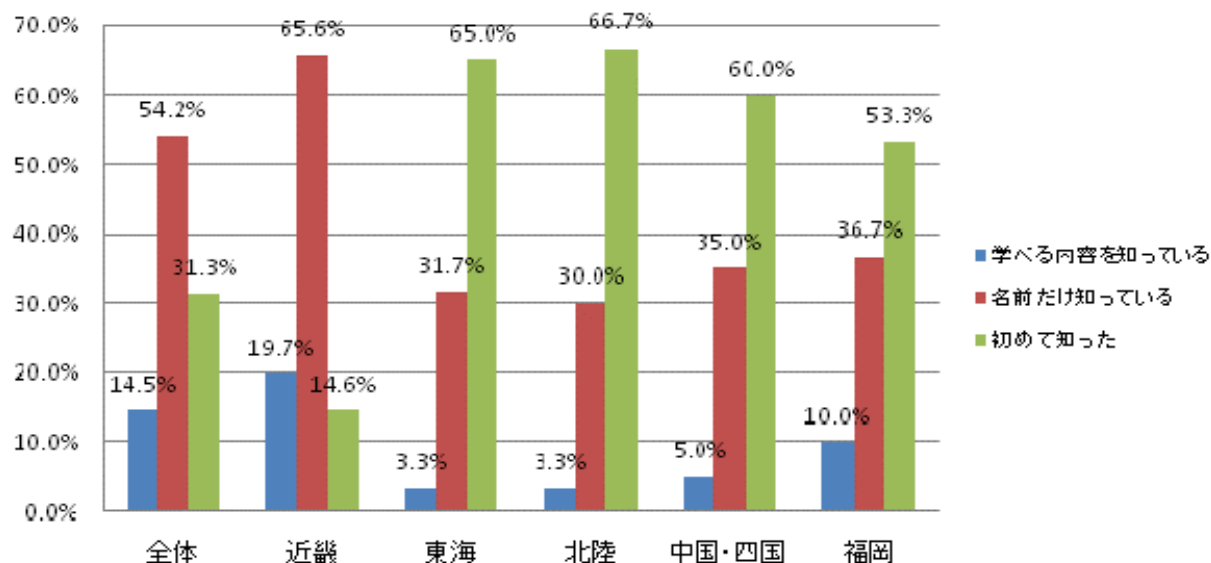
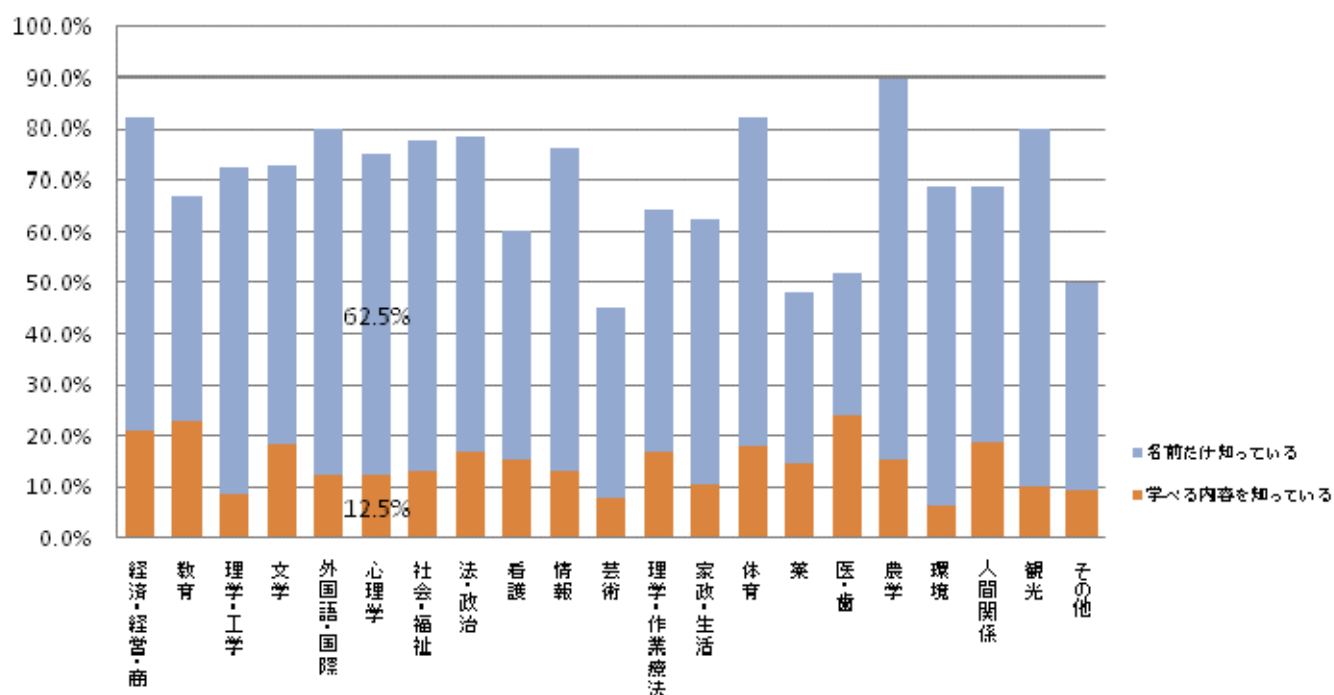


図10は、龍谷大学の認知度を、希望分野別に割合で示したものである。「心理学」希望の高校2年生の12.5%が、龍谷大学の「学べる内容を知っている」と回答し、62.5%が「名前だけ知っている」と回答している。つまり、「心理学」への進路希望者の75%が龍谷大学を認知していることがわかる。

下記のグラフの通り、「心理学」以外の分野希望者にも龍谷大学は認知されている。「経済・経営・商」「理学・工学」「文学」「外国語・国際」「心理学」「社会・福祉」「法・政治」「情報」など、龍谷大学に設置している学部・学科に関連する分野だけでなく、「体育」「農学」「観光」などの分野希望者でも70%を超えて龍谷大学を認知していることがわかった。

一方、「芸術」「薬」「その他」の分野希望者からの龍谷大学の認知度は、50%をきる結果となった。

図10 龍谷大学の認知度と希望分野



Q5. それぞれの特徴について、どの程度興味・関心を持ったのか

【特徴①】

「興味・関心を持った」が 95 人（15.8%）、「やや興味・関心を持った」が 166 人（27.7%）とそれぞれ回答があり、合わせて 261 人（43.5%）が興味・関心を持ったことになる。

特徴①に対しては、男女間での回答に対して特に差は見られない。地域別で見ると「中国・四国」と「福岡」「近畿」の高校 2 年生が特に高い興味・関心を持った結果となった。

図11 特徴①

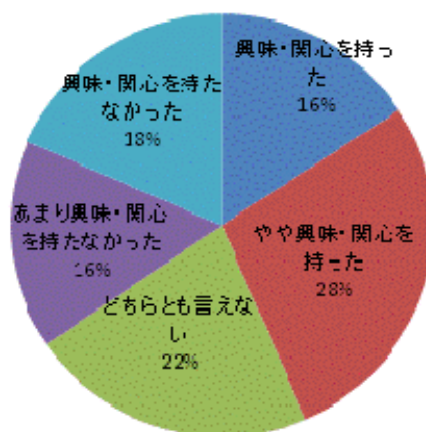
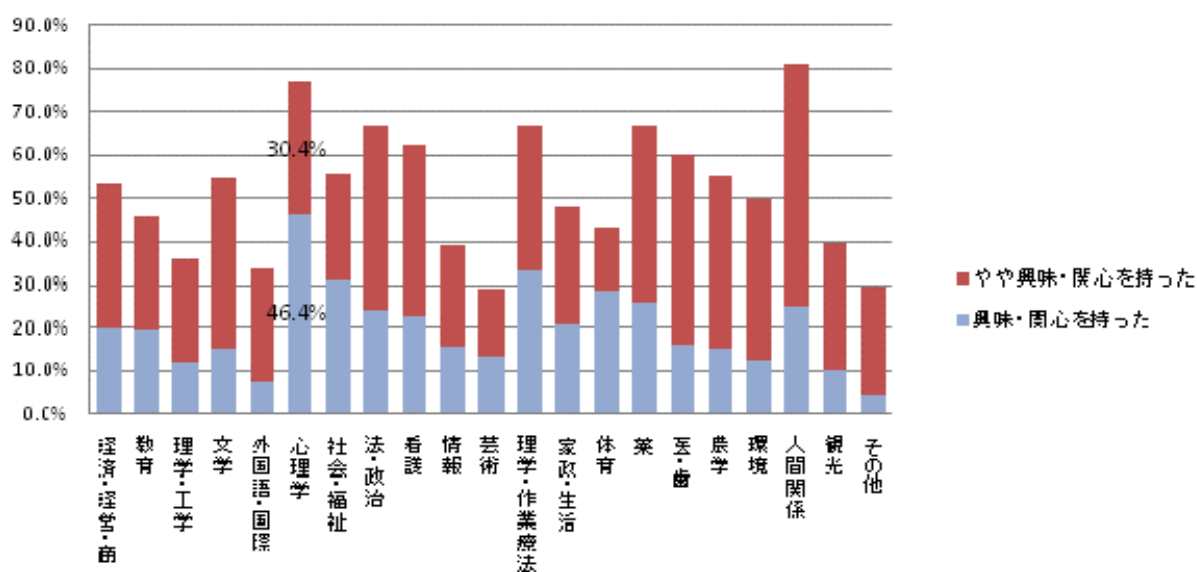


図 12 は、進学希望分野の回答と、特徴①で「興味・関心を持った」「やや興味・関心を持った」と回答のクロス集計であり、各分野からの興味・関心度を割合で示したグラフである。

グラフから、「興味・関心を持った」と回答した割合が最も高かったのは、「心理学」への進学希望者で、56 人中、26 人（46.4%）からの回答があった。「やや興味・関心を持った」と回答した 17 人（30.4%）を含め、76.8%が特徴①に関して興味・関心を持っていることがわかる。

その他では、「人間関係」「理学・作業療法」「薬」「医・歯」「法・政治」とそれぞれ回答した高校 2 年生のうち、60%以上が特徴①に関して、興味・関心を持った結果となった。「人間関係」への進学希望者では、80%以上が興味・関心を持ったと回答し、割合で見ると最も高い数値であった。

図12 特徴①×希望分野



【特徴②】

「興味・関心を持った」が 600 人中、71 人（11.8%）、「やや興味・関心を持った」が 149 人（24.8%）、とそれぞれ回答があり、全体で 220 人（36.7%）が特徴②に関して興味・関心を持つ結果となった。

図にはないが、男女別で見ると男性は合計で 99 人（33.0%）が興味・関心があると回答したが、女性は 121 人（40.3%）が興味・関心があると回答し、多くの女性が興味・関心を持った。

地域では「福岡」「東海」「中国・四国」「近畿」の順で興味・関心度が高く、北陸が最も低かった。

図13 特徴②

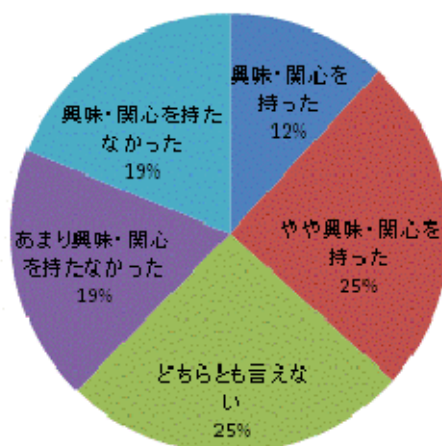
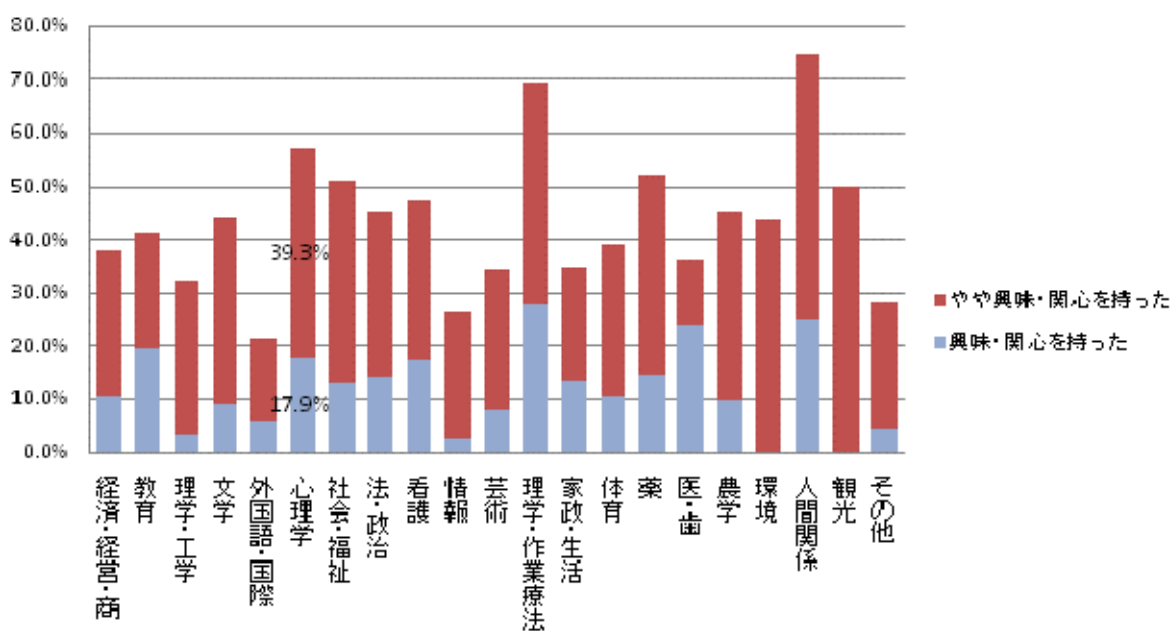


図 14 より、「心理学」への進学希望者 56 人の内、「興味・関心を持った」10 人（17.9%）、「やや興味・関心を持った」22 人（39.3%）がそれぞれ回答し、合計 32 人（57.1%）が興味・関心を持ったことがわかる。その他の分野からは「理学・作業療法」「人間関係」「社会・福祉」の希望者の多くが、興味・関心を持ったと回答した。

また、「興味・関心を持った」と回答した分野希望者で見ると、「教育」「医・歯」の分野希望者の 20% が回答した。

図14 特徴②×希望分野



【特徴③】

「興味・関心を持った」が93人（15.5%）、「やや興味・関心を持った」153人（25.5%）とそれぞれ回答があり、合計で246人（41.0%）が興味・関心を持ったと回答した。

図にはないが、男女別で見ると男性は合計で108人（36.0%）が興味・関心があると回答したが、女性は138人（46.0%）が興味・関心があると回答し、多くの女性が興味・関心を持った。

地域では特徴②と同じく、「福岡」「東海」「中国・四国」「近畿」の順で興味・関心度が高く、北陸が最も低かった。

図15 特徴③

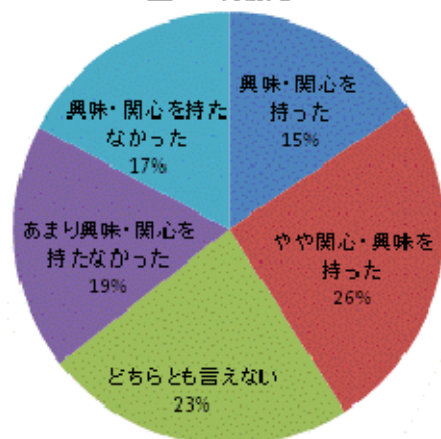
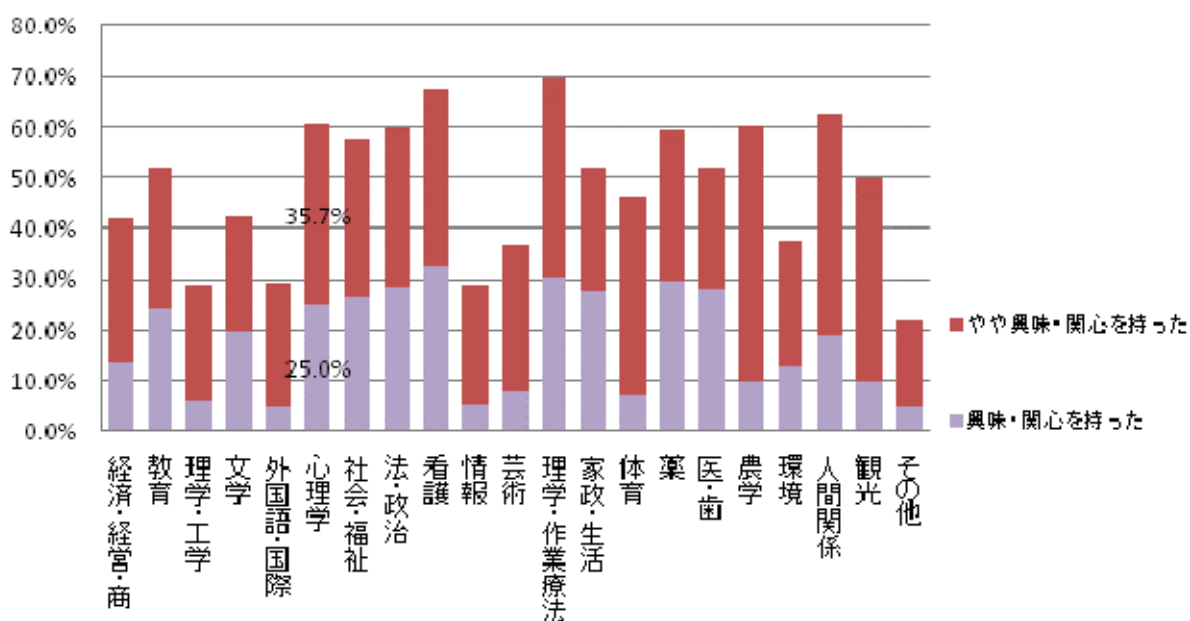


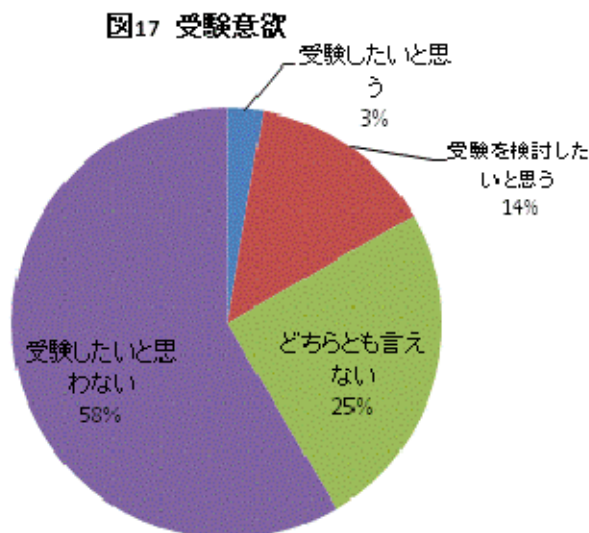
図16より、「心理学」への進学希望者56人の内、「興味・関心を持った」14人（25.0%）、「やや興味・関心を持った」20人（35.7%）がそれぞれ回答し、合計34人（60.7%）が興味・関心を持ったことがわかる。その他の分野からは「理学・作業療法」「看護」「人間関係」など医療系の希望者の多くが興味・関心を持った結果となった。

図16 特徴③×希望分野



Q6. 受験意欲について

龍谷大学文学部臨床心理学科への受験意向に対して「受験したい」16名（2.7%）、「受験を検討したいと思う」が84人（14.0%）、合計100人（16.7%）が受験意欲を持っていると回答した。



男女別に見ると、「受験したいと思う」に男性が11人（3.7%）、女性が5人（1.7%）、「受験を検討したい」には男性36人（12.0%）、女性48人（16.0%）がそれぞれ回答した。

合計、男性47人（15.7%）、女性53人（17.7%）が受験意欲を持っていると判断できる。

図18は地域別での受験意欲をグラフに表したものである。「受験したいと思う」および「受験を検討したい」と回答した割合が最も高かったのは福岡で、30人中9人で30.0%と、受験意欲は高い。

次いで近畿で、390人中、18.7%であった。北陸は受験意欲が若干低い結果となったが、今回の調査では広域で龍谷大学文学部臨床心理学科への受験意欲を持っていることがわかる。

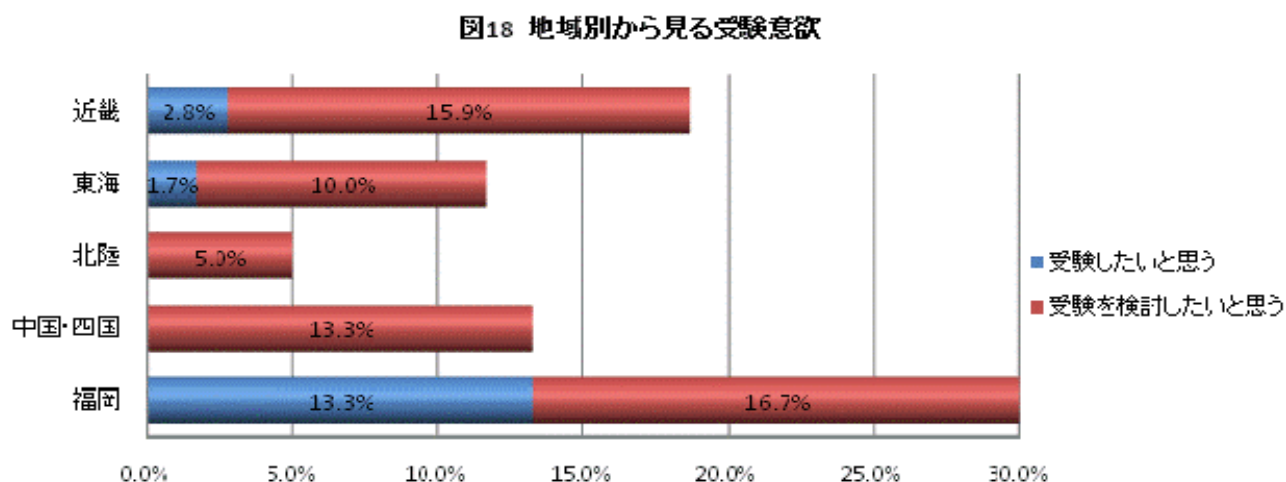


図19 希望分野×受験意欲

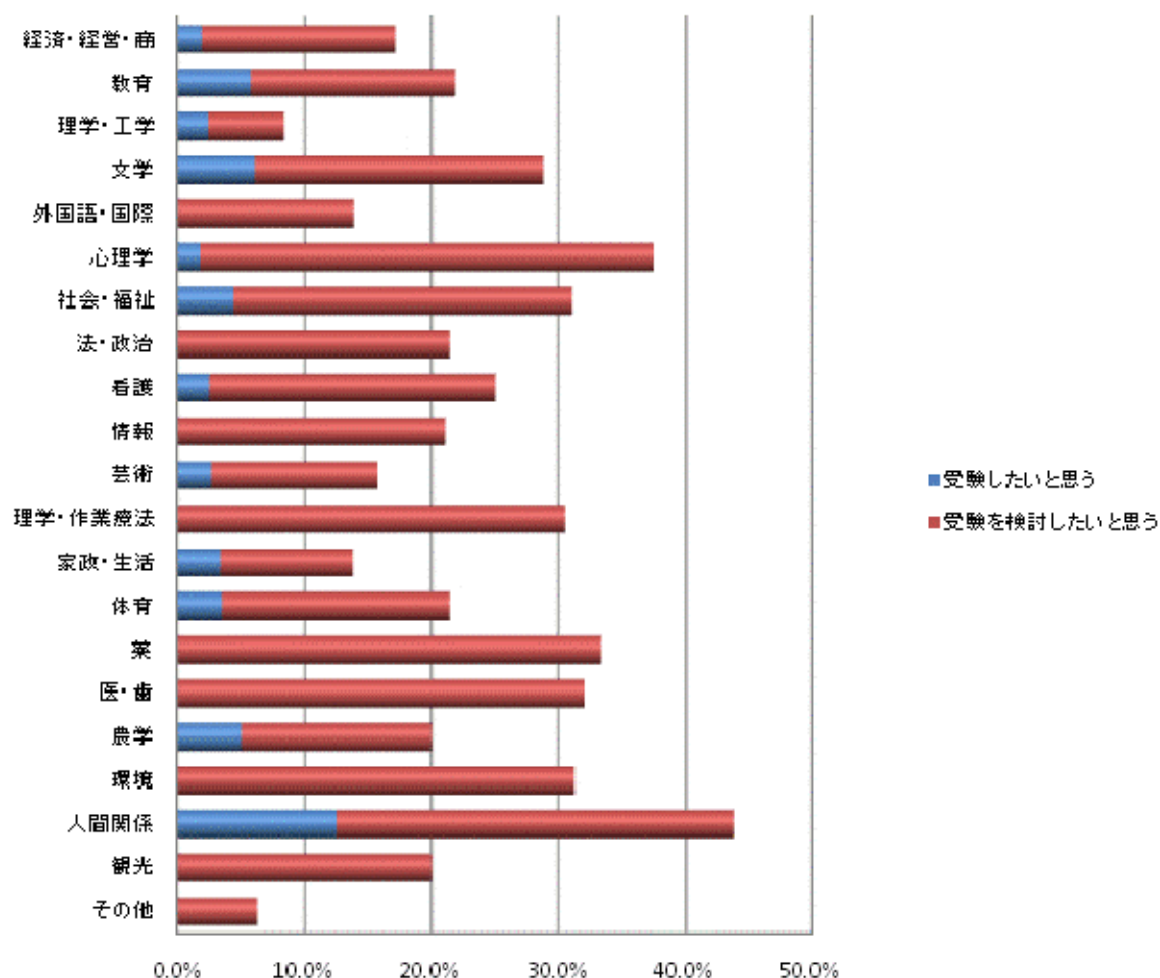


図 19 は、希望分野別に、受験意欲の割合をグラフにしたものである。

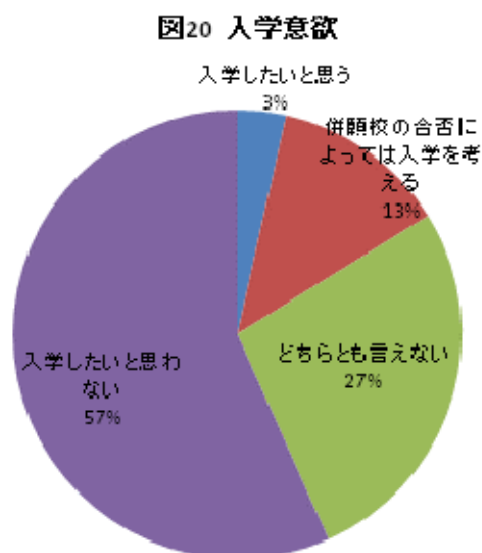
希望分野別で見ると、「人間関係（12.5%）」「教育（5.7%）」「文学（6.1%）」「農学（5.0%）」への進学希望者が、他の分野と比べ多く「受験したいと思う」と回答している。

また、「受験を検討したいと思う」を含めた受験意欲の高さを見ると、「心理学」「社会・福祉」「理学・作業療法」「薬」「医・歯」「人間関係」「環境」など、それぞれの希望者のうち、30%以上が受験意欲を持っていることがわかる。

「心理学」への希望者は、56 人中「受験したいと思う」が 1 人（1.8%）、「受験を検討したいと思う」が 20 人（35.7%）それぞれ回答し、全体で 2 番目に高い結果であった。

Q7. 入学意欲

龍谷大学文学部臨床心理学科への入学意向に対して、「入学したい」21人（3.5%）、「併願校の合否によっては入学を考える」が76人（12.7%）、合計で97人（16.2%）が入学に意欲があると回答した。



男女間では差はなく、「入学したいと思う」に男性12人（4.0%）、女性9人（3.0%）、「併願校の合否によっては入学を考える」には男性33人（11.0%）、女性43人（14.3%）がそれぞれ回答した。

合計で、男性45人（15.0%）、女性52人（17.3%）がそれぞれ入学意欲を持っていることがわかった。

図21は地域別での入学意欲をグラフに表したものである。「入学したいと思う」および「併願校の合否によっては入学を考える」と回答した割合が最も高かったのは福岡で、30人中10人（33.3%）で、入学意欲は高い。次いで近畿で390人中、67人（17.2%）であった。

前述の受験意欲と同じ傾向が見られ、北陸は入学意欲が若干低い、今回の調査では広域で龍谷大学臨床心理学科への入学意欲を持っていることがわかる。

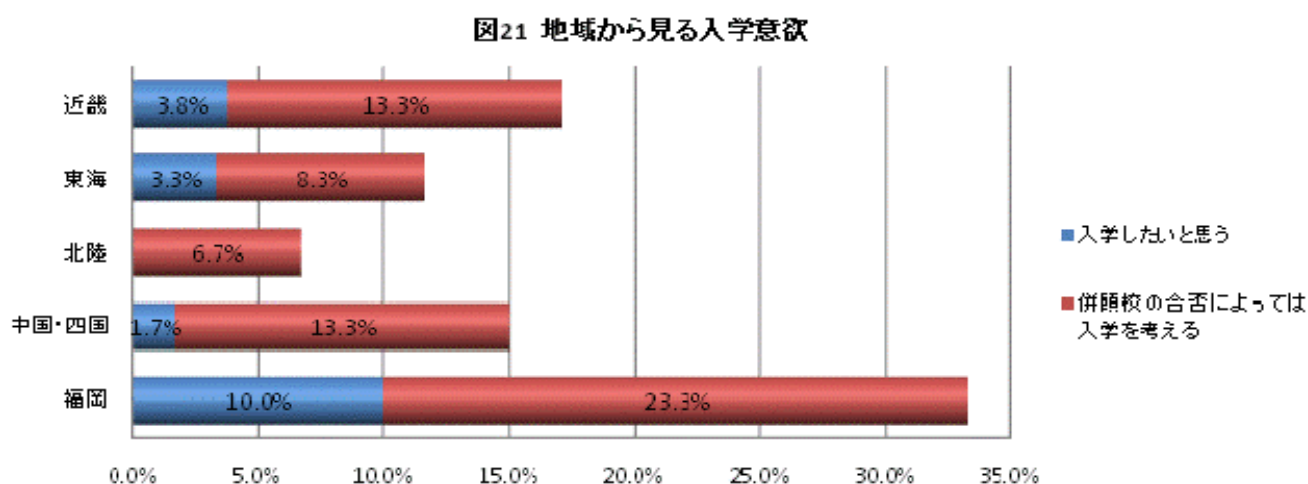


図22 希望分野×入学意欲

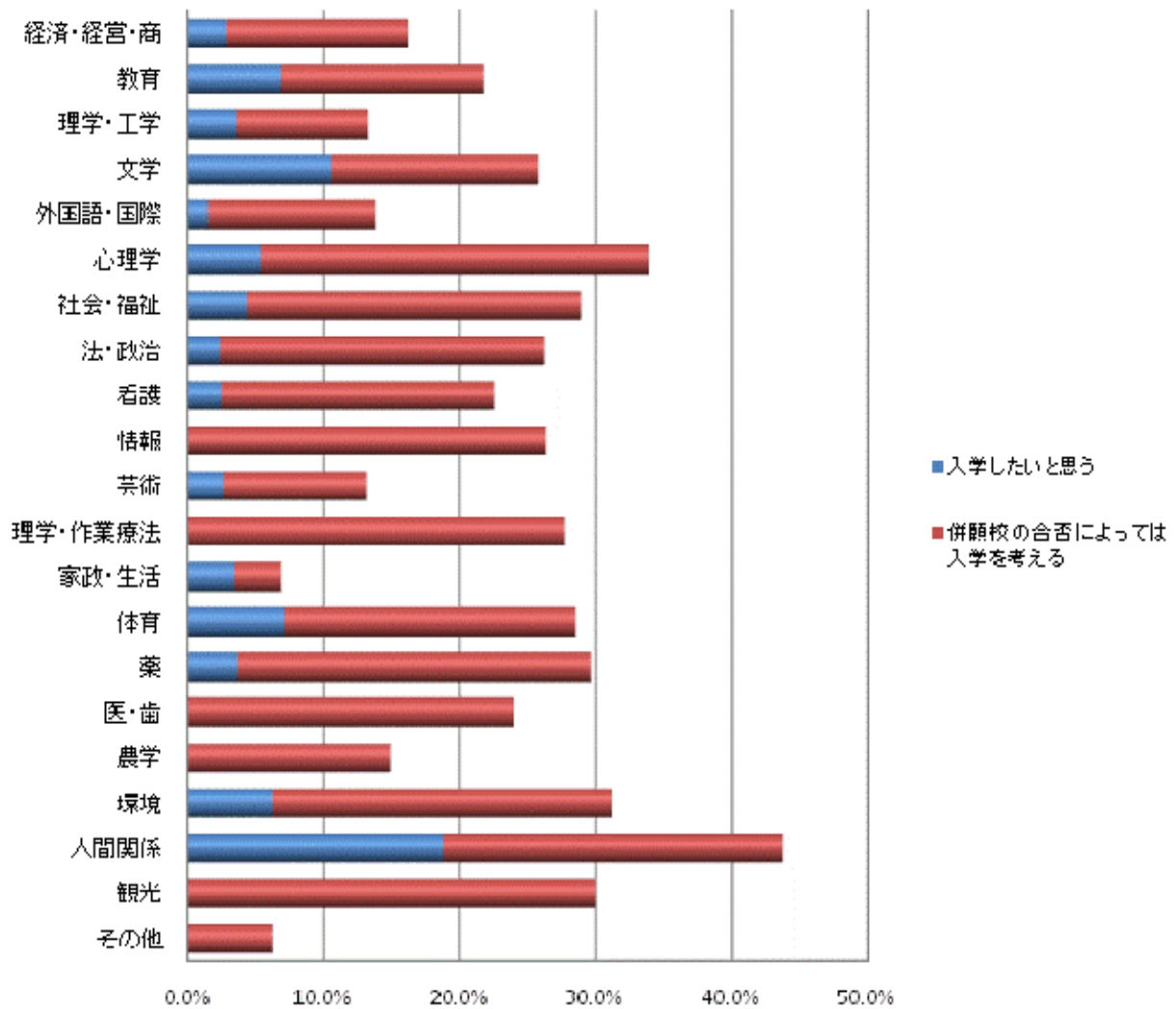


図 22 は、希望分野別に、入学意欲の割合をグラフにしたものである。

希望分野別でみると、「人間関係（18.8%）」「文学（10.6%）」「教育（6.9%）」への進学希望者が、他の分野に比べ多く「入学したいと思う」と回答している。

また、「併願校の合否によっては入学を考える」を含めた入学意欲の高さを見ると「心理学」「環境」「人間関係」への進学希望者のうち、30%が入学意欲を持っていることがわかる。

「心理学」への希望者は、56 人中「入学したいと思う」が 3 人（5.4%）、「併願校の合否によっては入学を考える」が 16 人（28.6%）とそれぞれ回答し、全体で 2 番目に高い結果となった。

4. 考察

(1) アンケートの各回答より、「心理学」への人気と、「龍谷大学の知名度」の高さがわかる。

アンケート＜Q2 進学の希望分野について＞の結果より、9.3%が「心理学」分野への進学を希望している。つまり、進学希望者の10人に1人が「心理学」を希望していることになる。

また、＜Q4 龍谷大学の認知度＞の結果より、龍谷大学は68.7%の高校2年生から認知されている。近畿エリアに限定すると、85.3%が認知しており、非常に知名度の高い大学であると言える。

(2) 統計資料より、「心理学」への志願者が安定的にいたることがわかる。

【外部資料①】の統計資料より、近年の近畿エリアの各大学に設置する「心理学」系の学部・学科の志願者は、安定して集まっていることがわかる。2011年3月現在、近畿エリアには、44大学で「心理学」系の学部・学科を設置している。2006年から2010年の過去5年間における一般およびセンター入試の志願者数は、平均2.9万人で推移しており、安定した志願者数があることがわかる。

一方、過去5年間の合格倍率を見ると、およそ4倍を保っており、「心理学」は文学部の他分野と比較して高い競争率を維持している分野であると分析できる。

(3) 龍谷大文学部臨床心理学科に入学したいと97人が回答している。

アンケート＜Q6 入学意欲について＞で、龍谷大学文学部臨床心理学科に「入学したいと思う」が21人(3.5%)、「併願校の合否によっては入学を考える」が76人(12.7%)から回答があった。合計で97人(16.2%)の高校2年生が、龍谷大学文学部臨床心理学科への入学に意欲を持っており、龍谷大学文学部臨床心理学科の入学定員は92人を予定しているため、600人を対象とした今回の調査だけでも、入学定員の確保の見通しが立つという結果を得た。

また、龍谷大学を中心とした、近畿エリア6府県の平成22年の大学進学状況は【外部資料②】より、55%ほどであり、今回調査の近畿エリアの回答者は、大学への進学が予想される約95,000人のうちの390人(0.4%)である。今回の結果を近畿エリア全体で比例計算をし、予想される志願者数を算出しても計算通りの志願者となる訳ではないが、一つの目安となるので呈示する。

今回調査した中で現実的に入学をする可能性が一番高いと考えられる近畿エリアで「入学したいと思う」と回答したのは390人中15人(3.8%)であり、これに高校2年生の進学希望者数(予想値)を乗じると、3,678人となる。これは入学定員の約40倍となる。更に通学可能圏として京都府・大阪府に絞ったとしても2,000人以上の志願者が予想されるため、入学定員の確保は確実であると言える。

以上、外部機関としての客観的な判断により、平成24年4月に設置を予定する龍谷大学文学部臨床心理学科における学生募集の見通しに関して、全く問題ないと分析する。

3 章

龍谷大学文学部臨床心理学科および 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の 出口調査

1. 調査の概要

○調査期間：平成 23 年 1 月 26 日（水）～2 月 28 日（月）

○調査方法：事前に要請していた調査対象者宛てにアンケート用紙を郵送し、返信のあった回答を集計。

○調査対象：福祉や教育、医療に関する団体法人または企業 194 社の採用担当者

○調査内容：質問は 9 問で、主に選択肢式（一部記述での回答あり）

■主な質問項目

『団体法人・企業の近年の採用実績について』

『団体法人・企業の今後の採用計画について』

『龍谷大学文学部臨床心理学科および

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への印象について』

○有効件数：84 件

○回 収 率：84 件／194 件 （43.4%）

2. 龍谷大学文学部臨床心理学科および大学院文学研究科臨床心理学専攻の
設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純集計結果

■貴法人・貴社の概要について

Q1. 事業分野について教えてください

選択項目	団体法人・企業数	構成比
教育	8	9.5%
医療・保健	17	20.2%
福祉(児童)	36	42.9%
福祉(高齢者)	1	1.2%
サービス	2	2.4%
その他	19	22.6%
無回答	1	1.2%
合計	84	

Q2. 従業員規模を教えてください。

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1～10 名	18	21.4%
11～50 名	32	38.1%
51～100 名	9	10.7%
101～300 名	15	17.9%
301～500 名	1	1.2%
501～1000 名	5	6.0%
1001 名以上	3	3.6%
無回答	1	1.2%
合計	84	

Q3. 全従業員の内、臨床心理士としてご活躍されている方の規模を教えてください

選択項目	団体法人・企業数	構成比
0 名	31	36.9%
1～5 名	40	47.6%
6～10 名	9	10.7%
11～15 名	0	0.0%
16～20 名	0	0.0%
21 名以上	2	2.4%
無回答	2	2.4%
合計	84	

■採用について

Q4. 2011 年入社予定の大学（学部）・大学院の新卒の採用状況を教えてください。

【学部卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1～10 名	37	44.0%
11～30 名	5	6.0%
31～50 名	0	0.0%
51～100 名	0	0.0%
100 名以上	3	3.6%
採用していない	31	36.9%
無回答	8	9.5%
合計	84	

【大学院卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1～10 名	16	19.5%
11～30 名	3	3.6%
31～50 名	0	0.0%
51～100 名	0	0.0%
100 名以上	3	3.6%
採用していない	45	53.6%
無回答	17	20.2%
合計	84	

【臨床心理士の採用予定】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
予定している	8	9.5%
予定していない	34	40.5%
無回答	42	50.0%
合計	84	100.0%

【臨床心理士の採用人数】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1 名	6	7.1%
2 名	1	1.2%
3 名以上	0	0.0%
無回答	77	91.7%
合計	84	100.0%

【臨床心理士の採用人数（常勤採用）】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1 名	4	4.8%
2 名	1	1.2%
3 名以上	0	0.0%
無回答	79	94.0%
合計	84	100.0%

Q5. 採用担当者として大学に求めるものは何ですか。

選択項目	団体法人・企業数	構成比
学生の基礎学力の向上	42	50.0%
仕事につながる実践的な授業	63	75.0%
専門的な学問・知識の教育	47	56.0%
学生のコミュニケーション能力の向上	63	75.0%
業界研究、仕事研究のサポート	11	13.1%
面接、適性テストの指導	5	6.0%
インターンシップ教育の充実	12	14.3%
産学連携のキャリア支援	4	4.8%
その他	12	14.3%
合計	84	

Q6. 今後の大学（学部）・大学院の新卒の採用計画を教えてください。

【学部卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用枠を拡大する予定	3	3.6%
ほぼ現行並みの採用枠とする予定	28	33.3%
採用枠を縮小する予定	1	1.2%
しばらく採用は考えていない	19	22.6%
優秀な学生がいた場合のみ採用する予定	6	7.1%
未定	22	26.2%
無回答	5	6.0%
合計	84	100.0%

【大学院卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用枠を拡大する予定	3	3.6%
ほぼ現行並みの採用枠とする予定	21	25.0%
採用枠を縮小する予定	1	1.2%
しばらく採用は考えていない	22	26.2%
優秀な学生がいた場合のみ採用する予定	8	9.5%
未定	24	28.6%
無回答	5	6.0%
合計	84	100.0%

Q7. 貴法人・貴社が新卒生に求める能力は何ですか。(複数選択可)

【学部生】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
コミュニケーション能力	70	83.3%
基礎的な学力	44	52.4%
専攻学問の専門的な知識	36	42.9%
社会常識	73	86.9%
前に踏み出す力	37	44.0%
考え抜く力	35	41.7%
チームで働く力	64	76.2%
適応力	56	66.7%
目標達成指向	30	35.7%
理解力	40	47.6%
忍耐力	39	46.4%
インターン・ボランティアでの経験が豊富	17	20.2%
取得している(見込みも含む)資格	16	19.0%
その他	3	3.6%
合計	84	

【大学院卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
コミュニケーション能力	68	81.0%
基礎的な学力	37	44.0%
専攻学問の専門的な知識	58	69.0%
社会常識	69	82.1%
前に踏み出す力	30	35.7%
考え抜く力	37	44.0%
チームで働く力	63	75.0%
適応力	53	63.1%
目標達成指向	33	39.3%
理解力	40	47.6%
忍耐力	37	44.0%
インターン・ボランティアでの経験が豊富	20	23.8%
取得している(見込みも含む)資格	26	31.0%
その他	3	3.6%
合計	84	

Q8. 龍谷大学文学部臨床心理学科（設置構想中）の卒業生を採用する可能性はありますか。

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	11	13.1%
状況に応じて採用を考える	32	38.1%
どちらとも言えない	27	32.1%
採用しない	12	14.3%
無回答	2	2.4%
合計	84	100.0%

Q9. 龍谷大学大学院「文学研究科臨床心理学専攻」（設置構想中）修了生を採用する可能性はありますか。

【総合職としての採用】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	10	11.9%
状況に応じて採用を考える	35	41.7%
どちらとも言えない	18	21.4%
採用しない	17	20.2%
無回答	4	4.8%
合計	84	100.0%

【臨床心理士（常勤）としての採用】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	6	7.1%
状況に応じて採用を考える	31	36.9%
どちらとも言えない	25	29.8%
採用しない	20	23.8%
無回答	2	2.4%
合計	84	100.0%

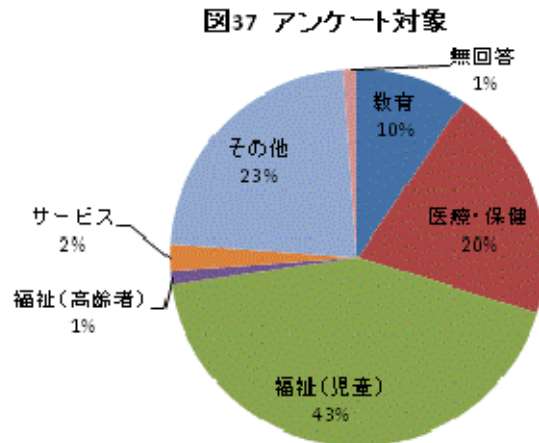
【臨床心理士（非常勤）としての採用】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	8	9.5%
状況に応じて採用を考える	32	38.1%
どちらとも言えない	21	25.0%
採用しない	18	21.4%
無回答	5	6.0%
合計	84	100.0%

3. 各質問の分析

Q1. 事業分野について

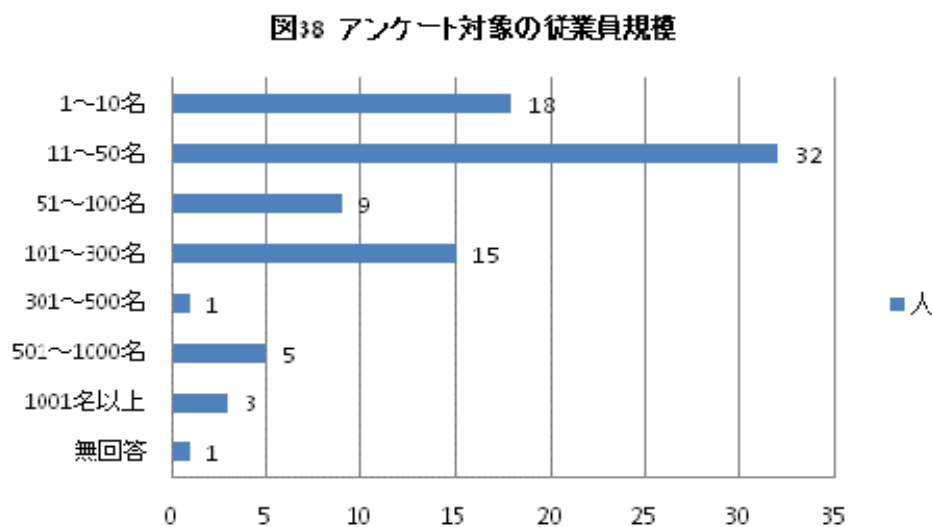
本アンケートに回答した事業分野は以下の図 37 の通りである。



Q2. 従業員規模について

従業員の規模で、その企業・法人の規模がわかる。アンケート対象の従業員規模を聞いたところ、「11～50 名」に対して 32 企業・法人（以下、カ所）が回答し、最も多い結果であった。次いで「1～10 名」が 18 カ所、「101～300 名」が 15 カ所と回答があり、

比較的、中小規模な企業・法人が多かったが、「1001 名以上」も 1 カ所から回答があり、様々な規模の企業・法人からデータであることが言える。

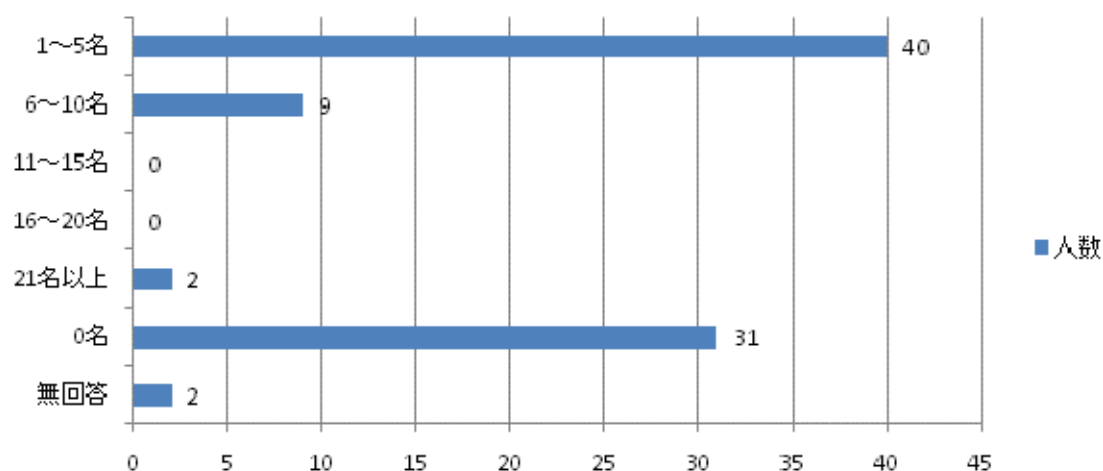


Q3. 臨床心理士の規模について

84 企業・法人に、臨床心理士としての従業員数を聞いたところ、「1～5 名」と 40 カ所（47.6%）が回答した。「6～10 名」に 9 カ所（10.7%）、「21 人以上」に 2 カ所（2.4%）と回答があった。

一方、「0 名」に 31 カ所（36.9%）から回答があり、アンケートを回答した企業・法人の中で臨床心理士がいる企業・法人は 51 カ所（60.7%）となっている。

図39 臨床心理士の従業員数

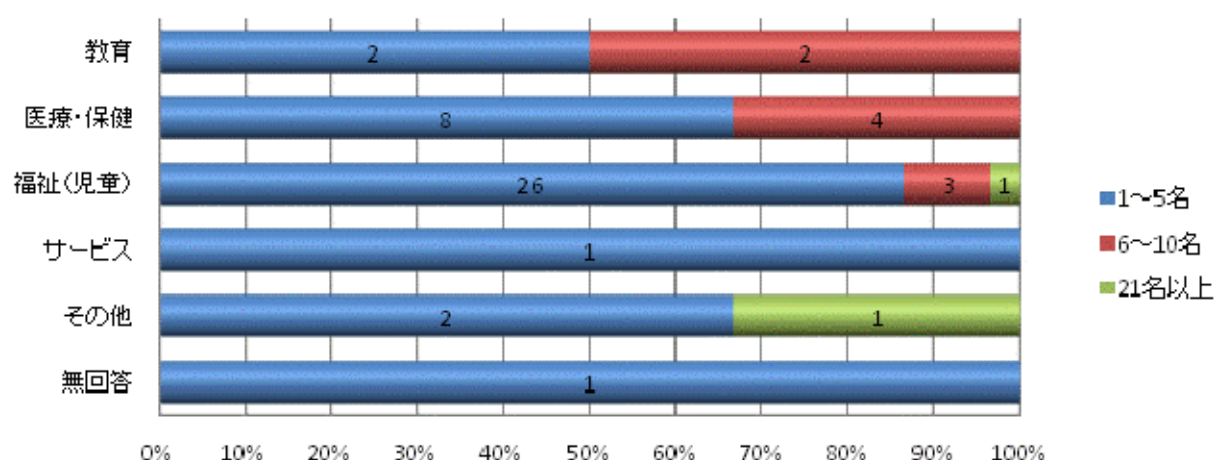


下図 40 より、各事業分野における臨床心理士の規模がわかる。

福祉（児童）36 カ所のうち、26 カ所（72.2%）で「1～5 名」、3 カ所（8.3%）で「6～10 名」、1 カ所（2.7%）で、「21 名以上」それぞれ臨床心理士が活躍していると回答した。福祉（児童）では合計 30 カ所（83.3%）と非常に高い割合で臨床心理士が働いている。

その他では医療・保健も 17 カ所のうち、合計 12 カ所（66.7%）、教育 8 カ所のうち、4 カ所（50.0%）が働いていることがわかる。

図40 臨床心理士の規模×事業分野



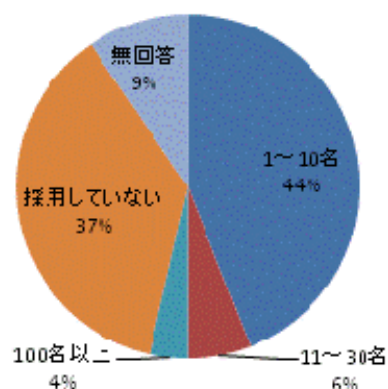
Q4. 2011 年に入社予定の採用状況

【学部卒】

企業・法人に 2011 年入社予定の新卒（学部生）を聞いたところ、84 カ所中、37 カ所（44.0%）が「1～10 名」の採用予定であると回答した。また、「11～30 名」が 5 カ所（6.0%）、「100 名以上」が 3 カ所（3.6%）とそれぞれ回答し、少人数の採用が目立つ結果となった。

また、「採用していない」を 31 カ所（36.9%）が回答している。

図41 2011年の採用予定(学部卒)

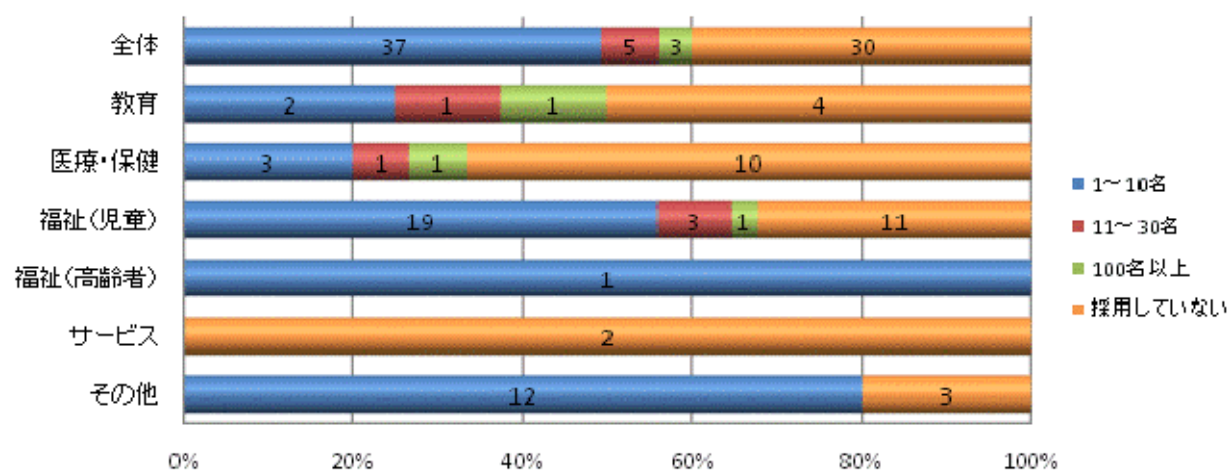


下図 42 は、各事業分野における学部卒の採用状況をグラフに表したものである。

教育分野での採用予定は、8 カ所のうち「1～10 名」が 2 カ所（25.0%）、「11～30 名」が 1 カ所（12.5%）、「100 名以上」が 1 カ所（12.5%）、「採用していない」が 4 カ所（50.0%）とそれぞれ回答した。

福祉（児童）では、「1～10 名」が 19 カ所（52.8%）、「11～30 名」が 3 カ所（8.3%）、「100 名以上」が 1 カ所（2.8%）、「採用しない」が 11 カ所（30.1%）と、それぞれ回答した。福祉（児童）分野での企業・法人では、積極的に新卒採用を行っていることがわかる。

図42 事業分野別の採用状況(学部卒)

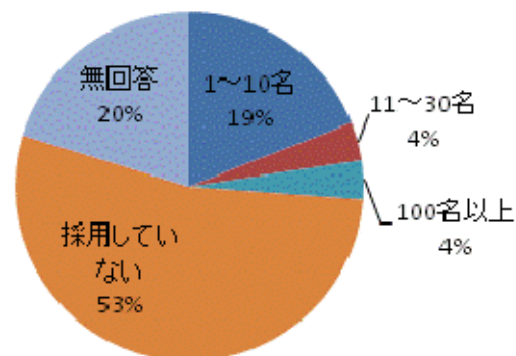


【大学院卒】

2011 年入社予定の新卒（大学院卒）を企業・法人に聞いたところ、84 カ所中、16 カ所（19.0%）が「1～10 名」の採用を予定していると回答した。また、「11～30 名」が 3 カ所（3.6%）、「100 名以上」が 3 カ所（3.6%）とそれぞれ回答した。

また、「採用しない」が 45 カ所（53.6%）と回答しており、2011 年に関しては学部卒生に比べ、大学院卒生の採用が少ないことがわかる。

図43 2011年の採用状況(大学院卒)

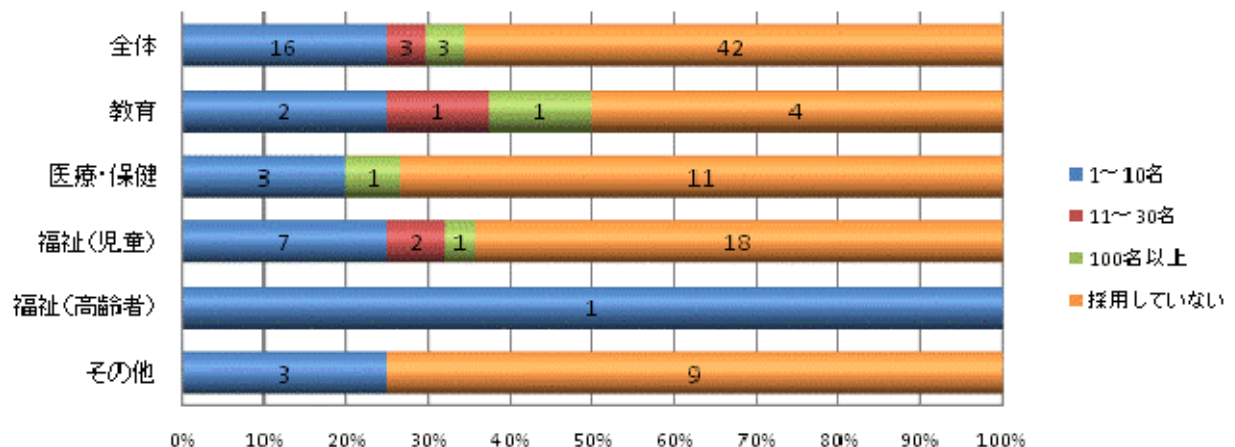


下図 44 より、各分野における大学院卒の採用状況をグラフに表したものである。

教育分野での採用予定は、8 カ所のうち「1～10 名」が 2 カ所（25.0%）、「11～30 名」が 1 カ所（12.5%）、「100 名以上」が 1 カ所（12.5%）、「採用していない」が 4 カ所（50.0%）とそれぞれ回答し、学部卒と同じ回答数であった。

福祉（児童）では、「1～10 名」が 7 カ所（19.4%）、「11～30 名」が 2 カ所（5.6%）、「100 名以上」が 1 カ所（2.8%）、「採用しない」が 18 カ所（50.0%）と、それぞれ回答した。

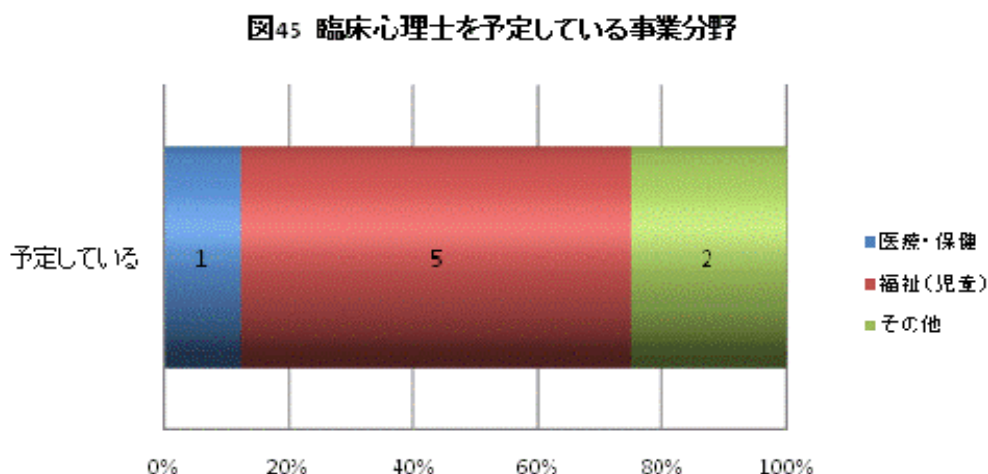
図44 事業分野別の採用状況(大学院卒)



【臨床心理士の採用について】

企業・法人 84 カ所に 2011 年入社予定のうち、臨床心理士としての採用を予定しているかどうかを聞いたところ、「予定している」が 8 カ所（9.5%）、「予定していない」が 34 カ所（40.5%）とそれぞれ回答し、無回答が 42 カ所（50.0%）であった。

「予定している」と回答した 8 カ所の内訳は図 45 の通り、医療・保健が 1 カ所、福祉（児童）が 5 カ所、その他の事業分野は 2 カ所となっている。

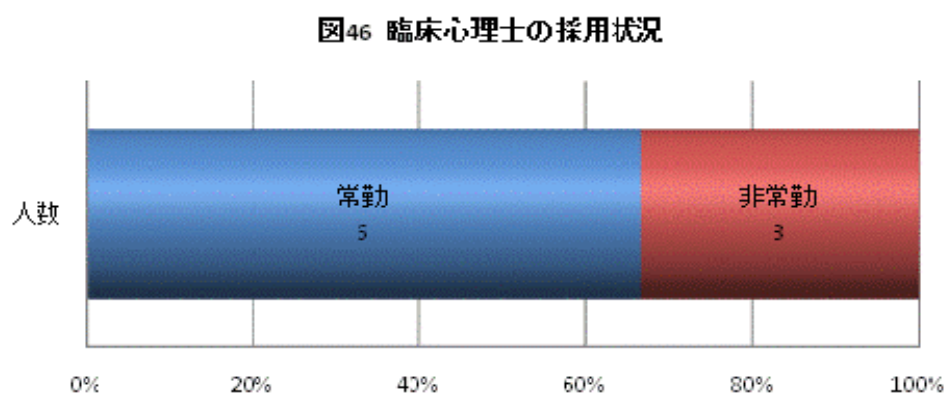


また、「予定している」と回答した 8 カ所に採用人数を聞いたところ、「1 名」と回答したのが 6 カ所で、「2 名」と回答したのが 1 カ所、1 カ所は無回答であった。本アンケートの対象 84 カ所において、臨床心理士として採用された新卒生は最低でも 9 人である。

臨床心理士の採用を「予定している」と回答した 8 カ所に、常勤としての採用なのかどうかを聞いたところ、「1 名」が 4 カ所、「2 名」が 1 カ所と回答し、合計で 6 名が常勤としての採用であった。

上記にて、最低でも 9 人が臨床心理士として採用となっていることがわかっているが、9 人中 6 人（66.7%）が常勤、3 名（33.3%）が非常勤としての採用であることがわかる。

臨床心理士としての採用は、若干であるが常勤の方が結果となった。



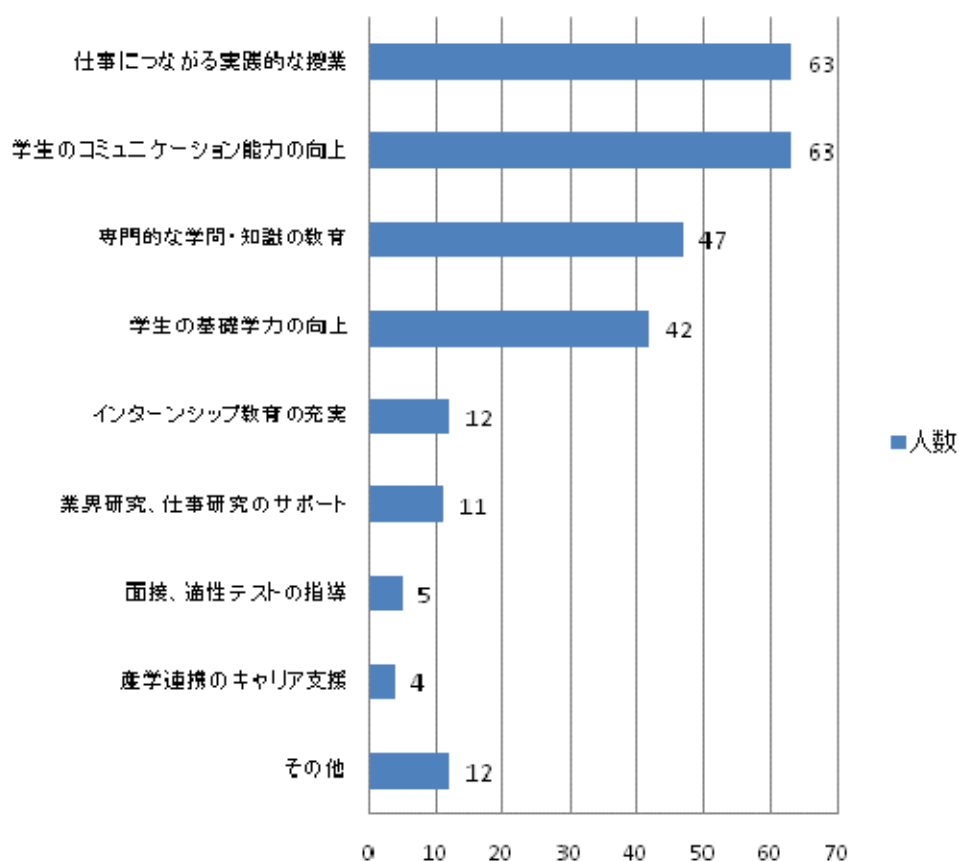
Q5. 採用担当者が大学に求めるもの

企業・法人 84 カ所に、大学に求めるものを聞いたところ、図 47 の通り回答を得た。最も回答が多かったのは、「仕事につながる実践的な授業」と、「学生のコミュニケーション能力の向上」で、63 カ所（75.0%）がそれぞれ回答した。次いで「専門的な学問・知識の教育」が 47 カ所（56.0%）、「学生の基礎学力の向上」が 42 カ所（50.0%）で、それぞれ半数の企業・法人が回答した。

心理学関連の仕事は福祉や医療現場など、対人関係が非常に多いため、「仕事につながる実践的な授業」と「コミュニケーション能力の向上」の回答が多い理由と推測される。

一方、「業界研究、仕事研究のサポート」、「面接、適性テストの指導」などは主に就職活動の対策であるが、回答が少ないことから、企業・法人の採用担当者からはあまり求められていないと言える。

図47 採用担当者が大学に求めるもの



Q6. 今後の新卒の採用計画について

【学部】

企業・法人 84 カ所のうち、「採用を拡大する予定」と回答したのは 3 カ所（3.6%）、「ほぼ現行並みの採用枠とする予定」が 28 カ所（33.3%）、「優秀な学生がいた場合のみ採用する予定」が 6 カ所（7.1%）、「採用枠を縮小する予定」が 1 カ所（1.2%）とそれぞれ回答した。

学部生の採用については、合計で 38 カ所（45.2%）と、半数近くの企業・法人が採用を行う計画であることがわかった。

一方、「しばらく採用は考えていない」と 19 カ所（22.6%）が回答している。

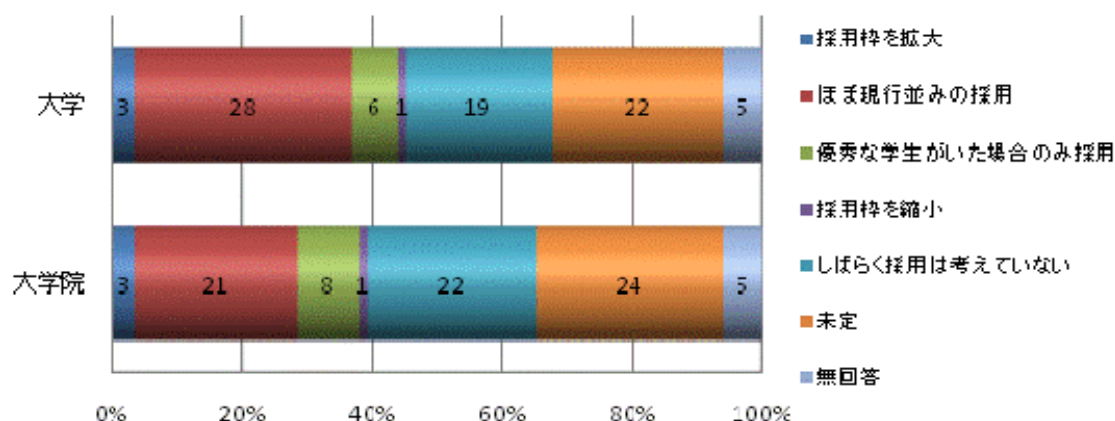
【大学院】

企業・法人 84 カ所のうち、「採用を拡大する予定」と回答したのは 3 カ所（3.6%）、「ほぼ現行並みの採用枠とする予定」が 21 カ所（25.0%）、「優秀な学生がいた場合のみ採用する予定」が 8 カ所（9.5%）、「採用枠を縮小する予定」が 1 カ所（1.2%）とそれぞれ回答した。

大学院生の採用については、合計で 33 カ所（39.3%）の企業・法人が採用を行う計画であることがわかった。

大学院生の採用は、「ほぼ現行並みの採用枠とする予定」と回答した企業・法人が学部卒の採用枠に比べ、若干少ないが、一方で「優秀な学生がいた場合のみ採用する予定」については、学部卒者が 6 カ所に対して、大学院修了者が 8 カ所であるため、大学院修了者については学部卒者に比してより、吟味して採用している傾向が予想される。

図48 今後の新卒の採用計画



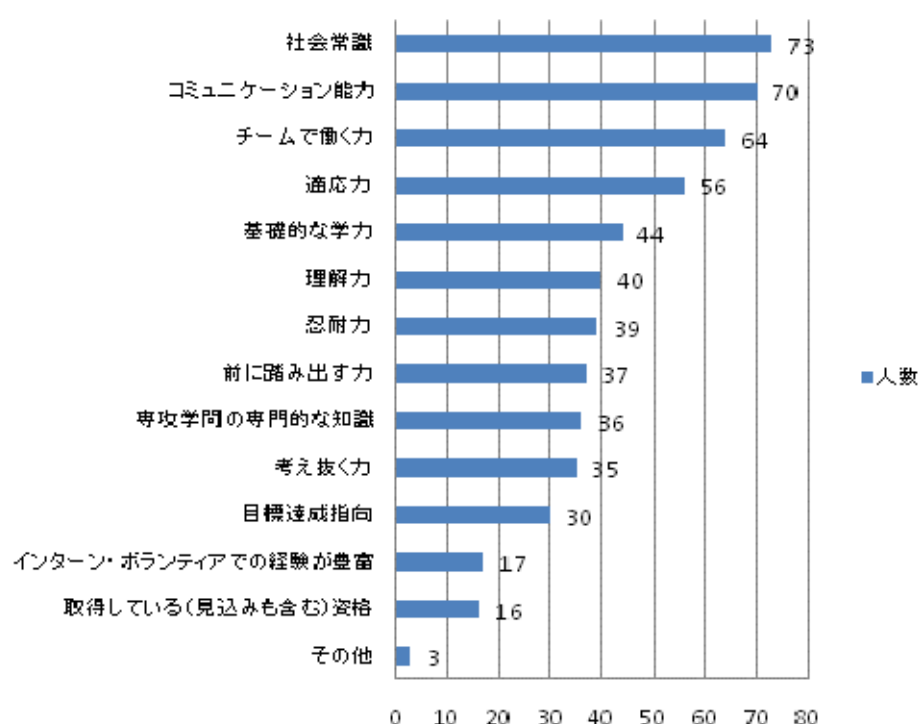
Q7. 企業・法人が新卒生に求める能力

【学部卒業者】

企業・法人 84 カ所に、学部卒業者に求める能力を聞いたところ、「社会常識」と 73 カ所（86.9%）もの回答があった。次いで「コミュニケーション能力」70 カ所（83.3%）、「チームで働く力」64 カ所（76.2%）、「適応力」56 カ所（66.7%）と、それぞれ多くの回答があった。

それぞれの回答数は図 49 の通りである。

図49 企業・法人が求める能力（大学卒業者）

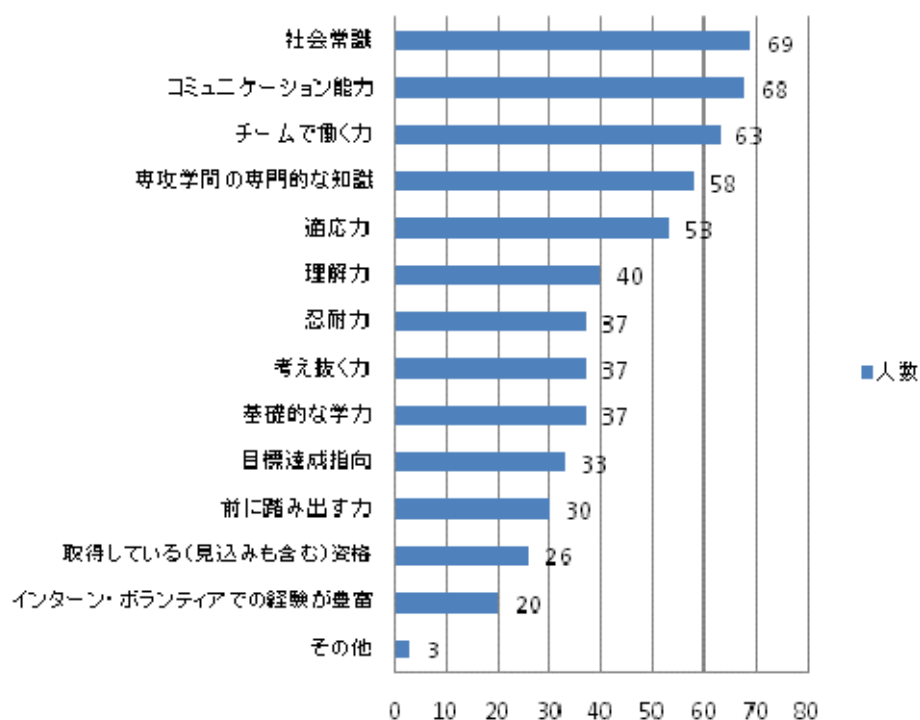


【大学院修了者】

大学院修了者に求める能力を聞いたところ、「社会常識」と 69 カ所（82.1%）が最も多い回答であった。次いで「コミュニケーション能力」68 カ所（81.0%）、「チームで働く力」63 カ所（75.0%）、「適応力」53 カ所（63.1%）と、ほぼ大学卒業者との回答と同じであることがわかる。

それぞれの回答数は図 50 の通りである。

図50 企業・法人が求める能力（大学院修了者）



【大学卒業者と大学院修了者との違い】

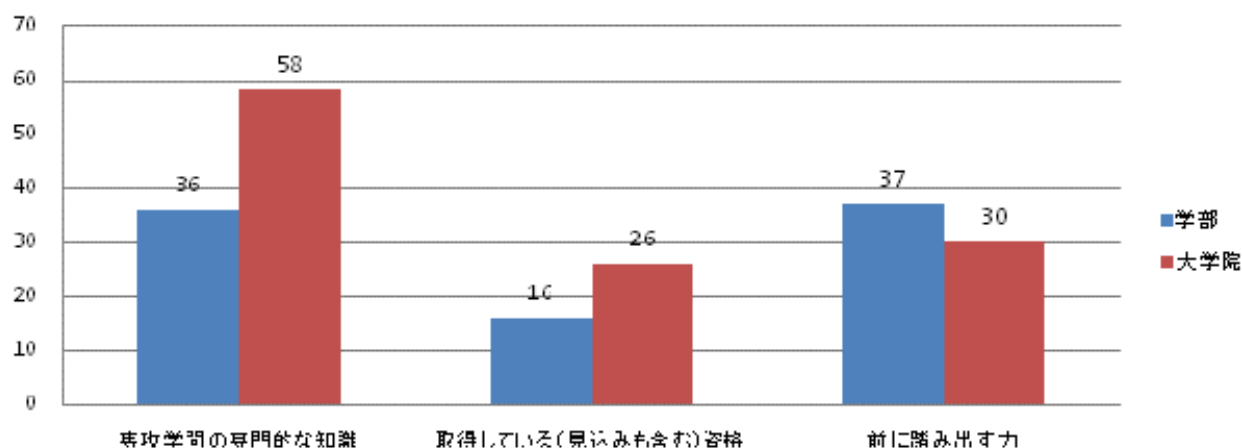
上位 5 つは前述した通り、大学卒業者と大学院修了者との違いは見られなかったが、それ以外で見ると、それぞれの特徴として、大学卒業者は「前に進み出す力」を求められ、大学院修了者は「専門学問の専門的な知識」、「取得している（見込みも含む）資格」を求められていることが回答からわかる。

「前に踏み出す力」の回答を見ると、大学卒業者は 37 カ所、大学院修了者は 30 カ所であった。若干であるが、大学卒業者は大学院修了生と比べ、「前に踏み出す力」が求められている傾向がある。

また、「専門学問の専門的な知識」を見ると、大学院修了者が 58 カ所、大学卒業者は 36 カ所と差があり、企業・法人からは大学院で養った専門的な知識が求められていることがわかる。

「取得している（見込みも含む）資格」も「専門学問の専門的な知識」と同様に、大学卒業者と比べ大学院修了者に求められている傾向が、回答よりわかった。

図50 学部卒と大学院修了生の求められていること



Q8. 龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生を採用する可能性

企業・法人84カ所に龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生を採用する可能性があるかを聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は11カ所（13.1%）であった。

また、「状況に応じて採用を考える」に32カ所（38.1%）が回答し、合計43カ所（51.2%）の企業・法人が採用する可能性があると回答した。さらに、「どちらとも言えない」に27カ所（32.1%）が回答したことから、今後の企業・法人の採用計画しだいでは、さらに可能性が増えると考えられる。

図51 学部卒の採用の可能性

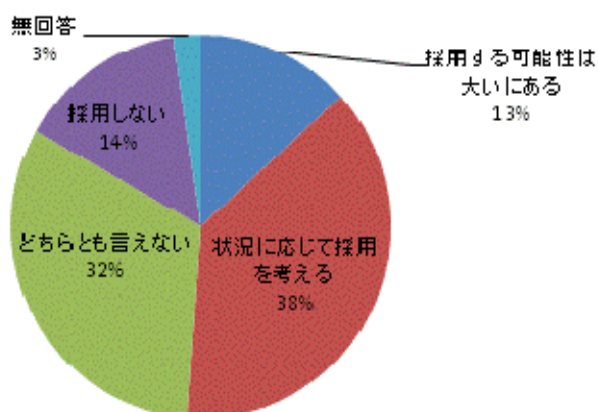
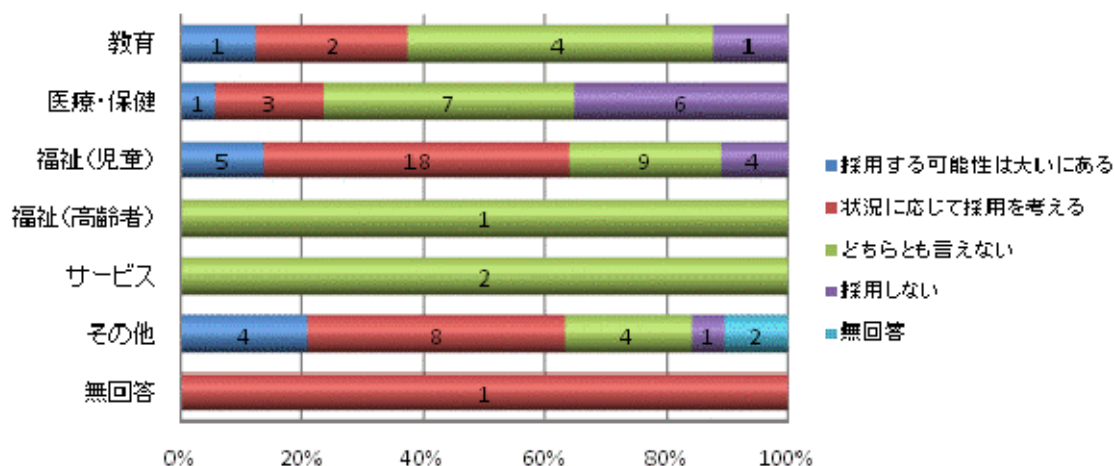


図52にて採用の可能性を事業分野別で見ると、「福祉（児童）」と「その他」の企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に5カ所（13.9%）、「状況に応じて採用を考える」に18カ所（50.0%）とそれぞれ回答があり、合計23カ所（63.9%）から採用に対して前向きな回答があった。

次いで「その他」19カ所では、「採用する可能性は大いにある」に4カ所（21.1%）、「状況に応じて採用を考える」に8カ所（42.1%）とそれぞれ回答があり、合計12カ所（63.2%）から採用に対して前向きな回答があった。

図52 採用の可能性(学部卒)×事業分野



Q9. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の卒業生を採用する可能性

【総合職として採用】

企業・法人 84 カ所に龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生を総合職として採用する可能を聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は 10 カ所（11.9％）であった。

「状況に応じて採用を考える」に 35 カ所（41.7％）が回答し、合計 45 カ所（53.6％）の企業・法人が採用する可能性があるとは回答した。

大学卒業生と同様に、「どちらとも言えない」に 18 カ所（21.4％）が回答したことから、さらに可能性が増えると考えられる。

図53 大学院修了者の採用（総合職）

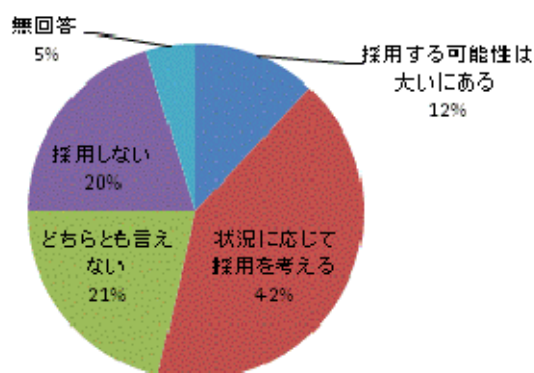
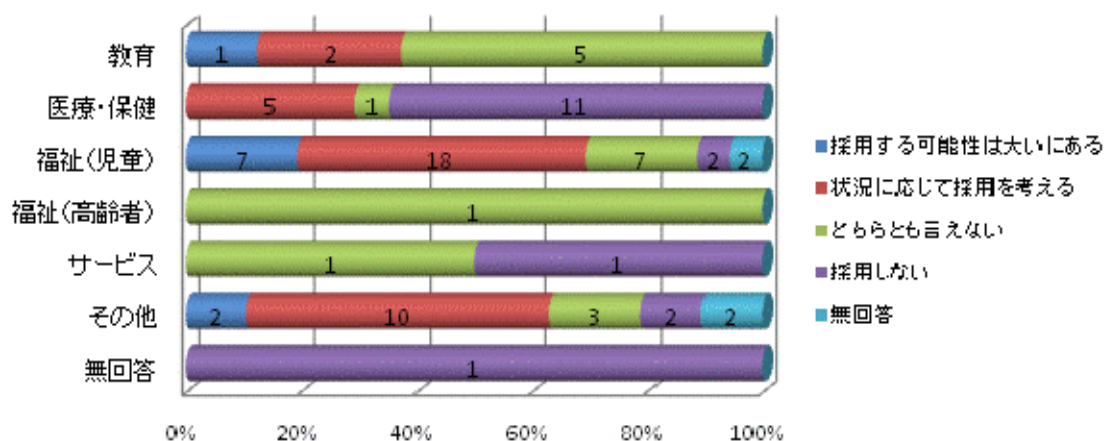


図 54 にて採用の可能性を事業分野別で見ると、学部卒業生と同様に、「福祉（児童）」と「その他」の企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36 カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に 7 カ所（19.4％）、「状況に応じて採用を考える」に 18 カ所（50.0％）とそれぞれ回答があり、合計 25 カ所（69.4％）から採用に対して前向きな回答があり、学部卒業生よりも、高い割合であった。

次いで「その他」19 カ所では、「採用する可能性は大いにある」に 2 カ所（10.5％）、「状況に応じて採用を考える」に 10 カ所（52.6％）とそれぞれ回答があり、合計 12 カ所（63.2％）から採用に対して前向きな回答があった。

図54 採用の可能性(大学院修了生・総合職)×事業分野

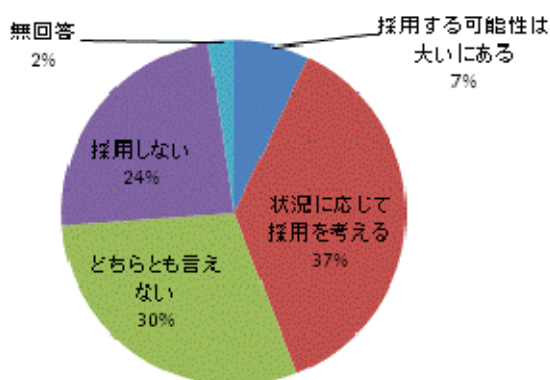


【臨床心理士（常勤）として採用】

企業・法人 84 カ所に龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生を臨床心理士（常勤）として採用する可能性を聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は 6 カ所（7.1%）であった。

「状況に応じて採用を考える」には 31 カ所（36.9%）が回答し、合計 37 カ所（44.0%）が臨床心理士（常勤）として採用する可能性があるとは回答した。

図55 臨床心理士（常勤）としての採用

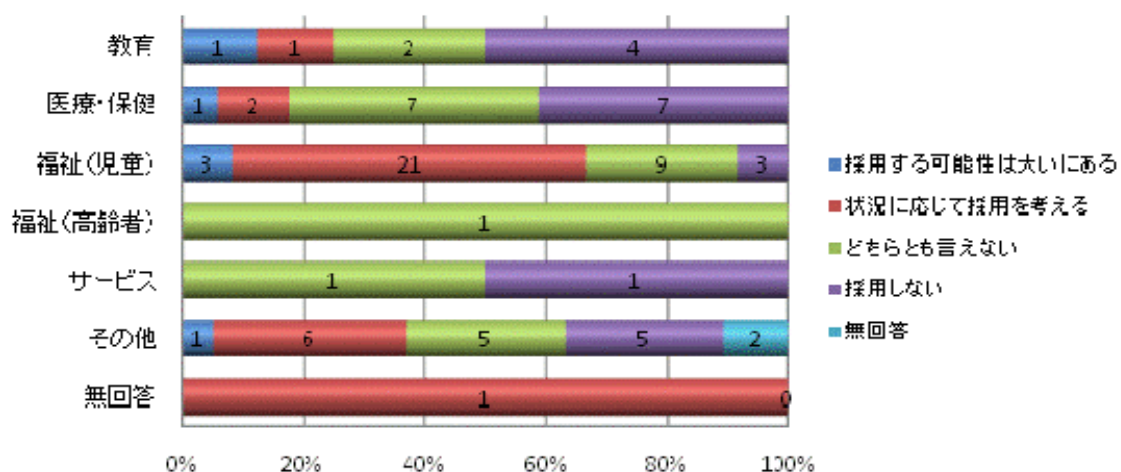


臨床心理士（常勤）の採用の可能性を、事業分野別で見ると、「福祉（児童）」の企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36 カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に 3 カ所（8.3%）、「状況に応じて採用を考える」に 21 カ所（58.3%）とそれぞれ回答があり、合計 24 カ所（66.7%）から採用に対して前向きな回答があり、大学院修了者の総合職としての採用と同等の割合であり、人材へのニーズの高さが伺える。

また、「その他」19 カ所では、「採用する可能性は大いにある」に 1 カ所（5.3%）、「状況に応じて採用を考える」に 6 カ所（31.6%）とそれぞれ回答があり、合計 7 カ所（36.8%）から採用に対して前向きな回答があった。

図56 採用の可能性（臨床心理士・常勤）

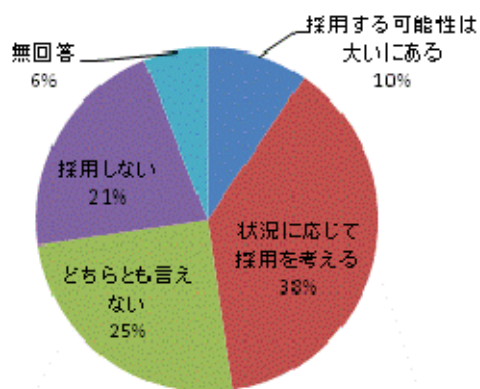


【臨床心理士（非常勤）として採用】

企業・法人 84 カ所に龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生を臨床心理士（非常勤）として採用する可能性を聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は 8 カ所(9.5%)であった。

「状況に応じて採用を考える」には 35 カ所（38.1%）が回答し、合計 43 カ所（51.2%）が臨床心理士（非常勤）として採用する可能性があるとは回答した。

図57 臨床心理士(非常勤)としての採用

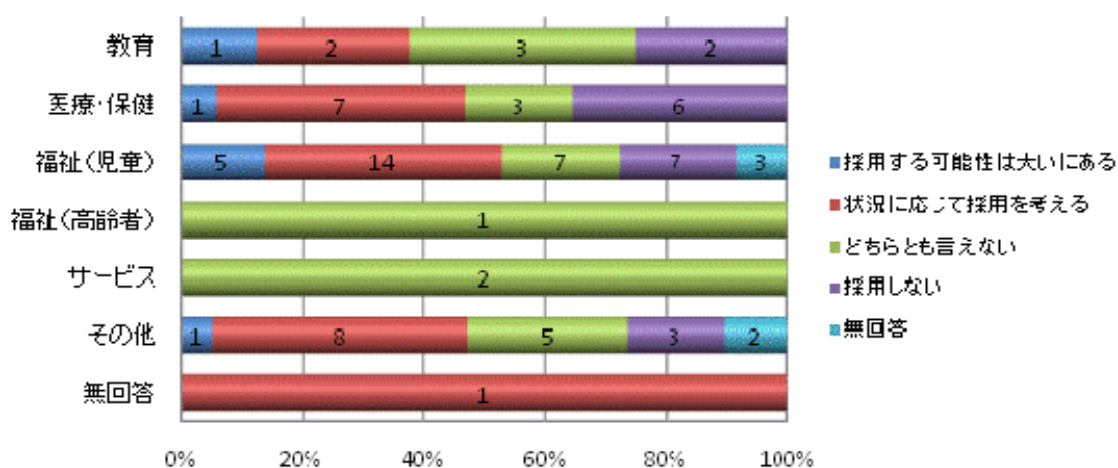


臨床心理士（非常勤）の採用の可能性を、事業分野別で見ると、「教育」「医療・保健」「福祉（児童）」「その他」それぞれ企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36 カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に 5 カ所（13.9%）、「状況に応じて採用を考える」に 14 カ所（38.9%）とそれぞれ回答があり、合計 19 カ所（52.8%）から採用に対して前向きな回答があった。

また、「医療・保健」17 カ所では、「採用する可能性は大いにある」に 1 カ所（5.9%）、「状況に応じて採用を考える」に 7 カ所（41.2%）とそれぞれ回答があり、合計 8 カ所（47.1%）から採用に対して前向きな回答があった。

図58 採用の可能性(臨床心理士・非常勤)



4. 考察

(1) 龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生の採用について

＜Q8 龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生を採用する可能性があるか＞で、「採用する可能性は大いにある」が 11 カ所、「状況に応じて採用を考える」が 32 カ所と回答があり、合計で 43 カ所（51.2%）の企業・法人が採用に対して前向きな回答を得た。

(2) 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生の採用について

＜Q9 総合職としての採用の可能性はあるか＞で、合計 45 カ所（53.6%）で「可能性は大いにある」、「状況に応じて考える」と回答を得た。

また、＜Q9 臨床心理士（常勤）としての採用の可能性はあるか＞で、合計 37 カ所（44.0%）で「可能性は大いにある」、「状況に応じて考える」と回答を得た。＜Q9 臨床心理士（非常勤）としての採用の可能性はあるか＞では、合計 40 カ所（47.6%）で「可能性は大いにある」、「状況に応じて考える」と回答を得た。

(3) 児童福祉施設での従事者数が増加している。

＜Q8 学部卒生の採用の可能性＞および＜Q9 大学院修了者の採用の可能性＞で、「採用する可能性は大いにある」、「状況によっては採用を考える」と最も多く回答した事業分野は、「福祉（児童）」であった。

厚生労働省が発表している【平成 21 年 社会福祉施設等調査】の結果を見ると、児童福祉施設での常勤換算従事者数が、平成 16 年（2004 年）の 476,684 人から、平成 21 年（2009 年）には 519,218 人と、5 年間で 42,534 人も増加しており、アンケートの回答の通り、採用ニーズが非常に高いことが分かる【外部資料④】。

また、臨床心理士の需要が増加した例として、スクールカウンセラーがある。問題を抱える児童、生徒が増加したことから、文部科学省の指導のもと平成 7 年度（1995 年）から開始された『スクールカウンセラー活用調査研究委託事業』にて、スクールカウンセラーとして臨床心理士が各学校で活躍している。平成 7 年度（1995 年）の 154 校から、平成 18 年度（2006 年）には 9,978 校と 11 年間で 9,824 校もの学校で、臨床心理士が活躍の場を拡大している。【外部資料⑤】。

2011 年現在、教育分野のみならず、労働・産業分野（就職難からくる心理的不安のサポート）や、医療・福祉分野など、活躍の場を増やし始めている。

以上、(1)(2)(3)より、平成 24 年 4 月に設置を予定する龍谷大学文学部臨床心理学科及び龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻における、就職の見通しに関して、今回の調査にご協力いただいた企業・法人の約半数で採用に関する前向きな回答を得た。したがって、外部機関としての客観的な判断により、学生の就職先の確保について、問題が無いと分析する。

以上

外 部 資 料

出典：河合塾ガイドライン2006～2010年

心理学系の大学一覧 [近畿エリア] ※一般+センター

大学データ			定員				志願者				合格者				志願者前年比				倍率			
大学名	学部名	学科名	06	07	08	09	10	06	07	08	09	10	07/06	08/07	09/08	10/09	06	07	08	09	10	
京都府立大学	教育学	教育学	60	338	205	207	225	232	63	61	61	62	62	0.61	1.01	1.09	1.03	5.37	3.36	3.39	3.63	
	人間科学	人間科学	130	462	491	467	562	533	141	141	136	140	142	1.06	0.95	1.20	0.95	3.28	3.48	3.43	4.01	
	発達科学	人間形成	90	456	383	432	386	457	90	90	93	91	92	0.84	1.13	0.89	1.18	5.07	4.26	4.65	4.24	
	文	人間行動	56	787	691	794	730	773	150	152	153	154	168	0.88	1.15	0.92	1.06	5.25	4.55	5.19	4.74	
	人間科学	人間科学	80	487	494	418	537	362	86	90	87	81	81	1.01	0.85	1.28	0.67	5.66	5.49	4.80	6.63	
聖泉	人間	臨床・発達 心理専攻	50	58	39	-	-	-	52	35	-	-	-	0.67	-	-	-	1.12	1.11	-	-	
大谷大学	文	教育・心理	100	-	-	-	481	417	-	-	-	109	97	-	-	-	0.87	-	-	4.41	4.30	
	人間文化	心理	80	-	-	133	123	89	-	-	108	97	78	-	-	0.92	0.72	-	1.23	1.27	1.14	
	人文	心理	120	-	-	-	-	45	-	-	-	-	43	-	-	-	-	-	-	-	1.05	
	発達教育	心理学	170	485	501	538	306	520	99	135	117	102	114	1.03	1.07	0.57	1.70	4.90	3.71	4.60	3.00	
	京都ノートル ダム女子	心理	160	116	81	87	55	68	78	76	78	35	50	0.70	1.07	0.63	1.24	1.49	1.07	1.12	1.57	
京都文教大学	臨床心理	臨床心理	200	-	-	755	728	639	-	-	194	170	166	-	-	0.96	0.88	-	-	3.89	4.28	
	心理	臨床心理	150	853	831	1029	1447	1195	144	212	161	224	311	0.97	1.24	1.41	0.83	5.92	3.92	6.39	6.46	
	社会福祉	臨床心理	80	184	93	86	96	109	126	81	71	59	72	0.51	0.92	1.12	1.14	1.46	1.15	1.21	1.63	
	教育	臨床心理	60	801	682	553	492	701	103	110	123	128	127	0.85	0.81	0.89	1.42	7.78	6.20	4.50	3.84	
	文	心理学	1102	2187	2140	1842	1512	1536	573	534	515	437	423	0.98	0.86	0.82	1.02	3.82	4.01	3.58	3.46	
連手門学院	心理	心理学	200	1551	1000	869	930	939	295	250	252	249	211	0.64	0.87	1.07	1.01	5.26	4.00	3.45	3.73	
	人間社会	心理・カウ ンシング	120	-	-	225	241	320	-	-	39	70	76	-	-	1.07	1.33	-	-	5.77	3.44	
	人間科学	心理コミュニケーション	120	155	258	135	66	非	67	66	58	48	非	1.66	0.52	0.49	非	2.31	3.91	2.33	1.38	
	人間科学	健康心理	100	111	88	81	91	非	67	60	60	55	非	0.79	0.92	1.12	非	1.66	1.47	1.35	1.65	
	文	総合人文	700	14795	16059	14324	12917	10918	2428	2555	2667	2410	2062	1.09	0.89	0.90	0.85	6.09	6.29	5.37	5.36	
関西福祉科学大学	社会福祉	臨床心理	100	239	216	134	109	47	84	127	109	91	40	0.90	0.62	0.81	0.43	2.85	1.70	1.23	1.20	
	総合社会	総合社会	450	-	-	-	-	2247	-	-	-	-	278	-	-	-	-	-	-	-	8.08	
	人文	人間心理	80	78	41	49	31	非	69	37	45	27	非	0.53	1.20	0.63	非	1.13	1.11	1.09	1.15	
	人間科学	心理	100	55	40	25	15	63	30	17	20	15	47	0.73	0.63	0.60	4.20	1.83	2.35	1.25	1.00	
	心理	心理	150	-	-	154	153	148	-	-	104	113	130	-	-	0.99	0.97	-	-	1.48	1.35	
梅花女子大学	心理	心理	70	-	-	-	-	71	-	-	-	-	57	-	-	-	-	-	-	-	1.25	
	現代社会	現代社会	250	-	323	193	205	251	-	77	137	166	207	-	0.60	1.06	1.22	-	4.19	1.41	1.23	1.21
	人間科学	人間心理	115	179	254	234	204	非	95	87	82	77	非	1.42	0.92	0.87	非	1.88	2.92	2.85	2.65	
	社会福祉	社会福祉	200	473	226	173	110	111	139	135	110	75	77	0.48	0.77	0.64	1.01	3.40	1.67	1.57	1.47	
	文	総合心理学	175	2217	1818	1755	1801	1286	505	544	522	315	214	0.82	0.97	1.03	0.71	4.39	3.34	3.36	5.72	
近畿医療福祉大学	社会福祉	臨床福祉心理	100	176	83	27	非	非	109	49	9	非	非	0.47	0.33	非	非	1.61	1.69	3.00	非	
	心理	心理	60	55	49	45	46	35	42	35	35	41	25	0.89	0.92	1.02	0.76	1.31	1.40	1.29	1.12	
	人間科学	心理	90	266	196	955	416	848	145	176	514	210	362	0.74	4.87	0.44	2.04	1.83	1.11	1.86	1.98	
	現代人間	心理	70	68	80	47	33	33	59	28	39	27	28	1.18	0.59	0.70	1.00	1.15	2.86	1.21	1.22	
	神戸海星女子学院	心理	107	年まで文学部 心理こども学科																		
神戸学院大学	人文	人間心理	150	686	655	709	498	530	334	258	222	227	204	0.95	1.08	0.70	1.06	2.05	2.54	3.19	2.19	
	人間科学	心理	70	124	102	91	105	97	99	75	72	72	65	0.82	0.89	1.15	0.92	1.25	1.36	1.26	1.46	
	発達科学	心理	80	468	523	702	574	554	151	109	85	113	179	1.12	1.34	0.82	0.97	3.10	4.80	8.26	5.08	
	人間科学	心理	60	83	78	155	152	155	79	72	86	90	100	0.94	1.99	0.98	1.02	1.05	1.08	1.80	1.69	
	文	臨床・社会福祉	150	552	795	1026	1040	1188	252	278	383	361	308	1.44	1.29	1.01	1.14	2.19	2.86	2.68	2.88	
大阪樟蔭女子大学	心理	臨床心理	50	104	77	66	44	41	92	68	57	37	35	0.93	0.86	-	0.93	1.13	1.13	1.16	1.33	
	発達教育	発達教育	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.33	
	ビジネス心理	ビジネス心理	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.67	
	心理	臨床心理	100	253	253	203	178	256	124	129	112	118	162	1.00	0.80	0.88	1.44	2.04	1.96	1.81	1.51	
	人間関係	臨床心理	80	72	59	84	76	62	21	31	35	19	18	0.82	1.42	0.90	0.82	3.43	1.90	2.40	4.00	
奈良女子大学	社会	心理	76	161	191	135	135	130	114	102	92	93	85	1.19	0.71	1.00	0.96	1.41	1.87	1.47	1.45	
合計			6,814	30,135	30,095	29,937	27,868	28,042	7,105	7,082	7,843	7,020	7,022	1,007	0.99	0.93	1.01	4,24	4,25	3,82	3,97	
平均			148.1	861	836	768	680	701	203	197	201	171	176	0.97	0.92	0.89	1.03	4.24	4.25	3.82	3.97	

…設置なし
非…非公表

平成22年の大学進学率と現・高校2年生の生徒数

平成22年の大学進学率

	卒業者数	大学進学者数	進学率
大阪府	67,766	34,813	51.4%
京都府	22,209	14,869	67.0%
兵庫県	45,742	24,808	54.2%
滋賀県	12,092	7,123	58.9%
奈良県	12,063	7,219	59.8%
和歌山県	9,423	4,715	50.0%
合計	169,295	93,547	55.3%

現・2年生の生徒数

	生徒数	大学進学者(予想)	進学率
大阪府	72,640	37,317	51.4%
京都府	23,065	15,442	67.0%
兵庫県	9,106	4,939	54.2%
滋賀県	12,477	7,350	58.9%
奈良県	46,241	27,673	59.8%
和歌山県	9,548	4,778	50.0%
合計	173,077	95,637	55.3%

※2年生の進学率は、平成22年の各県の進学率を参考

※大学進学者数は予想値です。

出典：平成22年度 学校基本調査より

2008年度入試～2010年度入試 文学研究科教育学専攻 (臨床心理学領域) 志願・合格・入学

出身	2008				2009				2010				平均
	秋期	春期	合計		秋期	春期	合計		秋期	春期	合計		
本学 教育学専攻 以外	5	2	7		4	3	7		0	0	0		5
	0	1	1		2	2	4		0	0	0		2
	0	1	1		1	2	3		0	0	0		1
他大学	23	10	33		26	11	37		13	7	20		30
	7	4	11		6	3	9		6	4	10		10
	3	4	7		4	3	7		3	2	5		6
本学 教育学専攻	5	4	9		7	6	13		5	4	9		10
	1	0	1		1	4	5		0	3	3		3
	1	0	1		1	4	5		0	3	3		3

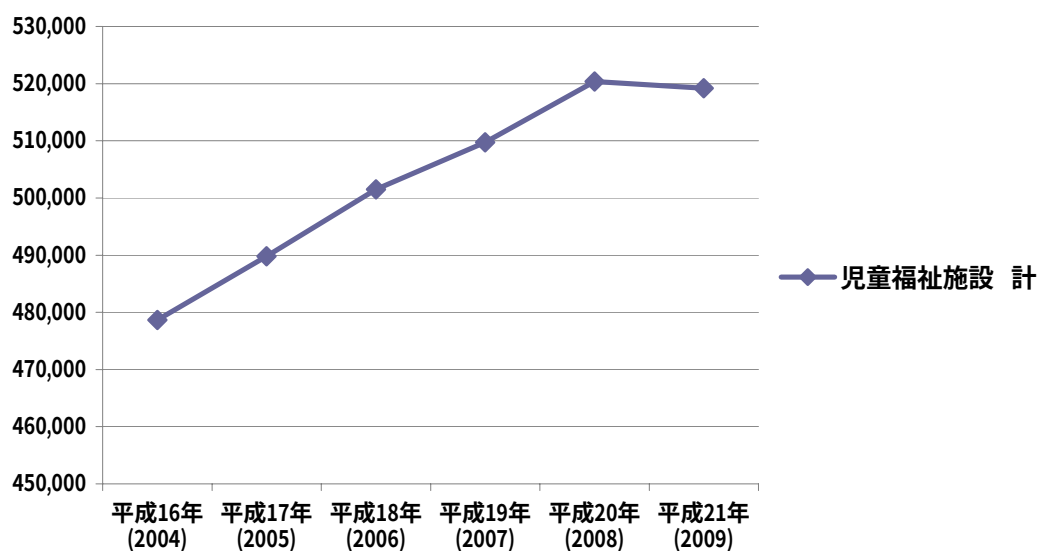
児童福祉施設の年次別常勤換算従事者数の推移

	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)
児童福祉施設 計	478,684	489,803	501,529	509,719	520,388	519,218
乳児院	3,511	3,594	3,755	3,831	3,831	3,883
母子生活支援施設	1,906	1,941	1,952	1,988	1,988	1,904
保育所	404,912	416,542	426,843	434,853	434,853	446,272
児童養護施設	13,853	14,069	14,280	14,641	14,641	14,848
知的障害児施設	7,461	7,191	7,187	6,600	6,600	6,157
自閉症児施設	521	522	518	270	270	309
知的障害児通園施設	4,534	4,629	4,417	4,592	4,592	4,534
盲児施設	146	143	159	137	137	118
ろうあ児施設	217	234	196	190	190	143
難聴幼児通園施設	301	307	297	310	310	288
肢体不自由児施設	4,927	4,584	4,462	4,674	4,674	3,783
肢体不自由児通園施設	1,546	1,575	1,517	1,571	1,571	1,674
肢体不自由児療護施設	201	223	193	200	200	162
重症心身障害児施設	14,087	14,326	14,631	15,297	15,297	15,385
情緒障害時短期治療	649	688	790	805	805	815
児童自立支援施設	1,749	1,769	1,793	1,799	1,799	1,717
児童家庭支援センター	133	148	154	177	177	188
児童館	17,082	17,319	17,592	17,785	17,785	17,038

前年増加率	—	102.3%	102.4%	101.6%	102.1%	99.8%
-------	---	--------	--------	--------	--------	-------

出典：厚生労働省

児童福祉施設数の推移

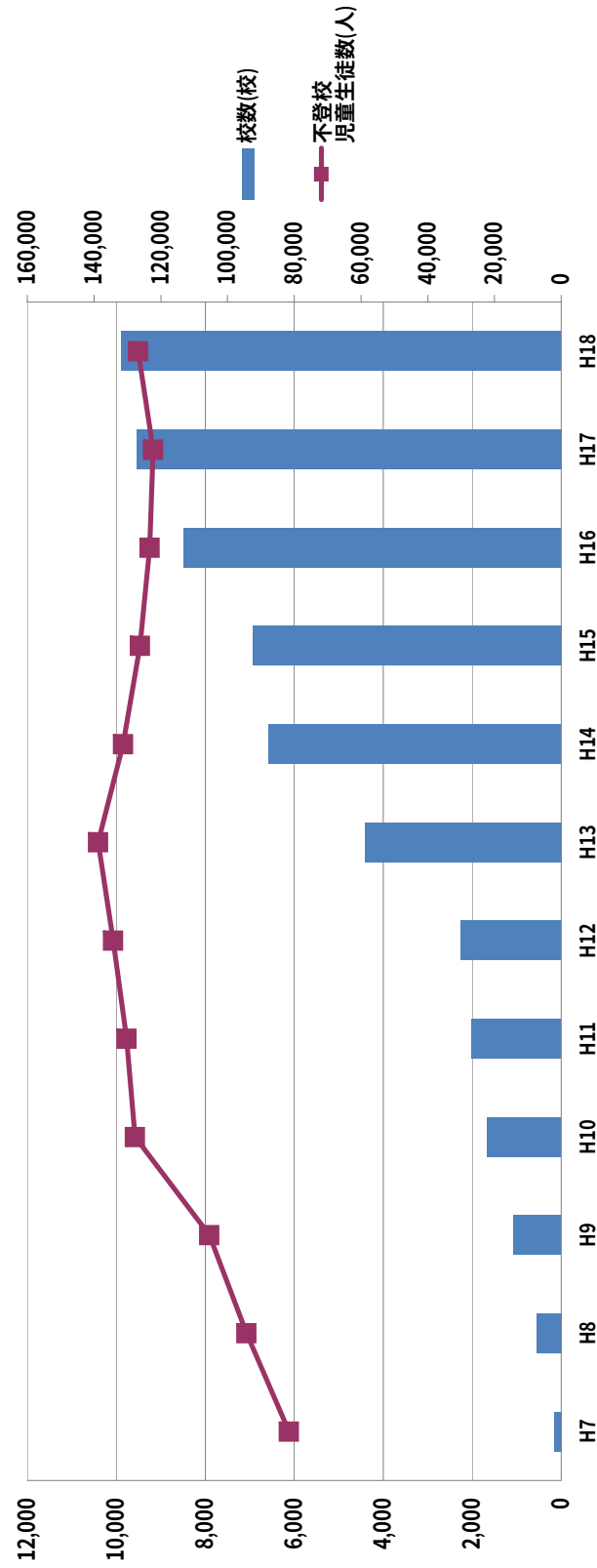


スクールカウンセラーの設置校数と不登校児童生徒数の推移

出典：文部科学省

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
校数(校)	154	553	1,065	1,661	2,015	2,250	4,406	6,572	6,941	8,485	9,547	9,878
不登校児童生徒数(人)	81,591	94,351	105,466	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358	122,255	126,764

スクールカウンセラー設置校数と不登校児童生徒数の推移

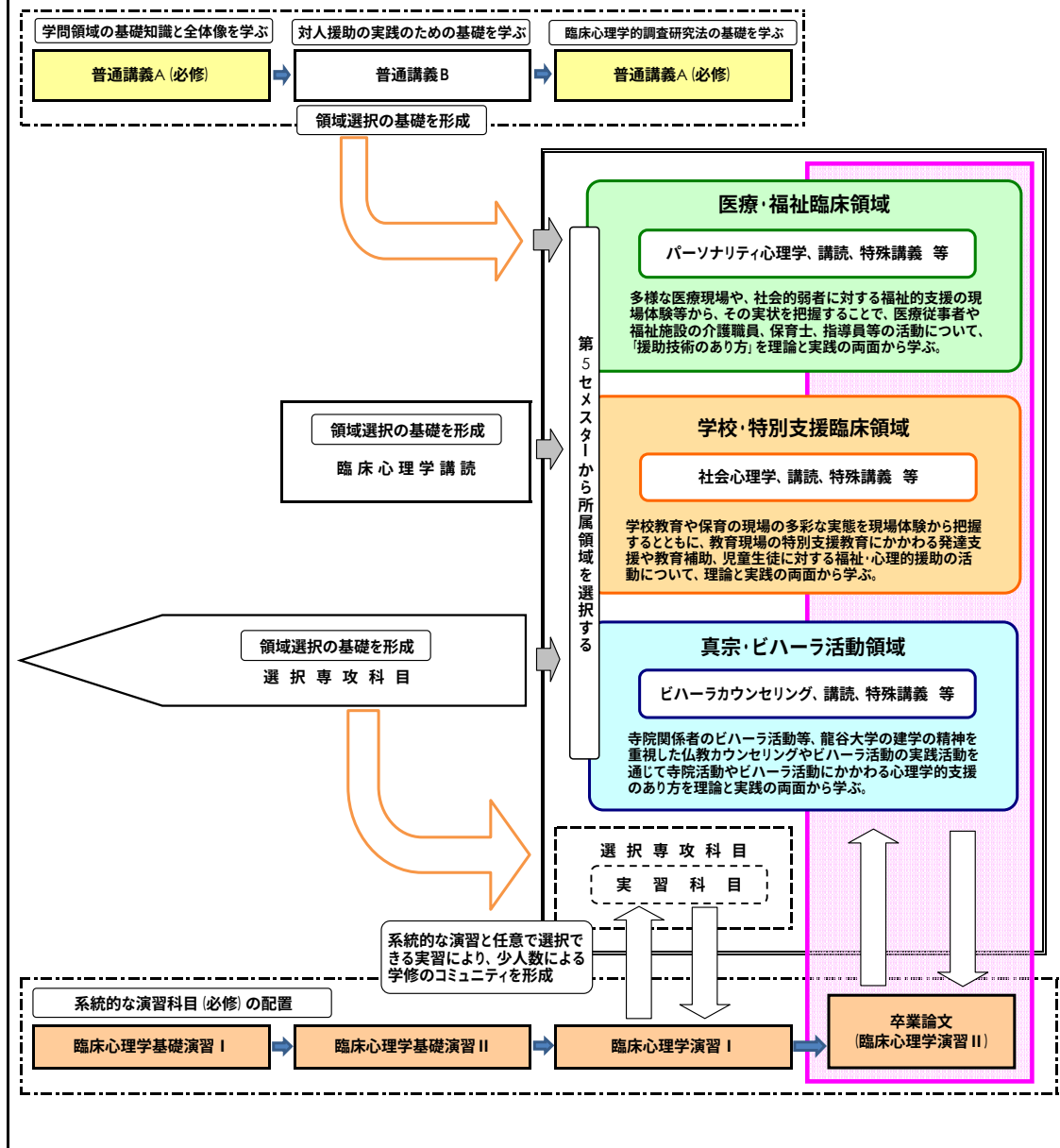


■文学部臨床心理学科 カリキュラム図

第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

教養教育科目

専攻科目



■文学部臨床心理学科 学科内領域構成一覧

各領域に配置される科目は次のとおり。

◎：当該領域の主たる科目、○：当該領域の学修に関係する科目

履修要件区分	授業科目名	領域		
		医療・福祉臨床領域	学校・特別支援臨床領域	真宗・ビハーラ活動領域
普通講義B	カウンセリング学A	◎	○	◎
	カウンセリング学B	◎	○	○
	障害児・者心理学	○	◎	
	対人援助概論	◎	◎	◎
講読	臨床心理学講読A (A)		○	◎
	臨床心理学講読A (B)		○	◎
	臨床心理学講読B (A)	○	◎	
	臨床心理学講読B (B)	○	◎	
	臨床心理学講読C (A)	◎	○	○
	臨床心理学講読C (B)	◎	○	○
	臨床心理学講読D (A)	○	◎	
	臨床心理学講読D (B)	○	◎	
	臨床心理学講読E (A)	○		◎
	臨床心理学講読E (B)	○		◎
	臨床心理学講読F (A)	◎	○	○
	臨床心理学講読F (B)	◎	○	○
特殊講義	臨床心理学特殊講義A (A)	◎	○	○
	臨床心理学特殊講義A (B)	◎	○	○
	臨床心理学特殊講義B (A)	○	◎	○
	臨床心理学特殊講義B (B)	○	◎	○
	臨床心理学特殊講義C (A)	○	◎	○
	臨床心理学特殊講義C (B)	○	◎	○
	臨床心理学特殊講義D (A)	○	◎	
	臨床心理学特殊講義D (B)	○	◎	
	臨床心理学特殊講義E (A)	○	○	◎
	臨床心理学特殊講義E (B)	○	○	◎
	臨床心理学特殊講義F (A)	◎		○
	臨床心理学特殊講義F (B)	◎		○
	臨床心理学特殊講義G (A)	○	◎	◎
	臨床心理学特殊講義G (B)	○	◎	◎
	臨床心理学特殊講義H (A)		◎	○
	臨床心理学特殊講義H (B)		◎	○
	臨床心理学特殊講義I (A)	◎	○	○
	臨床心理学特殊講義I (B)	◎	○	○
	臨床心理学特殊講義J (A)	○		◎
	臨床心理学特殊講義J (B)	○		◎
選択専攻科目	生理心理学A	◎	◎	○
	生理心理学B	◎	○	
	医療心理学概論	◎		
	仏教カウンセリング	○		◎
	真宗カウンセリング			◎
	特別支援教育方法論	○	◎	
	児童心理学		◎	
	パーソナリティ心理学A	◎	○	○
	パーソナリティ心理学B	◎		○
	社会心理学A	○	◎	○
	社会心理学B		◎	○
	家族心理学		○	◎
	コミュニティ心理学		◎	○
	ビハーラカウンセリング	○		◎
	心理学（実験実習）	◎	○	
	臨床心理学（実習）	○	◎	○
	臨床心理査定（実習）	◎		
	学校カウンセリング（実習）		◎	
	対人行動学（実習）	○	◎	◎
	対人援助学（実習）	◎	◎	◎
	心理調査・統計法B	◎	○	○

■臨床心理学科 科目区分別 開講科目一覧 (諸課程科目は除く)

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
教養教育科目		仏教の思想A〔必修〕	仏教の思想B〔必修〕						
		選択必修外国語							
		教養科目(プログラム科目)							
専攻科目	普通講義A	心理学概論A〔必修〕	心理学概論B〔必修〕			心理学研究法〔必修〕			
		臨床心理学概論A〔必修〕	臨床心理学概論B〔必修〕			心理調査・統計法A〔必修〕			
		発達心理学概論〔必修〕	対人行動学概論〔必修〕						
	普通講義B			カウンセリング学A	カウンセリング学B				
				障害児・者心理学	対人援助概論				
	講読			臨床心理学講読A〔A〕	臨床心理学講読A〔B〕	臨床心理学講読D〔A〕	臨床心理学講読D〔B〕		
				臨床心理学講読B〔A〕	臨床心理学講読B〔B〕	臨床心理学講読E〔A〕	臨床心理学講読E〔B〕		
				臨床心理学講読C〔A〕	臨床心理学講読C〔B〕	臨床心理学講読F〔A〕	臨床心理学講読F〔B〕		
	特殊講義					臨床心理学特殊講義A〔A〕	臨床心理学特殊講義A〔B〕		
						臨床心理学特殊講義B〔A〕	臨床心理学特殊講義B〔B〕		
						臨床心理学特殊講義C〔A〕	臨床心理学特殊講義C〔B〕		
						臨床心理学特殊講義D〔A〕	臨床心理学特殊講義D〔B〕		
						臨床心理学特殊講義E〔A〕	臨床心理学特殊講義E〔B〕		
						臨床心理学特殊講義F〔A〕	臨床心理学特殊講義F〔B〕		
						臨床心理学特殊講義G〔A〕	臨床心理学特殊講義G〔B〕		
						臨床心理学特殊講義H〔A〕	臨床心理学特殊講義H〔B〕		
						臨床心理学特殊講義I〔A〕	臨床心理学特殊講義I〔B〕		
						臨床心理学特殊講義J〔A〕	臨床心理学特殊講義J〔B〕		
	演習	臨床心理学基礎演習Ⅰ〔必修〕		臨床心理学基礎演習Ⅱ〔必修〕		臨床心理学演習Ⅰ〔必修〕		卒業論文(臨床心理学演習Ⅱ)〔必修〕	
	選択	生理心理学A	生理心理学B	仏教カウンセリング	真宗カウンセリング	パーソナリティ心理学A	パーソナリティ心理学B		
			医療心理学概論		特別支援教育方法論	社会心理学A	社会心理学B		
			コミュニティ心理学		児童心理学	ビハラーカウンセリング	家族心理学		
			キャリア形成論	社会学概論		心理学(実験実習)	学校カウンセリング(実習)		
						臨床心理学(実習)			
						臨床心理査定(実習)	対人援助学(実習)		
						対人行動学(実習)	心理調査・統計法B		
						法学概論			
						政治学原理			
						経済原論			

■臨床心理学科 科目区分別 開講科目一覧 (諸課程科目は除く)

[深草学舎]

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
教養教育科目		仏教の思想A〔必修〕	仏教の思想B〔必修〕						
		選択必修外国語							
		教養科目(プログラム科目)							
専攻科目	普通講義A	心理学概論A〔必修〕	心理学概論B〔必修〕						
		臨床心理学概論A〔必修〕	臨床心理学概論B〔必修〕						
		発達心理学概論〔必修〕	対人行動学概論〔必修〕						
	普通講義B			カウンセリング学A	カウンセリング学B				
				障害児・者心理学	対人援助概論				
	講読			臨床心理学講読A〔A〕	臨床心理学講読A〔B〕				
				臨床心理学講読B〔A〕	臨床心理学講読B〔B〕				
				臨床心理学講読C〔A〕	臨床心理学講読C〔B〕				
	特殊講義								
	演習	臨床心理学基礎演習Ⅰ〔必修〕		臨床心理学基礎演習Ⅱ〔必修〕					
	選択	生理心理学A	生理心理学B	仏教カウンセリング	真宗カウンセリング				
			医療心理学概論		特別支援教育方法論				
			コミュニティ心理学		児童心理学				
			キャリア形成論						

[大宮学舎]

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
教養教育科目						教養科目(プログラム科目)			
						心理学研究法〔必修〕			
専攻科目	普通講義A					心理調査・統計法A〔必修〕			
	講読					臨床心理学講読D〔A〕	臨床心理学講読D〔B〕		
						臨床心理学講読E〔A〕	臨床心理学講読E〔B〕		
						臨床心理学講読F〔A〕	臨床心理学講読F〔B〕		
	特殊講義					臨床心理学特殊講義A〔A〕	臨床心理学特殊講義A〔B〕		
						臨床心理学特殊講義B〔A〕	臨床心理学特殊講義B〔B〕		
						臨床心理学特殊講義C〔A〕	臨床心理学特殊講義C〔B〕		
						臨床心理学特殊講義D〔A〕	臨床心理学特殊講義D〔B〕		
						臨床心理学特殊講義E〔A〕	臨床心理学特殊講義E〔B〕		
						臨床心理学特殊講義F〔A〕	臨床心理学特殊講義F〔B〕		
						臨床心理学特殊講義G〔A〕	臨床心理学特殊講義G〔B〕		
						臨床心理学特殊講義H〔A〕	臨床心理学特殊講義H〔B〕		
						臨床心理学特殊講義I〔A〕	臨床心理学特殊講義I〔B〕		
						臨床心理学特殊講義J〔A〕	臨床心理学特殊講義J〔B〕		
	演習					臨床心理学演習Ⅰ〔必修〕		卒業論文(臨床心理学演習Ⅱ)〔必修〕	
	選択					パーソナリティ心理学A	パーソナリティ心理学B		
						社会心理学A	社会心理学B		
						ビハールカウンセリング	家族心理学		
						心理学(実験実習)	学校カウンセリング(実習)		
						臨床心理学(実習)			
						臨床心理査定(実習)	対人援助学(実習)		
						対人行動学(実習)	心理調査・統計法B		
				社会学概論		法学概論			
						政治学原理			
						経済原論			

■文学部臨床心理学科 履修モデル① 「医療・福祉臨床領域」

〔卒業後の進路〕 精神的・心理的なケアを行っている精神医療施設等の事務職や医療事務、各種の現場経験や実践講習を経て受験資格を得ることのできる介護やヘルパー等の高齢者支援職、高等学校「公民」教員、民間企業、社会福祉法人、大学院進学、公務員等。

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目		仏教の思想A (2)〔必修〕	仏教の思想B (2)〔必修〕							32
		選択必修外国語 (4)	選択必修外国語 (4)	選択必修外国語 (2)	選択必修外国語 (2)					
		教養科目 (4)	教養科目 (2)	教養科目 (6)	教養科目 (4)					
専攻科目	普通講義A	心理学概論A (2)〔必修〕	心理学概論B (2)〔必修〕			心理学研究法 (4)〔必修〕				18
		臨床心理学概論A (2)〔必修〕	臨床心理学概論B (2)〔必修〕			心理調査・統計法A (2)〔必修〕				
		発達心理学概論 (2)〔必修〕	対人行動学概論 (2)〔必修〕							
	普通講義B			カウンセリング学A (2)	カウンセリング学B (2)					8
				障害児・者心理学 (2)	対人援助概論 (2)					
	講読			臨床心理学講読C (A) (2)	臨床心理学講読C (B) (2)	臨床心理学講読F (A) (2)	臨床心理学講読F (B) (2)			8
	特殊講義					臨床心理学特殊講義A (A) (2)	臨床心理学特殊講義A (B) (2)			12
						臨床心理学特殊講義F (A) (2)	臨床心理学特殊講義F (B) (2)			
						臨床心理学特殊講義I (A) (2)	臨床心理学特殊講義I (B) (2)			
	演習	臨床心理学基礎演習 I (4)〔必修〕		臨床心理学基礎演習 II (4)〔必修〕		臨床心理学演習 I (4)〔必修〕		卒業論文 (臨床心理学演習 II) (8)〔必修〕		20
	選択		医療心理学概論 (2)	生理心理学A (2)	生理心理学B (2)	対人行動学 (実習) (1)	対人援助学 (実習) (1)			26
			キャリア形成論 (2)	仏教カウンセリング (2)	特別支援教育方法論 (2)	パーソナリティ心理学A (2)	パーソナリティ心理学B (2)			
						心理学 (実験実習) (1)	心理調査・統計法B (2)			
						社会心理学A (2)				
						臨床心理査定 (実習) (1)				
						臨床心理学 (実習) (2)				
修得単位数		18	20	20	18	22	18	8	124	

■文学部臨床心理学科 履修モデル② 「学校・特別支援臨床領域」

〔卒業後の進路〕 高等学校「公民」教員、特別支援教育の補助的支援職員、児童養護施設・情緒障がい児施設等の「児童養護関連施設」における生活指導員（心理職を除く）、児童指導員（心理職を除く）、民間企業、大学院進学、公務員等。

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目		仏教の思想A (2) [必修]	仏教の思想B (2) [必修]							32
		選択必修外国語 (4)	選択必修外国語 (4)	選択必修外国語 (2)	選択必修外国語 (2)					
		教養科目 (4)	教養科目 (2)	教養科目 (6)	教養科目 (4)					
専攻科目	普通講義A	心理学概論A (2) [必修]	心理学概論B (2) [必修]			心理学研究法 (4) [必修]				18
		臨床心理学概論A (2) [必修]	臨床心理学概論B (2) [必修]			心理調査・統計法A (2) [必修]				
		発達心理学概論 (2) [必修]	対人行動学概論 (2) [必修]							
	普通講義B			カウンセリング学A (2)						6
				障害児・者心理学 (2)	対人援助概論 (2)					
	講読			臨床心理学講読B (A) (2)	臨床心理学講読B (B) (2)	臨床心理学講読D (A) (2)	臨床心理学講読D (B) (2)			8
	特殊講義					臨床心理学特殊講義B (A) (2)	臨床心理学特殊講義B (B) (2)			12
						臨床心理学特殊講義C (A) (2)	臨床心理学特殊講義C (B) (2)			
						臨床心理学特殊講義D (A) (2)	臨床心理学特殊講義D (B) (2)			
	演習	臨床心理学基礎演習 I (4) [必修]		臨床心理学基礎演習 II (4) [必修]		臨床心理学演習 I (4) [必修]		卒業論文 (臨床心理学演習 II) (8) [必修]		20
	選択	生理心理学A (2)	コミュニティ心理学 (2)		特別支援教育方法論 (2)	対人行動学 (実習) (1)	対人援助学 (実習) (1)			28
			キャリア形成論 (2)		児童心理学 (2)	心理学 (実験実習) (1)	家族心理学 (2)			
					生理心理学B (2)	社会心理学A (2)	社会心理学B (2)			
							学校カウンセリング (実習) (1)			
						臨床心理学 (実習) (2)				
						パーソナリティ心理学A (2)	心理調査・統計法B (2)			
修得単位数		20	20	16	18	21	21	8	124	

■文学部臨床心理学科 履修モデル③「真宗・ビハーラ活動領域」

〔卒業後の進路〕寺院、高等学校「公民」教員、民間企業、NPO法人職員、大学院進学、公務員等。

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目		仏教の思想A (2) [必修]	仏教の思想B (2) [必修]							32
		選択必修外国語 (4)	選択必修外国語 (4)	選択必修外国語 (2)	選択必修外国語 (2)					
		教養科目 (4)	教養科目 (2)	教養科目 (4)	教養科目 (6)					
専攻科目	普通講義A	心理学概論A (2) [必修]	心理学概論B (2) [必修]			心理学研究法 (4) [必修]				18
		臨床心理学概論A (2) [必修]	臨床心理学概論B (2) [必修]			心理調査・統計法A (2) [必修]				
		発達心理学概論 (2) [必修]	対人行動学概論 (2) [必修]							
	普通講義B			カウンセリング学A (2)	カウンセリング学B (2)					6
					対人援助概論 (2)					
	講読			臨床心理学講読A (A) (2)	臨床心理学講読A (B) (2)	臨床心理学講読E (A) (2)	臨床心理学講読E (B) (2)			8
	特殊講義					臨床心理学特殊講義E (A) (2)	臨床心理学特殊講義E (B) (2)			16
						臨床心理学特殊講義G (A) (2)	臨床心理学特殊講義G (B) (2)			
						臨床心理学特殊講義H (A) (2)	臨床心理学特殊講義H (B) (2)			
						臨床心理学特殊講義I (A) (2)	臨床心理学特殊講義I (B) (2)			
	演習	臨床心理学基礎演習 I (4) [必修]		臨床心理学基礎演習 II (4) [必修]		臨床心理学演習 I (4) [必修]		卒業論文 (臨床心理学演習 II) (8) [必修]		20
	選択		コミュニティ心理学 (2)	仏教カウンセリング (2)	真宗カウンセリング (2)	社会心理学A (2)	社会心理学B (2)			24
				生理心理学A (2)		ビハーラカウンセリング (2)	対人援助学 (実習) (1)			
						パーソナリティ心理学A (2)	パーソナリティ心理学B (2)			
						対人行動学 (実習) (1)	家族心理学 (2)			
							心理調査・統計法B (2)			
修得単位数		18	18	16	18	23	23	8		124

■文学部臨床心理学科 編転入学生用履修モデル① 「医療・福祉臨床領域」

〔既修得単位の認定〕 教養教育科目56単位、専攻科目8単位（臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ）、専攻科目は臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ以外は認定せず編入後に履修する。

〔卒業後の進路〕 精神的・心理的なケアを行っている精神医療施設等の事務職や医療事務、各種の現場経験や実践講習を経て受験資格を得ることのできる介護やヘルパー等の高齢者支援職、高等学校「公民」教員、民間企業、社会福祉法人、大学院進学、公務員等。

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目										—
専攻科目	普通講義A					心理学概論A (2)〔必修〕	心理学概論B (2)〔必修〕	心理学研究法 (4)〔必修〕		18
						臨床心理学概論A (2)〔必修〕	臨床心理学概論B (2)〔必修〕	心理調査・統計法A (2)〔必修〕		
						発達心理学概論 (2)〔必修〕	対人行動学概論 (2)〔必修〕			
	普通講義B					カウンセリング学A (2)	対人援助概論 (2)			4
	講読					臨床心理学講読C (A) (2)	臨床心理学講読C (B) (2)			4
	特殊講義					臨床心理学特殊講義A (A) (2)	臨床心理学特殊講義A (B) (2)	臨床心理学特殊講義F (A) (2)	臨床心理学特殊講義F (B) (2)	8
	演習					臨床心理学演習Ⅰ (4)〔必修〕		卒業論文 (臨床心理学演習Ⅱ) (8)〔必修〕		12
	選択					対人行動学 (実習) (1)	対人援助学 (実習) (1)			14
					パーソナリティ心理学A (2)	パーソナリティ心理学B (2)				
					心理学 (実験実習) (1)	医療心理学概論 (2)				
					生理心理学A (2)	生理心理学B (2)				
					臨床心理査定 (実習) (1)					
修得単位数		—	—	—	—	21	21	10	8	60

■文学部臨床心理学科 編転入学生用履修モデル② 「学校・特別支援臨床領域」

(既修得単位の認定) 教養教育科目56単位、専攻科目8単位 (臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ)、専攻科目は臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ以外は認定せず編入後に履修する。

(卒業後の進路) 高等学校「公民」教員、特別支援教育の補助的支援職員、児童養護施設・情緒障がい児施設等の「児童養護関連施設」における生活指導員 (心理職を除く)、児童指導員 (心理職を除く)、民間企業、大学院進学、公務員等。

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目										-
専攻科目	普通講義A					心理学概論A (2) [必修]	心理学概論B (2) [必修]	心理学研究法 (4) [必修]		18
						臨床心理学概論A (2) [必修]	臨床心理学概論B (2) [必修]	心理調査・統計法A (2) [必修]		
						発達心理学概論 (2) [必修]	対人行動学概論 (2) [必修]			
	普通講義B					障害児・者心理学 (2)	対人援助概論 (2)			4
	講読					臨床心理学講読B (A) (2)	臨床心理学講読B (B) (2)			4
	特殊講義					臨床心理学特殊講義B (A) (2)	臨床心理学特殊講義B (B) (2)	臨床心理学特殊講義D (A) (2)	臨床心理学特殊講義D (B) (2)	12
						臨床心理学特殊講義C (A) (2)	臨床心理学特殊講義C (B) (2)			
	演習					臨床心理学演習Ⅰ (4) [必修]		卒業論文 (臨床心理学演習Ⅱ) (8) [必修]		12
	選択					対人行動学 (実習) (1)	対人援助学 (実習) (1)			10
						心理学 (実験実習) (1)	児童心理学 (2)			
					生理心理学A (2)	学校カウンセリング (実習) (1)				
						特別支援教育方法論 (2)				
修得単位数		-	-	-	-	20	22	10	8	60

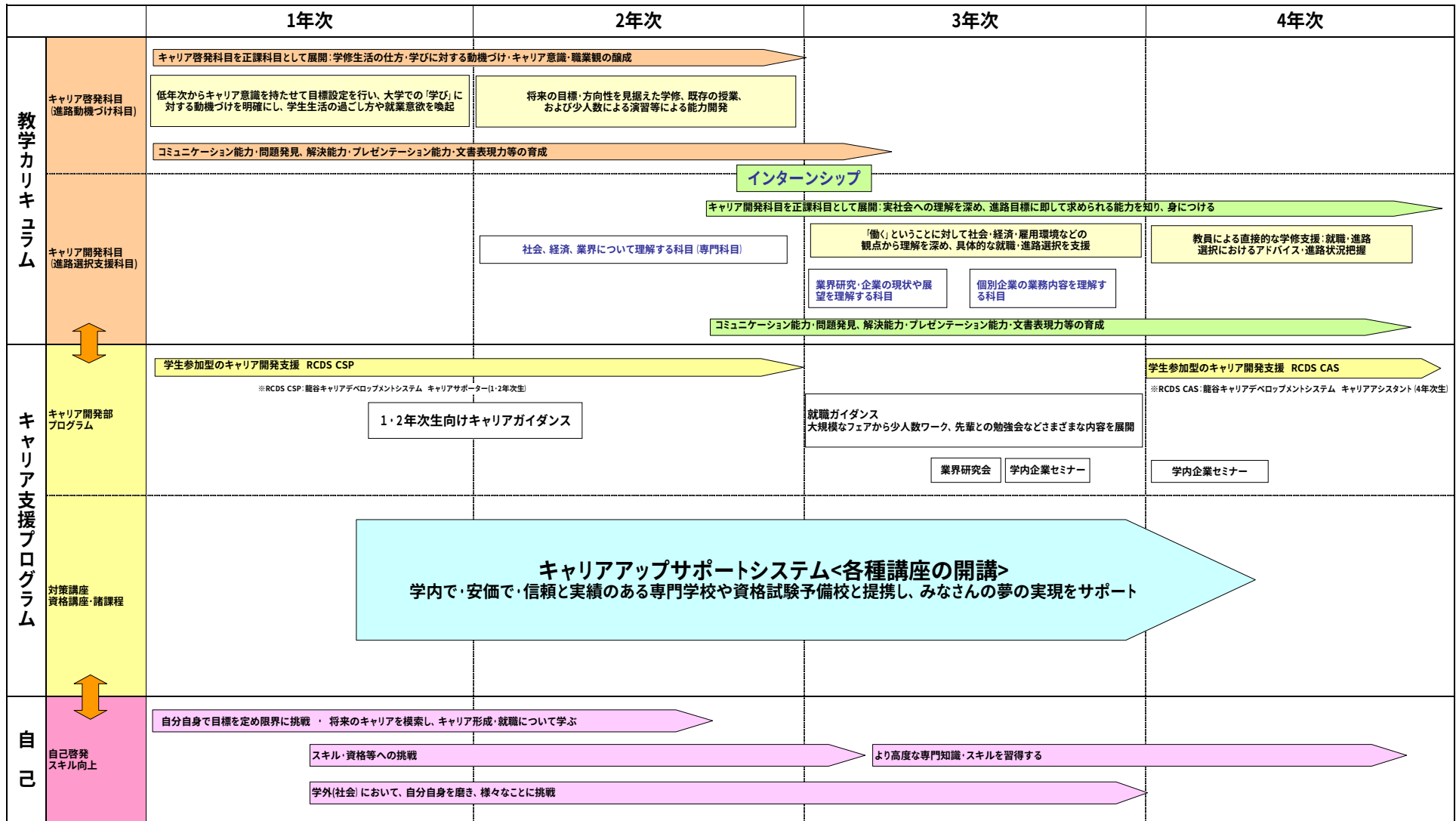
■文学部臨床心理学科 編転入学生用履修モデル③ 「真宗・ビハーラ活動領域」

〔既修得単位の認定〕教養教育科目56単位、専攻科目8単位（臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ）、専攻科目は臨床心理学基礎演習Ⅰ、Ⅱ以外は認定せず編入後に履修する。

〔卒業後の進路〕寺院、高等学校「公民」教員、民間企業、NPO法人職員、大学院進学、公務員等。

		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目										-
専攻科目	普通講義A					心理学概論A (2)〔必修〕	心理学概論B (2)〔必修〕	心理学研究法 (4)〔必修〕		18
						臨床心理学概論A (2)〔必修〕	臨床心理学概論B (2)〔必修〕	心理調査・統計法A (2)〔必修〕		
						発達心理学概論 (2)〔必修〕	対人行動学概論 (2)〔必修〕			
	普通講義B					カウンセリング学A (2)	対人援助概論 (2)			4
	講読					臨床心理学講読A (A) (2)	臨床心理学講読B (B) (2)			4
	特殊講義					臨床心理学特殊講義E (A) (2)	臨床心理学特殊講義E (B) (2)	臨床心理学特殊講義H (A) (2)	臨床心理学特殊講義H (B) (2)	12
						臨床心理学特殊講義G (A) (2)	臨床心理学特殊講義G (B) (2)			
	演習					臨床心理学演習Ⅰ (4)〔必修〕		卒業論文(臨床心理学演習Ⅱ) (8)〔必修〕		12
	選択					仏教カウンセリング (2)	真宗カウンセリング (2)			10
						ビハーラカウンセリング (2)	対人援助学 (実習) (1)			
					対人行動学 (実習) (1)	家族心理学 (2)				
修得単位数		—	—	—	—	21	21	10	8	60

■龍谷大学キャリア開発支援体系図



■職員定年規程

制定：昭和54年2月9日

第1条 この規程は、「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき、本学専任職員の定年について規定する。

第2条 教育職員の定年は、教授については満68歳とし、准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。

2 事務職員の定年は、満65歳とする。

第3条 定年による退職期日は、定年に達した当該年度末とする。

第4条 退職手当の支給については、別に定める。

付 則

- 1 この規程は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、将来の情勢の推移を考慮して、施行の年度から10年以内に再検討するものとする。
- 2 「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付 則（昭和62年5月19日第2条第2項、第3項改正・追加）

この規程は、昭和62年5月19日から施行する。

付 則（昭和63年1月13日第2条改正）

この規程は、昭和63年1月13日から施行する。

付 則（平成4年1月16日題名改正）

この規程は、平成4年1月16日から施行する。

<参考>

（評議会議事録に次の事項を記載する）

龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程（制定昭和62年5月19日）に規定する「教育研究上の特別な事情」とは、新学部を設置を意味するものとする。また、第2条第2項は、昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付 則（平成16年3月25日第2条改正）

この規程は、平成16年3月25日から施行する。

付 則（平成19年2月22日第2条改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

■特別任用教員規程

制定：昭和58年4月1日

（目的）

第1条 龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）の教育・研究の向上をはかるために特別任用教員を置く。

2 前項の任用，服務，給与，諸手当等については，別に定める場合を除いて，この規程の定めるところによる。

（資格・義務）

第2条 特別任用教員とは，教学上特に必要と認められた者で，給与及び諸手当，定年の適用について特別の取扱いをすることを条件として採用された，次の各号に該当する者をいう。

(1) 本学の教育方針に賛同し，学部教授会又は大学院研究科委員会が，教育研究遂行上必要と認める者で，教授たる資格を有する者。ただし，現に本学専任教員として在籍する者及び本学を定年退職した者を除く。

(2) 本学を定年退職した者で，大学院研究科委員会が大学院の講義編成上特に必要と認める者。

(3) 本学の教育方針に賛同し，学部教授会が，講義編成上特に必要と認める者で，教授，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む）たる資格を有する者。

(4) 本学の教育方針に賛同し，法務研究科教授会が，教育研究上必要と認める者で，教授たる資格を有する者。

(5) 再雇用制度の利用を申し出た者。

2 特別任用教員は，本学以外の学校の専任教員となることはできない。

3 特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）は，授業及び研究に関して教授会又は大学院研究科委員会に意見を述べることができる。

（任用）

第3条 特別任用教員としての任用及び特別任用教員の勤務条件については，当該教員の所属すべき教授会の議を経て，学長の進達により理事長が決定する。

2 特別任用教員に任用される者は，特別任用教員就任承諾書（別記様式）を，学長に提出しなければならない。

（任用期限・任用期間）

第4条 第2条第1項第1号，第2号及び第4号の特別任用教員の任用期間は3年とし，その任用期限は，満70歳に達した年度末までとする。ただし，教授会が必要と認める場合には，任用期間終了後も任用期限まで，3年ごとの任用期間の更新を行うことができる。

2 前項の規定にかかわらず，当該特別任用教員が所属する大学院研究科委員会又は法務研究科教授会が必要と認める場合，2年以内に限り任用期限を延長することができる。

3 第2条第1項第3号の特別任用教員の任用期間は3年とし，その任用期限は，教授にあっては満70歳，准教授，講師，助教及び助手にあっては満65歳に達した年度末までとする。ただし，教授会が必要と認める場合には，任用期間終了後も任用期限まで，3年ごとの任用期間の更新を行うことができる。

4 第2条第1項第5号の特別任用教員の任用期間は3年とし，その任用期限は，教授にあっては満68歳，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む）にあっては満65歳に達した年度末までとする。

（職務）

第5条 特別任用教員は，授業・研究・学生指導に従事することをその職務とする。

- 2 第2条第1項第1号及び第2号の特別任用教員の授業時間数は1週3コマ（6時間）とする。
- 3 第2条第1項第3号及び第5号の特別任用教員の授業担当時間数は「専任教員の担当授業時間数に関する基準」を準用する。ただし、別表の給与表において「特0」の支給を受ける特別任用教員の授業担当時間数は1週3コマ（6時間）とする。なお、実験・実習講師及び実験・実習助手の職務については別に定める。
- 4 第2条第1項第4号の特別任用教員の授業時間数は1週4コマ（8時間）とする。ただし、別表の給与表において「特Ⅱ」の支給を受ける特別任用教員の授業担当時間数は1週3コマ（6時間）とする。

（給与）

第6条 特別任用教員の給与は、別表の給与表により支給する。

- 2 給与表における等級・号俸の決定は、勤務条件・年齢・身分等を考慮して、当該教員所属教授会又は大学院研究科委員会の申請により、学長がこれを決定する。ただし、別表の給与表中、「特Ⅳ」の支給を受けることができる者は、第2条第1項第4号の特別任用教員に限る。
- 3 授業担当時間数が前条第2項、第3項及び第4項の時間数をこえる場合は、別に分担外手当を支給する。

（諸手当）

第7条 特別任用教員に、期末手当のほか給与規程の定めによる扶養家族手当、住宅手当、通勤手当を支給する。

- 2 期末手当は、前条第1項に規定する基本給及び扶養家族手当並びに分担外手当を支給の基礎とし、上半期手当1.5カ月分、下半期手当1.5カ月分を支給する。
- 3 分担外手当は、教授29,300円、准教授27,300円、講師・助教26,200円をそれぞれ支給する。

（帰国旅費）

第7条の2 海外から着任した特別任用教員で、大学が認めた時、部局長会の議を経て帰国旅費を支給する場合がある。

旅費の支給基準は、関西国際空港までは「国内旅費規程」（グリーン料金は支給しない）を準用し、関西国際空港から最寄りの空港まではエコノミーの実費とする。

（退職手当）

第8条 特別任用教員には、任用期間終了時に退職手当を支給する。任用期間終了時とは、本学の特別任用教員でなくなる時をいう。

- 2 前項の算定基準は、最終月の本俸月額×勤務年数×0.5とする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、第12条によって懲戒解雇となった者には、退職手当を支給しない。

（解雇予告手当）

第9条 第12条に基づき解雇する場合は、30日前に予告するか、又は30日分の平均賃金を支給する。ただし、懲戒解雇の場合で行政監督庁の認定を受けたときは、この限りではない。

（教育研究費・個人研修費）

第10条 特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）の教育研究費は、別に定める基準により支給する。

- 2 実験・実習講師及び実験・実習助手の個人研修費は、別に定める基準により支給する。

（社会保険）

第11条 特別任用教員については、日本私立学校振興・共済事業団の加入者となることができる。

(懲戒)

第12条 特別任用教員の懲戒に関する事項については、「学校法人龍谷大学就業規則」第5条第3項、第59条、第60条及び第61条の規定を準用する。

付 則

- 1 この規程は、昭和58年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により、「特任教員規程」(昭和47年4月1日制定)に基づく任用者の契約事由が消滅した後は、同規程による新たな任用は行わない。
- 3 この規程の施行により、「特任教員規程」(昭和47年4月1日制定)は、昭和60年3月31日付をもって廃止する。

付 則(昭和59年3月10日第4条改正)

この規程は、昭和59年3月10日から施行する。

付 則(昭和63年7月21日第1条～第6条、第8条、第9条、別表改正)

- 1 この規程は、昭和64年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により、施行日に継続中の特別任用教員の第8条第2項の算定基準は別に定める。

付 則(平成2年3月15日第4条第1項、同条第3項改正)

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

付 則(平成3年3月7日第7条改正)

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

付 則(平成10年7月9日第10条改正)

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

付 則(平成11年3月4日第8条改正)

この規程は、平成11年3月4日から施行する。

付 則(平成13年3月1日第7条の2新設)

この規程は、平成13年3月1日から施行する。

付 則(平成13年6月21日第2条、第4条～第6条、別表、別記様式改正)

この規程は、平成13年6月21日から施行する。

付 則(平成14年12月5日第2条、第4条～第6条、第9条、別表、別記様式改正)

この規程は、平成14年12月5日から施行する。

なお、この規程にある英語教育特任講師に関する事項は、実施後3年間までとし、見直しを含め検討する。

付 則(平成16年1月15日第7条、別表改正)

- 1 この規程は、制定日から施行し、平成16年1月1日から適用する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第7条の改正規定については、平成15年10月1日から適用する。

付 則(平成16年3月25日第2条、第4条、第5条、別表、別記様式改正)

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

付 則(平成17年3月10日第2条、第4条、第5条、別表、別記様式改正)

- 1 この規程は、平成17年3月10日から施行する。
- 2 この規程において、大学院法務研究科が開設されるまでは、法務研究科教授会を法科大

学院設置委員会に読み替えるものとする。

付 則（平成19年3月8日第2条，第4条，第5条～第7条，第9条，別表改正）

- 1 この規程は，平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にともない，従前の助教授は，この規程による准教授になるものとする。
- 3 この規程の施行にともない，英語教育特任講師に関する細則（制定 平成14年12月12日）は廃止する。

付 則（平成20年7月24日第8条改正，第11条新設）

この規程は，平成20年7月24日から施行する。

付 則（平成21年2月20日第8条改正，旧第9条，旧第10条，旧第11条繰下，第9条新設）

この規程は，平成21年2月20日から施行する。

別表（第6条関係）

特別任用教員給与表

等級 号俸	I 教授	II 准教授	III 講師・助教・ 助手	IV 実験・実験講 師及び実験・実習 助手	適用条項
特0	教育職員 I 等級47号俸の 40%				第2条第1項第3号のうち， 大学の事情により特に就 任を要請した者
特I	教育職員 I 等級47号俸の 50%	教育職員 II 等級35号俸の 50%	教育職員 III 等級21号俸の 50%	教育職員 VI 等級16号俸の 50%	第2条第1項第3号及び第5 号
特II	教育職員 I 等級47号俸の 60%				第2条第1項第1号及び第2 号のうち，主として大学院 の講義を担当する者又は 同条同項第4号のうち，1週 3コマ（6時間）担当の者
特III	教育職員 I 等級47号俸の 70%				第2条第1項第1号及び第2 号のうち，大学の事情によ り特に就任を要請した者
特IV	教育職員 I 等級47号俸の 80%				第2条第1項第4号のうち，1 週4コマ（8時間）担当の者

別記様式（第3条関係）

特別任用教員就任承諾書

私は，龍谷大学〇〇〇（短期大学部を含む）学部の特任任用教員として，〇〇年〇〇月〇〇日から，〇〇年〇〇月〇〇日まで就任することを承諾いたします。

〇〇年〇〇月〇〇日

龍谷大学
学長 殿

署名 捺印